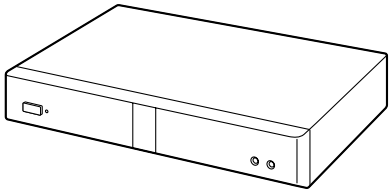
Panasonic



取扱説明書

HD映像コミュニケーションユニット

品番 KX-VC1300J/KX-VC1600J

保証書別添付　技術基準適合認証品

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

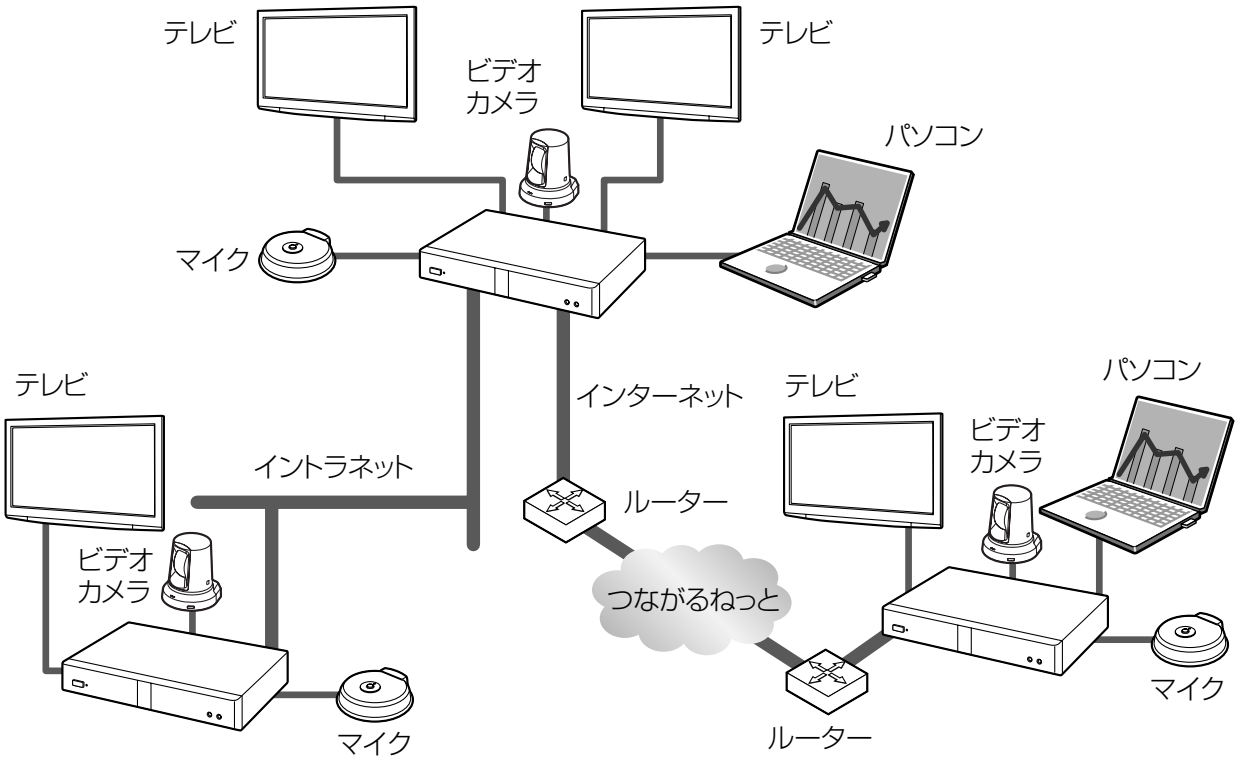
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（11～14ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

KX-VC1300J/KX-VC1600J: ソフトウェアバージョン　4.00以上

- デュアルネットワーク機能は、後日対応予定です（KX-VC1600Jのみ）。

はじめに

HD映像コミュニケーションユニットの特長



臨場感あふれるビデオ会議システム

なめらかな動きと高画質映像、クリアなステレオ[*1] 音声で臨場感あふれるビデオ会議を行うことができます。

[*1] 専用デジタルマイクを2台以上接続した場合、ステレオにするためには別途設定が必要です（112 ページ）。専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合など、接続の状態によっては、専用マイクの出力がモノラルになる場合があります（29 ページ、30 ページ）。

AV機器感覚のリモコン操作、シンプルでわかりやすいGUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）

AV機器感覚で操作できる付属のリモコンとシンプルでわかりやすいGUIで、操作や設定を行うことができます。

安定した通信品質

ネットワークの混み具合に応じて、自動的にパケットの送信レートを制御するなどの品質制御機能を使用し、パケット損失を抑えることで映像と音声の乱れを防ぐことができます。これにより、インターネット回線またはモバイル回線でも安定した通信品質でビデオ会議を行うことができます。

デュアルストリーム（2画面）対応

自分側のビデオカメラの映像と同時にＰＣまたはサブカメラの映像を相手拠点に送信することができます。相手側の様子と共有データを同時に確認することができ、より臨場感のある会議をすることができます。

デュアルネットワーク対応（KX-VC1600Jのみ）

社内ネットワークまたはインターネット回線などの異なるネットワークを同時に接続することにより、社内と社外の端末などをシームレスに接続することができます。

多地点接続

内蔵MCUを搭載しKX-VC1300Jでは最大4地点、KX-VC1600Jでは標準で6地点（拡張機能で最大10地点まで）の多地点通信が可能です。すべての機器がMCU機能を内蔵していますので、フレキシブルな接続が可能となります。

お知らせ

- 本書では、内蔵MCUを使用して１台で同時に複数の拠点と接続する拠点を「親拠点」、親拠点に接続する拠点を「子拠点」と記載しています。プロファイル発信（52 ページ）で複数拠点と通信が成立した拠点や、2地点通信中に相手拠点を追加した拠点（65 ページ）が「親拠点」になります。

コンテンツの共有

お手持ちのパソコンやビデオカメラを本体に接続することで、パソコンの画面やビデオカメラの映像をビデオ会議参加者間で共有することができます（77 ページ）。

暗号通信

パケットを暗号処理することで、パケットの漏えいによるビデオ会議の内容の盗聴や改ざんを防ぐことができます。

つながるねっとサービス

「つながるねっとサービス」は簡単で、経済的なHD映像コミュニケーションユニットの通信環境を構築し、運用できるサービスです。[*1] 複雑なルーター設定が不要なため、ネットワーク管理者以外のお客様も簡単に通信環境を構築できます。また、お客様専用の番号を設定でき、従来のIPアドレスではなく専用の7桁の番号あてに発信できるため、電話をかける感覚で簡単に通信が可能です。暗号通信にも対応しており、インターネット回線でも安全に通信を行うことができます。

「つながるねっとサービス」の詳細については、以下のホームページを参照してください。
http://panasonic.biz/com/visual/tsunagaru/

[*1] ルーターの種類やお客様のインターネット回線の環境によってはご利用できない場合があります。詳細については、販売店にお問い合わせください。

SIPサーバー経由で発信

SIPサーバーを経由することで、IPアドレスだけではなくSIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）でも通信を行うことができます。相手が自分と同じSIPドメイン名を設定していればSIPユーザー名だけでお互いに発信ができます。 利用できるSIPサーバーについては、販売店にお問い合わせください。

H.323ゲートキーパー経由で発信

H.323ゲートキーパーを経由すると、IPアドレスだけでなくH.323内線番号またはH.323名でも通信することができます。利用できるゲートキーパーについては、販売店にお問い合わせください。

アクティベーションキーによる機能拡張

別売のアクティベーションキーにより、本機の機能をアップグレードすることができます（19 ページ）。これにより、つながるねっとサービスに加入したり、KX-VC1600Jをご使用の場合は、10拠点までの多地点接続が可能となります。

リモコンでビデオカメラをリモート操作

リモコンで自分側のビデオカメラの向きを上下左右に動かしたり、ズームして映像を拡大・縮小することができます（80 ページ）。 操作後のビデオカメラの向きやズーム倍率を最大9パターンまで登録（プリセット登録）しておくこともできるので、登録内容を呼び出して簡単にビデオカメラの向きやズーム倍率を変更することができます（83 ページ、85 ページ）。また、お手元のリモコンから通信相手側のビデオカメラを操作することもできます。[*1]

[*1] 相手側のビデオカメラを操作するには、相手側での設定が別途必要です（115 ページ）。

商標および登録商標について

- HDMIは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。
- Polycom®は、Polycom, Inc.の米国およびその他の国における商標です。
- Microsoft、WindowsおよびInternet Explorer は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MozillaとFirefoxはMozilla Foundationの登録商標です。
- 本書に記載の会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

ライセンスについて

- 本製品は、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、以下に記載する行為に係るお客様の個人的又は非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
  i. 画像情報をAVC規格に準拠して（以下、AVCビデオ）記録すること。
  ii. 個人的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオ、または、ライセンスを受けた提供者から入手したAVCビデオを再生すること。
  詳細についてはMPEG LA, LLCホームページ（http://www.mpegla.com）をご参照ください。
- 本製品は、Polycom®によってライセンスされたG.722.1とG.722.1 Annex Cを使用しています。
- 本製品はDigia社によってライセンスされたQtライブラリを使用しています。本製品をお使いになる前に、本製品システム設定の**「使用許諾契約」**をお読みください。

オープンソースについて

この製品には、フリーソフトウェア財団のGPL、LGPL、およびその他の条件に基づいたオープンソースソフトウェアを使用しています。関連する条件はこのソフトウェアに適用されます。そのため、本製品をお使いになる前に、GPLやLGPLのライセンス情報、本製品システム設定の**「ライセンス情報」**をお読みください。 また、本製品の一部のソフトウェアは、MOZILLA PUBLIC LICENSE社（MPL）の認可を受けています。GPL、LGPL、およびMPLの条件のもとで認可されたソースコードは公開されています。これらのソフトウェアについては保証の範囲外となりますので、あらかじめご了承ください。
製品販売後、少なくとも3年間、パナソニック株式会社はコンタクトしてきた個人・団体に対し、GPL/LGPL/MPL の利用許諾条件の下、実費にて、 GPL/LGPL/MPL ソフトウェアに対応する、機械により読み取り可能な完全なソースコード、および著作権表示のリストを頒布します。
上記記載内容へのお問い合わせや関連するソースコードの入手方法については、以下のホームページにあるお問い合わせフォームまたは巻末の電話番号へお問い合わせください。
https://sec.panasonic.biz/solution/info/

その他

画面について

本書では、画面の見かたや操作手順などの説明には、KX-VC1600J（拡張機能使用時）での表示画面を使用しています。KX-VC1300JまたはKX-VC1600J（標準時）では一部表示されない機能もありますが、あらかじめご了承ください。また、イラストについてもKX-VC1600Jのイラストを使用しています。

著作権について

本製品で使用されているソフトウェアは、Radvision Ltd. のソースコードを使用しています。
Portions of this software are © 1996-2012 RADVISION Ltd. All intellectual property rights in such portions of the Software and documentation are owned by RADVISION and are protected by United States copyright laws, other applicable copyright laws and international treaty provisions. RADVISION and its suppliers retain all rights not expressly granted.

もくじ

安全上のご注意 11

ご使用にあたってのお願いとお知らせ 15

使用上のお願い 15

お客様の大切な情報を保護するために 16

プライバシー・肖像権について 16

準備 17

同梱物一覧・別売品 17

付属品／添付品について 17

別売品について 18

各部のなまえとはたらき 20

本体（前面） 20

本体（背面） 21

リモコン 23

ランプ表示 25

スクリーンスタンバイ 25

接続と準備 27

接続機器と環境 27

本体を接続する 28

ネットワーク構成例 34

リモコンの準備 36

電源を入れる／切る 37

画面の見かた 38

ホーム画面（待受画面） 38

メニュー画面（待受画面） 41

通信中画面 42

入力について 44

初期設定 45

通信を開始する 48

発信する 48

ホーム画面からワンタッチダイヤルで発信する 48

アドレス帳から発信する（2地点通信） 50

プロファイルから発信する（多地点通信） 52

宛先を直接入力して発信する 54

通信履歴から発信する 57

着信に応答する 61

MCUに接続する 63

通信中の操作 65

通信中に拠点を追加する（子拠点以外） 65
通信中に拠点を切断する 67
通信中に画面レイアウトを変更する 68
相手拠点の分割画面レイアウトを変更する 68
メイン表示の設定を変更する（親拠点のみ） 71
拠点名の表示を変更する（親拠点のみ） 72
接続先の音声設定を変更する（親拠点のみ） 72
音量を調整する 73
マイク音声をマイクオフする 74
マイク付近のノイズを減らす 76
パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する 77
ビデオカメラを操作する 80
ビデオカメラを操作する 80
プリセット登録をする 83
登録したプリセットを呼び出す 85
ビデオカメラの設定をする 86
接続状況などを表示する 92
接続状況を表示する 92
機器情報を表示する 93
設定と登録 94
アドレス帳に登録する 94
新規に登録する 94
登録内容を編集する 95
登録を削除する 95
履歴から登録する 96
プロファイルを登録する 97
新規に登録する 97
登録内容を編集する 98
登録内容を削除する 99
発信元の設定をする 100
発信元を登録する 100
発信元を選択する 101
発信元情報を削除する 101
システムの設定／保守をする 102
機器名称を設定する 105
日時を設定する 105
ネットワークの設定をする 105
通信の設定をする 107
MCUの設定をする 109

ワンタッチダイヤルの設定をする 110
スクリーンスタンバイの設定をする 111
音の設定をする 111
マイク位置の設定をする 112
リモコンの設定をする 114
ビデオカメラの設定をする 114
言語の設定をする 115
機器情報を表示する 116
拡張機能の確認を行う 116
ネットワーク接続の確認を行う 116
自己診断を行う 117
ライセンス情報を表示する 117
使用許諾契約を表示する 117
リモートメンテナンスを行う 117
管理者メニューの設定をする 119
管理者メニューの一覧 119
管理者パスワードの設定をする 123
暗号通信の設定をする 123
バージョンアップ確認の設定をする 124
接続モードを設定する 125
NATの設定をする 125
通信タイプの設定をする 126
SIPの設定をする 127
H.323の設定をする 128
コーデックの設定をする 130
映像出力の設定をする 131
音声入出力の設定をする 133
GUIの設定をする 133
HDMI制御の設定をする 134
ショートカットを設定する 135
発信元選択の設定をする 135
データをエクスポートする 135
データをインポートする 136
拡張機能を有効にする 137
ソフトウェアを更新する 138
ビデオカメラを初期化する 139
システムの初期化を行う 140
つながるねっとサービスを利用する 141
つながるねっとサービスを利用する 141
接続にあたっての準備 141

つながるねっとサービスの導入手順 141
インターネットに接続する 143
Registration Key（レジストレーションキー）を取得する 143
MPR IDを確認する（本機での操作） 143
Registration Key（レジストレーションキー）を取得する（パソコンでの操作） 144
Registration Key（レジストレーションキー）を再表示させる（パソコンでの操作） 146
その他 150
リモコンの電池を交換する 150
お手入れ 151
入力について 152
文字や数字を入力する 152
困ったとき 156
基本動作について 156
音声について 164
機能の設定について 166
こんなメッセージが出たら 166
つながるねっとサービス登録ページについて 173
つながるねっとサービスの本機について 174
つながるねっとサービスでこんなメッセージが出たら 175
仕様 177
おもなシステム仕様 177
保証とアフターサービス 180
索引 182

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。
（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

ACアダプターを分解・修理・改造はしない

分解禁止

火災・感電の原因になります。

- 修理は販売店へご相談ください。

煙・異臭・異音が出たり、落下・破損したときは、電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

- 使用を中止し、販売店へご相談ください。

ACコード・電源プラグ・ACアダプターを破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねる　など）

禁　止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- 修理は販売店へご相談ください。

電源コンセントや配線器具の定格を超える使い方やAC 100 V以外での使用はしない

禁　止

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

機器内部に異物を入れたり、水をかけたり、ぬらしたりしない

禁　止

火災・感電の原因になります。

- 異物が入ったり、ぬれたりした場合は、すぐに電源を切り、電源プラグを抜いて、販売店へご相談ください。

電源プラグやACアダプターは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全なまま使用すると、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだ電源プラグやACアダプター、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

リモコンを電子レンジに入れたり電磁調理機器などに置いたりしない

禁　止

発熱・発煙・火災・破裂の原因になります。

雷が鳴ったら本機や電源プラグ・ACアダプターに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

電源プラグを抜き差しするときは、電源プラグ（金属でない部分）を持って抜く

感電の原因になります。

ぬれた手で、電源プラグやACアダプターの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグやACアダプターのほこりなどは定期的にとる

電源プラグやACアダプターにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグやACアダプターを抜き、乾いた布でふいてください。

付属のACコードは、他の製品に使用しない

禁　止

火災や感電の原因になります。

電池は誤った使い方をしない

- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない**
- **＋と－を針金などで接続しない**
- **金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない**
- **＋と－を逆に入れない**
- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない**
- **被覆のはがれた電池は使わない**
- **乾電池の代用として充電式電池を使わない**

禁　止

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・爆発などを起こし、周囲汚損の原因になります。

- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。
- 電池を廃棄する場合は、各自治体の指示（地域の条例）に従って処理してください。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

⚠警告

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、液もれ・発熱・破裂の原因になります。

⚠注意

湿気や湯気・油煙・ほこりの多い場所では、使用しない

火災・感電の原因になることがあります。

水平でない場所や振動の激しい場所では、使用しない

落下により破損・けがの原因になることがあります。

長期間使用しないときや、お手入れするときは、電源を切り、電源プラグを抜く

漏電により、火災の原因になることがあります。

長期間使用しないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

専用のACコードやACアダプターを使用する

専用以外のACコードやACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

⚠注意

火気を近づけない

火気禁止

火災の原因になることがあります。

ヘッドセット使用時は、音量を上げすぎない

禁　止

耳を刺激するような大きな音量では、聴力に悪い影響を与える原因になります。

使用上のお願い

本機をご使用になる際は、以下のことに注意してください。

1. **設置・増設・修理は、お買い上げの販売店へご相談ください。**

2. **機器に、強い衝撃や振動を与えないでください。**
   落としたりぶつけたりして強い衝撃が加わると、故障や破損の原因になります。

3. **冷凍倉庫など特に温度の下がる場所に置かないでください。**
   故障や動作不良の原因になります。

4. **ラジオ、OA機器、電子レンジ、エアコンなどから約2 m以上離してお使いください。**
   機器からのノイズにより雑音の発生など悪影響を受ける・与える原因になります。

5. **直射日光、暖房設備、ボイラーなどの、特に温度の上がる場所に置かないでください。**
   機器表面や部分が変形・劣化するほか、故障の原因になります。

6. **硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、塵埃、有毒ガスなどの発生する場所に置かないでください。**
   故障や機器の寿命が短くなる原因になります。

7. **殺虫剤などの揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などに長時間付着させたままにしないでください。**
   変質したり、塗料がはげる原因になります。

8. **キャッシュカード、テレホンカードなどの磁気カード類をマイクに近づけないでください。**
   カード類が使えなくなることがあります。

9. **電磁波発生源や磁気を帯びたもの（高周波ミシン・電気溶接機・磁石など）に近づけないでください。**
   雑音の発生や故障の原因になります。

10. **周囲の壁面から10 cm以上離してお使いください。**
    壁面に密着させると、機器の放熱効果が悪くなり、動作異常を起こす可能性があります。

11. **湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることは避けてください。**
    本機および電源プラグは防水仕様にはなっておりません。

12. **電源プラグは抜き差しが容易にできる近くの電源コンセントに接続してください。**

13. **映像周波数切り替えスイッチ（Videoスイッチ）がご使用地域の映像周波数になっているか確認してください。**

14. **本機は内部に電池が組み込まれています。**
    電池は、日光、火などにより過度の熱にさらされる環境に放置しないでください。

使用環境について

本機には、使用環境に合わせて、自動的に相手の声を聞き取りやすく調整する機能があります。通信開始直後は、本機が使用環境に適応できていない場合があり、音が途切れたり、エコー（自分の声がスピーカーから聞こえる現象）が発生することがあります。そのため、通信開始直後は、相手と交互にお話ください。

移動について

コード類を接続した状態で移動しないでください。コード類の破損の原因になります。

その他

- この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

  VCCI-A

- この製品は、高調波電流規格　JIS C 61000-3-2 適合品です。
- 停電すると、本機は使えません。

お客様の大切な情報を保護するために

お客様固有の情報の流出による、不測の損害を回避するため、下記事項をお守りください。
本機の不正使用による損害に対し、当社は責任を負いかねます。

情報の損失を防ぐために

登録したアドレス帳および設定した暗号鍵の内容は、メモなどに控えるようにしてください。

情報の流出を防ぐために

- 不特定多数の人が出入りするような場所に、本機を放置しないようにしてください。
- 重要な情報を保存する場合は、本機を適切な場所で管理するようにしてください。
- 重要な個人情報は、本機に登録しないようにしてください。
- 下記のような場合は、アドレス帳および設定した暗号鍵の内容など、必要な利用者情報はメモなどに控え、本機をお買い上げ時の状態に初期化してください（140 ページ）。
  - 本機を譲渡・廃棄する場合
  - 本機を貸し出す場合
  - 本機を修理に出す場合
- 本機を修理に出す場合は、お買い上げの販売店へ依頼するようにしてください。

本製品は、お客様固有のデータ（アドレス帳、暗号鍵、発着信履歴など）を登録または保持可能な製品です。製品内のデータ流出などの不測の損害などを回避するために、本製品を廃棄（または譲渡、返却）される際には、製品内に登録または保持されたデータを必ず消去してください（140 ページ）。

ネットワーク上での情報の漏えいを防ぐために

- 重要な会議に使用する場合は、盗聴対策のとられているネットワーク上で本機を使用してください。
- 本機は、適切に管理されたLAN上で使用し、不正アクセスが行われないようにしてください。
- 本機と接続するパソコンのセキュリティーは、常に最新の状態にしてください。

プライバシー・肖像権について

本機の設置や利用につきましては、ご利用されるお客様の責任で被写体のプライバシー（マイクで拾われる音声に対するプライバシーを含む）、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。

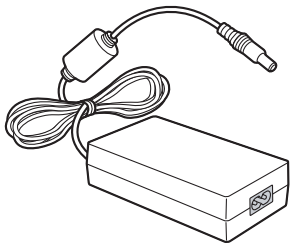
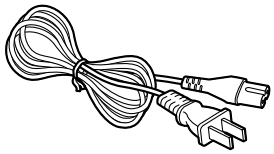
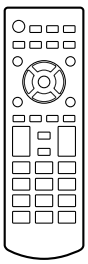
- 「プライバシーは、私生活をみだりに公開されないという法的保障ないし権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。
- 自動応答機能をオンにすると、相手先からの着信と同時に通信が始まります。着信側は、予定外の時刻や予定外の相手先からの着信においても同様に通信が開始されます。 自動応答機能をオンにする場合は、予期せぬ自動着信によりプライバシー・肖像権の侵害、機密情報の漏えいの恐れがありますのでご注意ください。

同梱物一覧・別売品

付属品／添付品について

次のものが付属／添付されていますのでご確認ください。

付属品

ACアダプター （極性統一形プラグ） （数量：1）	ACコード （数量：1）
	
品番：PGLV1006	
リモコン （数量：1）	電池（単3形マンガン乾電池） （数量：2）
	
品番：N2QAYB001002	

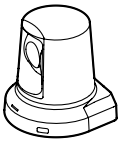
添付品

安全上のご注意とお知らせ（数量：1）	保証書（数量：1）

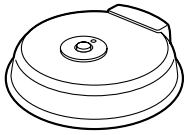
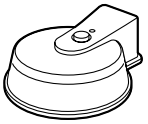
別売品について

別売品として以下の製品を用意しています。

専用メインカメラ

専用メインカメラ 光学12倍／デジタル10倍ズーム パン／チルト対応	専用メインカメラ 光学3倍／デジタル4倍ズーム パン／チルト対応
	
品番：GP-VD151J	品番：GP-VD131J

バウンダリーマイクロホン

バウンダリーマイクロホン （デジタルインターフェイスタイプ） （専用ケーブル同梱 ケーブル長：約8.5 m）	バウンダリーマイクロホン （アナログインターフェイスタイプ） （専用ケーブル同梱 ケーブル長：約7 m）
	
品番：KX-VCA001	品番：KX-VCA002

お知らせ

- 本書ではバウンダリーマイクロホンを「専用マイク」と記載しています。また、バウンダリーマイクロホン（デジタルインターフェイスタイプ）を「専用デジタルマイク」、バウンダリーマイクロホン（アナログインターフェイスタイプ）を「専用アナログマイク」と記載しています。

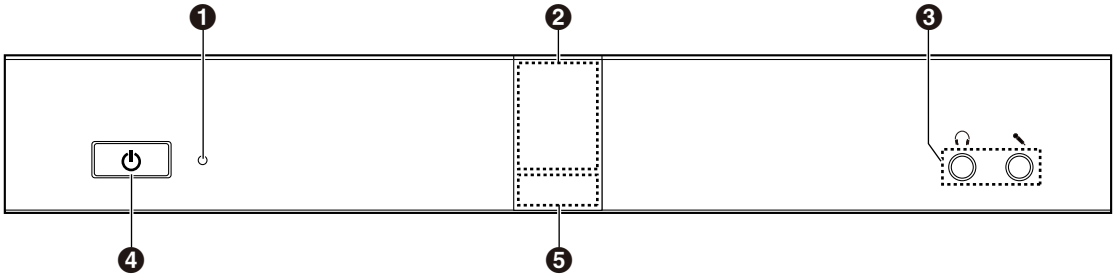
アクティベーションキー

アクティベーションキーにより、以下のような機能の拡張ができます。設定については「拡張機能を有効にする」を参照してください（137 ページ）。

品番 （Model No.）	製品名	種類 （Activation Key Type）	対象モデル	内容
KX-VCS701W	アクティベーションキー（つながるねっと1年）	有効期限1年延長	KX-VC1300J KX-VC1600J	つながるねっとサービスの利用期間を延長します
KX-VCS703W	アクティベーションキー（つながるねっと3年）	有効期限3年延長	KX-VC1300J KX-VC1600J	つながるねっとサービスの利用期間を延長します
KX-VCS304W	アクティベーションキー （KX-VC1600J 4地点接続拡張）	4地点接続拡張	KX-VC1600J	6地点（デフォルト）から10地点接続に機能を拡張します

各部のなまえとはたらき

本体（前面）



❶ 電源ランプ
電源の状態を表示します。電源が入っているときは緑または赤色に点灯し、入っていないときは消灯しています。

❷ リモコン受信部
リモコンからの信号を受信します。最大受信範囲は本体正面で約8 m、左右それぞれ約20°の位置で約3 mです。

❸ ヘッドセット入出力端子
ヘッドセットを接続するときに使用します（31 ページ）。

お知らせ

- ヘッドセットを接続した場合、相手側の音声はヘッドセットから聞こえます。テレビやスピーカーからは聞こえません。
- ヘッドセットを接続した場合、相手側に送る音声は、同時に接続している機器によって次のとおり異なります。

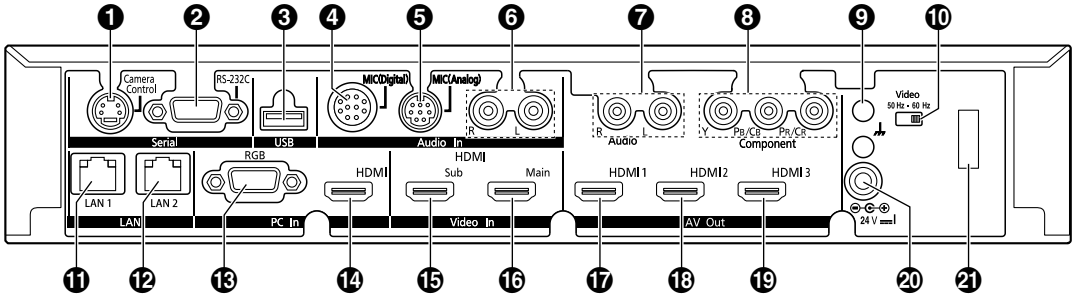
同時に接続している機器	相手に送る音声
専用マイク	ヘッドセットのマイクのみ音声を拾います。専用マイクは音声を拾いません。
汎用マイク	汎用マイクとヘッドセットのマイクが同時に音声を拾います。
専用マイクと汎用マイク	汎用マイクとヘッドセットのマイクが同時に音声を拾います。専用マイクは音声を拾いません。

❹ 電源ボタン
電源の「入／切」を行います（37 ページ）。

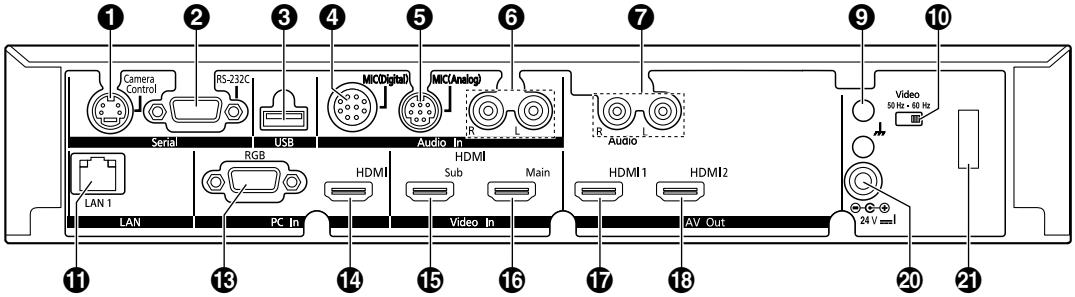
❺ 状態ランプ
本体の状態を表示します（25 ページ）。

本体（背面）

KX-VC1600J



KX-VC1300J



❶ **Camera Control端子（カメラ制御端子）**
使用しません。

❷ **RS-232C端子**
通常は使用しません。メンテナンス用パソコンを接続するときに使用します。

❸ **USB端子（135 ページ、136 ページ）**
動作ログを保存したり、ソフトウェアを更新したりするためのUSBメモリーを接続するときに使用します。

❹ **MIC (Digital)端子（専用デジタルマイク端子）（28 ページ）**
専用デジタルマイク（別売品）（19 ページ）を接続するときに使用します。

❺ **MIC (Analog)端子（専用アナログマイク端子）（29 ページ）**
専用アナログマイク（別売品）（19 ページ）を接続するときに使用します。

❻ **Audio In L/R端子 （音声入力端子）（29 ページ）**
専用マイク以外の汎用マイクをライン入力で接続するときに使用します。

❼ **Audio Out L/R端子 （音声出力端子）**
アンプ・アクティブスピーカーを接続するときに使用します（33 ページ）。またはHDMI端子を持たないテレビのスピーカーを使用して音声を出力するときに使用します（33 ページ）。

❽ **Component端子（映像出力端子）（KX-VC1600Jのみ）（33 ページ）**
テレビをコンポーネントケーブルで接続するときに使用します。

❾ **機能アース端子**
ノイズが多い場合、アース（接地）を取り付けるときに使用します。

⑩ Videoスイッチ
本体の映像周波数を設定します。
接続する機器の映像周波数と同一に設定します。

⑪ LAN1ジャック（29 ページ）
LANケーブルを接続します。

⑫ LAN2ジャック（KX-VC1600Jのみ）（29 ページ）
LANケーブルを接続します。

⑬ RGB端子（PC端子）（32 ページ）
コンテンツを共有するためのパソコンを接続するときに使用します。

⑭ HDMI端子（PC端子）（32 ページ）
コンテンツを共有するためのパソコンを接続するときに使用します。

⑮ Sub端子 （サブカメラ端子）（32 ページ）
メインビデオカメラとは別に、コンテンツを共有するためのビデオカメラ（サブビデオカメラ）をHDMIケーブルで接続するときに使用します。

⑯ Main端子 （メインカメラ端子）（28 ページ）
ビデオカメラ（メインビデオカメラ）をHDMIケーブルで接続します。

⑰ HDMI1端子（テレビ端子）（28 ページ）
テレビをHDMIケーブルで接続するときに使用します。

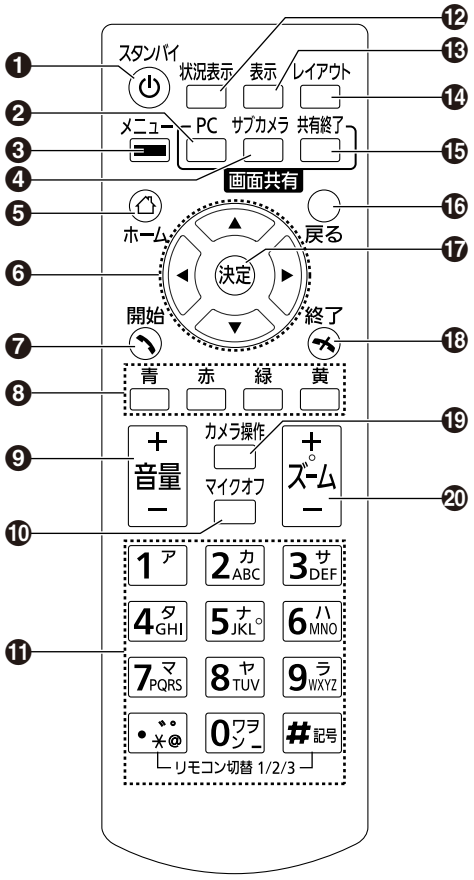
⑱ HDMI2端子（テレビ端子）（28 ページ）
テレビをHDMIケーブルで接続するときに使用します。

⑲ HDMI3端子（テレビ／録画端子）（KX-VC1600Jのみ）（28 ページ）
テレビや録画機器をHDMIケーブルで接続するときに使用します。
自拠点映像と録画映像を切り替えることができます。

⑳ DC IN端子（29 ページ）
専用ACアダプターのDCコードを接続します。

㉑ フック
DC IN端子の抜け防止に使用します。

リモコン



❶ 画面への映像出力を停止するときに使用します。（25 ページ）
長押し（1秒）することにより本体電源をオン／オフすることができます。

❷ 通信中に通信相手とパソコンの画面を共有するときに使用します。非通信中に使用した場合は、自分の画面にのみパソコンの画面が表示されます。（77 ページ）

❸ メニュー画面を表示するときに使用します。（41 ページ）

❹ 通信中に通信相手とサブビデオカメラの映像を共有するときに使用します。非通信中に使用した場合は、自分の画面にのみサブビデオカメラの映像が表示されます。（77 ページ）

❺ ホーム画面を表示するときに使用します。（38 ページ）

❻ カーソルまたはビデオカメラのPT（パン：左右移動、チルト：上下移動）を移動したり、項目を選ぶときに使用します。

❼ 発信をするときや、手動で着信に応答するときに使用します。（48 ページ、61 ページ）

❽ それぞれのボタンに割り当てられた機能を実行するときに使用します。実行可能な機能はガイドエリアに表示されます。（42 ページ）

❾ 通信中に音量を調整するときに使用します。【+】を押すと大きくなり、【−】を押すと小さくなります。（73 ページ）

❿ 通信中に自分の声を相手に聞こえないようにするときに使用します。（74 ページ）

⓫ 文字や数字を入力するときに使用します。（152 ページ）

⓬ ネットワークや周辺機器の接続状況を表示するときに使用します。（92 ページ）

⓭ ホーム画面や通信中画面で、ガイドエリアなどの情報を表示／非表示するときに使用します。（42 ページ）

⓮ 通信中に画面レイアウトを変更するときに使用します。（68 ページ）

⓯ コンテンツ共有時にパソコンの画面やサブビデオカメラの映像をメインビデオカメラの映像に切り替えるときに使用します。（77 ページ）

⓰ ひとつ前の画面に戻るときに使用します。

⓱ 選んだ項目や入力した内容を決定するときに使用します。

⓲ 通信を終了するときに使用します。

⓳ カメラ操作画面を表示します。（81 ページ）

⓴ 自分側または相手側カメラのズーム（拡大・縮小）操作するときに使用します。（80 ページ）

ランプ表示

ランプ表示で本体の状態を確認することができます。

電源ランプ	状態ランプ	本体の状態
消灯	消灯	• AC電源OFF
赤（点灯）	消灯	• AC電源ON（電源ボタンOFF）
緑（点滅）	青（点滅）	• 起動途中
赤（点滅）	消灯	• ハード障害発生中
緑（点灯）	青（点滅）	• 起動状態 • 待受状態
緑（点灯）	青（点灯）	• 通信中
緑（点灯）	黄（点灯）	• 自己診断中
緑（点灯）	赤（点灯）	• 障害発生中 • 保守メンテナンス中 • バージョンアップ中
緑（点灯）	赤（点滅）	• 重大な障害発生中
緑（点灯）	消灯	• スクリーンスタンバイ状態

スクリーンスタンバイ

通信していない状態でリモコンの操作を約10分間（デフォルト）行わなかった場合、またはリモコンの**【スタンバイ】**を押すと、スクリーンスタンバイ状態になります。スクリーンスタンバイ状態になるとテレビへの映像の出力が停止され、状態ランプが消灯します。
リモコンの操作を行ったり、着信があると、スクリーンスタンバイ状態は解除されます。

お願い

- 本機でスクリーンスタンバイ状態を解除しても、映像が映らないときは、テレビやビデオカメラの省電力機能を解除してください。解除のしかたは、それぞれの取扱説明書を参照してください。

お知らせ

- スクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を変更することができます（111 ページ）。
- リモコンの操作をある一定期間行わなくても、パソコン画面またはサブビデオカメラの映像を自分のテレビに表示している間は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。
- リモコンの操作を行ってスクリーンスタンバイ状態を解除した場合は、常にホーム画面が表示されます。
- スクリーンスタンバイ状態のとき、リモコンの操作を行ってもスクリーンスタンバイ状態が解除されるだけで、操作したボタンの機能は実行されません。
- アドレス帳登録画面などの編集作業中にスクリーンスタンバイ状態へ移行した場合は、保存していない変更は破棄されます。
- スクリーンスタンバイ状態を解除して、映像が映るまでに、約7秒かかります。

（かかる時間はお使いのテレビの種類により異なります。）

接続と準備

接続機器と環境

ビデオ会議を行うためには、本機の他にビデオカメラ、テレビ、専用マイク／汎用マイク、接続用ケーブルが必要です。
専用マイク以外の機器は、以下の条件を満たしている必要があります。

機器	条件
ビデオカメラ	HDMI出力あり（解像度：1080p／1080i／720p）
テレビ[*1]	HDMI／コンポーネント／D端子（コンポーネント-D端子変換）入力あり 映像周波数が本体と同じであること
汎用マイク	ラインレベル出力（マイクレベル出力の場合は、マイクアンプ経由）

[*1] HDMI端子とComponent端子の両方にテレビを接続する場合は、同じ解像度を持つテレビを接続してください（132 ページ）。

ケーブル

以下の市販品のケーブルをご準備ください。

HDMIケーブル：

カテゴリー2（HIGH SPEED）推奨

お知らせ

- HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく動作しない場合があります。勘合性のよいHDMIケーブルをお使いください。

LANケーブル：

100BASE-TX　全二重
カテゴリー5以上

VGAケーブル（コンテンツ共有時のパソコン接続用）：

ミニD-Sub 15ピン

お知らせ

- 本体のコネクター形状と、ご使用のパソコンのコネクター形状を確認してケーブルを準備してください。

ステレオピンプラグケーブル（汎用マイク／アンプ／アクティブスピーカー／テレビ［HDMI端子なし、スピーカー付き］接続用）：

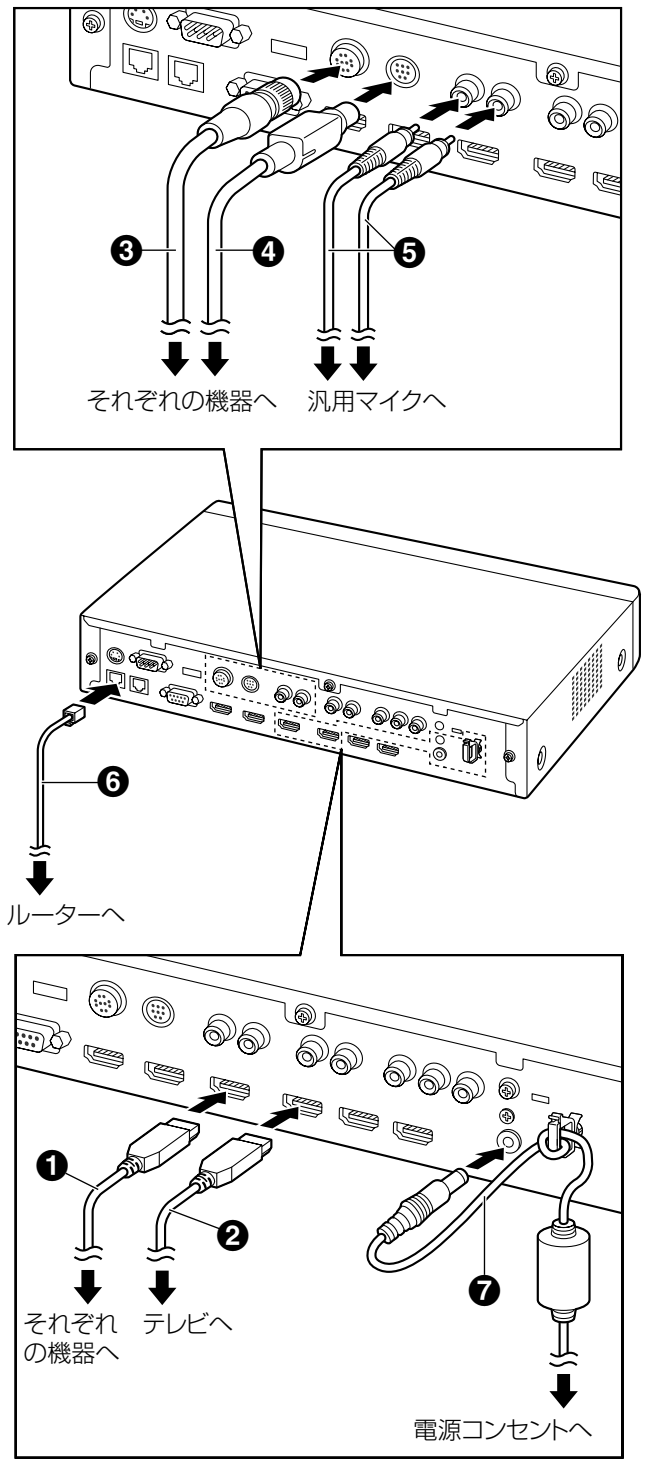
RCAプラグ

ネットワーク環境

インターネットを経由して本機を利用するには、ブロードバンド回線による接続が必要です。

本体を接続する

ここではメインビデオカメラ、テレビ、マイク、LANケーブル、ACアダプター、ACコードの接続のしかたを説明します。



お願い

- 必ず付属のACコードを使用してください。

お知らせ

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

1 メインビデオカメラを接続する

- HDMI ケーブル（❶）でメインビデオカメラと本体背面のMain端子をつないでください。

2 テレビを接続する

- HDMI ケーブル（❷）でテレビと本体背面のHDMI1～3端子をつないでください。

お知らせ

- 本体背面のHDMI3端子は、自拠点映像と録画データを切り替えて出力します。録画する場合は録画機器をHDMI3端子に接続し、出力の設定を録画にしてください。（132 ページ）
- パナソニック（株）製テレビの場合は、次の確認をしてください。
  - 業務用PDPの設定例：
    「画面位置/サイズメニュー」で水平・垂直位置／サイズを調整してください。
    音声の調整、音量オートおよびサラウンドをオフに設定してください。
  - 民生用テレビの設定例：
    「設定する」の「画面の設定」の「HD表示領域」を「フルサイズ」に設定してください。
- 接続するテレビがHDMIに対応していない場合は、コンポーネントケーブルをお使いください。コンポーネントケーブル使用時は、音声信号は伝送されませんので、アンプ／アクティブスピーカーを接続するか、テレビのスピーカーを使用してください。
- テレビの設定で「ゲームモード」がある場合は、「ゲームモード」に設定してください。音声遅延が緩和される場合があります。

3 マイクを接続する

専用デジタルマイク（別売品）

専用ケーブル（❸）で専用デジタルマイクと本体背面のMIC (Digital)端子をつないでください。

- 必ず専用デジタルマイクに付属のケーブルを使用してください。

- 専用ケーブルのコネクター部をカチッと音がなるまで押して回してください。接続できない場合は、コネクター部の上下を反転させて、再度実施ください。

専用アナログマイク（別売品）

専用ケーブル（❹）で専用アナログマイクと本体背面のMIC (Analog)端子をつないでください。

- 必ず専用アナログマイクに付属のケーブルを使用してください。
- 専用ケーブルコネクター部の矢印の部分を上に向けて差し込んでください。専用ケーブルを抜くときは、コネクター部をしっかりと持って引き抜いてください。

汎用マイク

マイクアンプなどでラインレベルまで信号レベルを増幅してから、ステレオピンプラグケーブル（❺）で汎用マイクと本体背面のAudio In L/R端子をつないでください。

- 左チャンネル（L）、右チャンネル（R）を確認して、接続してください。

お知らせ

- 専用マイクと汎用マイクをともに接続した場合は、両方のマイクからの音声入力が有効です。
- ヘッドセットを接続する場合は31 ページを参照してください。

4 ネットワークに接続する

- カテゴリー5以上のLANケーブル（❻）でハブ、ルーターと本体背面のLANジャックをつないでください。

お知らせ

- ハブ、ルーターの設定はオートネゴシエーションに設定してください。
- 半二重に設定されたハブ、ルーターに接続しないでください。
- ルーターおよびDCE（回線終端装置）の詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

5 専用ACアダプターとACコードを接続する

- 必ず本体に付属のACコードを使用してください。

6 専用ACアダプターのDCコード（❼）を本体背面のDC IN端子に差し込む

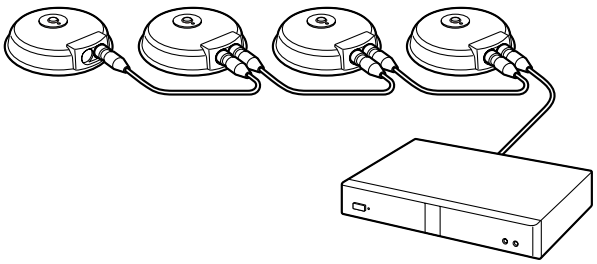
- 必ず本体に付属の専用ACアダプターを使用してください。
- DCコードを抜け防止のフックに巻きつけてください。

7 電源プラグを電源コンセントに差し込む

- 電源プラグは、抜き差しが容易にできる近くの電源コンセントに接続してください。

専用デジタルマイクについて

専用デジタルマイクは4台までカスケード接続できます。マイク側の端子に入力／出力の区別はありません。また、専用アナログマイク、汎用マイクと同時に使えます。



お知らせ

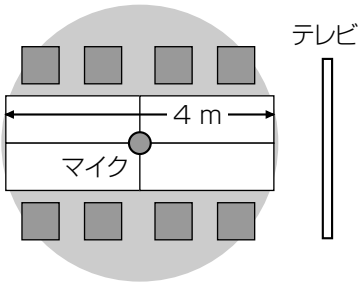
- マイクは、テレビ、スピーカーから1 m以上離して設置してください。
- 専用デジタルマイクを5台以上接続しないでください。接続すると専用デジタルマイクからの音声入力がすべて機能しなくなります。また、専用アナログマイクを同時に接続している場合、専用アナログマイクからの音声入力もすべて機能しなくなります。
- 次の条件をすべて満たす場合、相手側に送る音声はステレオになります。それ以外の場合はモノラルになります。
  - HD映像コミュニケーションユニットでの２地点通信中で、帯域が約1.8 Mbps以上の場合
  - ステレオで集音するように、マイク位置を自動または手動で設定した場合

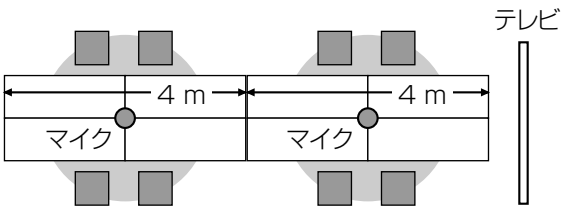
- ヘッドセットを接続した場合、ヘッドセットのマイク音声が優先され、専用デジタルマイクは音声を拾わなくなります。

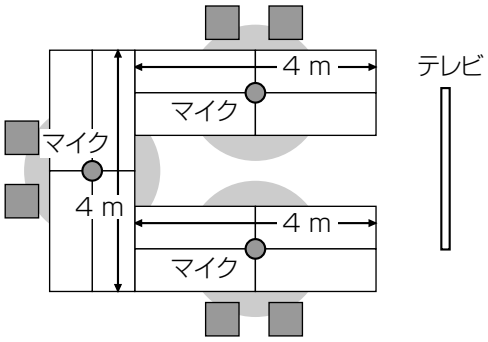
使用する会議室の騒音レベルとマイクの数によって、マイク1台あたりの集音範囲（マイクを中心とした半径）は異なります。次の表を参考にマイクを配置してください。

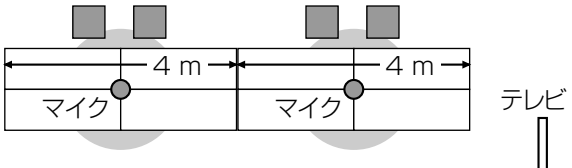
騒音レベル／マイク	静かな会議室（40 dBsplA）	通常の会議室（45 dBsplA）	騒がしい会議室（50 dBsplA）
1台	約3 m	約2.2 m	約1.2 m
2台	約2.8 m	約1.5 m	約1 m
3台	約2.3 m	約1.3 m	—
4台	約2 m	約1.1 m	—

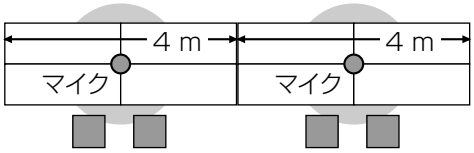
レイアウト例（通常の会議室）（グレーの円が集音範囲を示しています。）：





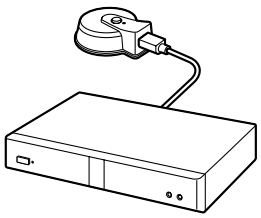






専用アナログマイクについて

1台の専用アナログマイクを接続できます。
また、専用マイクはデジタル・アナログ併せて最大5台のマイクを接続できます。



お知らせ

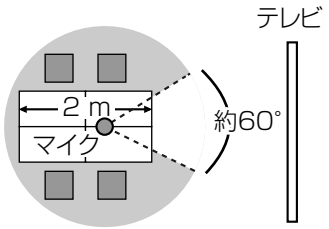
- マイクは、テレビ、スピーカーから1 m以上離して設置してください。
- マイクのコネクターを必ずテレビ側に向けて設置してください。
- 次の条件をすべて満たす場合、相手側に送る音声はステレオになります。それ以外の場合はモノラルになります。

  - HD映像コミュニケーションユニットでの２地点通信中で、帯域が約1.8 Mbps以上の場合
  - 専用デジタルマイクと同時に接続しない場合
- ヘッドセットを接続した場合、ヘッドセットのマイク音声が優先され、専用アナログマイクは音声を拾わなくなります。

使用する会議室の騒音レベルによって、マイクの集音範囲（マイクを中心とした半径）は異なります。次の表を参考にマイクを配置してください。

騒音レベル／マイク	静かな会議室（40 dBsplA）	通常の会議室（45 dBsplA）	騒がしい会議室（50 dBsplA）
1台	約2 m	約1.5 m	約1 m

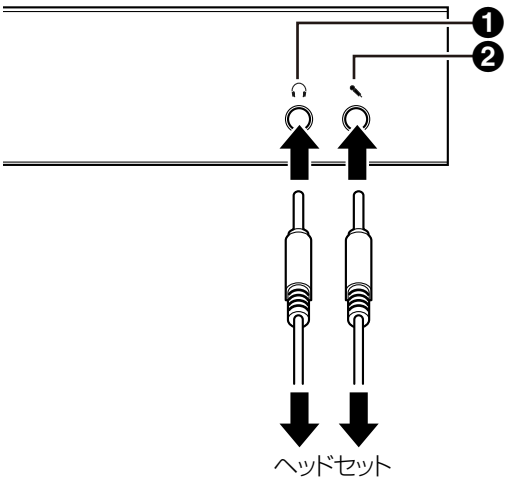
レイアウト例（通常の会議室）
（グレーの部分が集音範囲を示しています。）：



コネクター側の約60°が集音範囲外になります。

ヘッドセットについて

本体前面のヘッドセット入出力端子に、ヘッドセットを接続します。



お知らせ

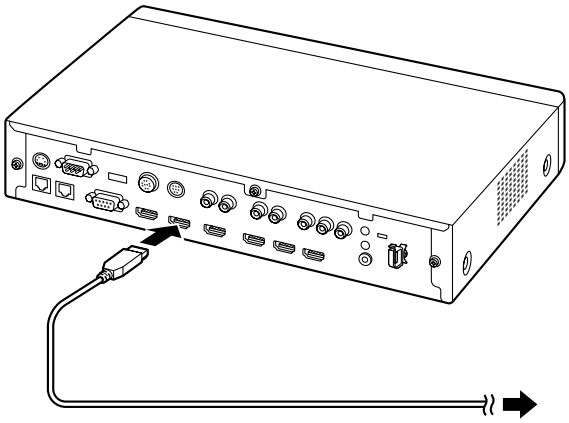
- ヘッドホンコネクター（❶）、マイクコネクター（❷）を確認して、接続してください。
- 専用マイクとヘッドセットを同時に接続した場合、ヘッドセットのマイク音声が優先され、専用マイクは音声を拾わなくなります。
- 汎用マイクとヘッドセットを同時に接続した場合、両方のマイクが音声を拾います。
- ヘッドセットを接続した場合、テレビやスピーカーからの音声は聞こえません。
- HDMI3を録画／録音端子としてご使用の場合は、ヘッドセットを接続しても音声が出力されます。（KX-VC1600Jのみ）
- 3極ステレオミニプラグ専用です。

サブビデオカメラの接続

ここではサブビデオカメラの接続のしかたを説明します。サブビデオカメラで撮影した映像は、すべての地点で共有できます。

1 サブビデオカメラを接続する

- HDMIケーブルでサブビデオカメラと本体背面のSub端子をつないでください。



お知らせ

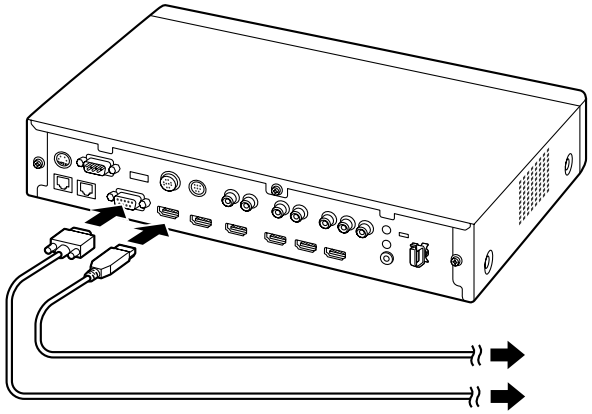
- サブビデオカメラは通信中に接続したり、取り外すことができます。

パソコンの接続

ここではパソコンの接続のしかたを説明します。パソコンを接続することで、パソコン画面の映像をテレビに映しながら通信することができます。
パソコンの映像は、すべての地点で共有できます。

1 パソコンを接続する

- HDMIケーブルでパソコンと本体背面のHDMI端子をつないでください。
- HDMI端子のないパソコンの場合は、VGAケーブルでパソコンと本体背面のRGB端子をつないでください。

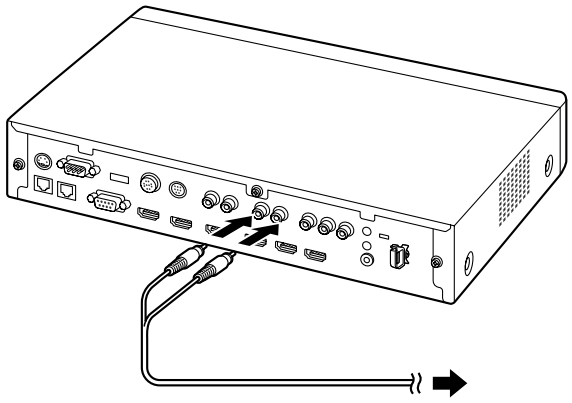


お知らせ

- パソコンは通信中に接続したり、取り外すことができます。
- パソコン画面共有に対応している解像度はVGA（640 × 480）、SVGA（800 × 600）、XGA（1024 × 768）、HD（1280 × 720）、WXGA（1280 × 768、1280 × 800）、SXGA（1280 × 1024）、UXGA（1600 × 1200）、WSXGA+（1680 × 1050）、Full-HD（1920 × 1080）です。
- HDMIケーブルとVGAケーブルの両方が接続されている場合は、HDMIケーブルで接続されているPCの映像が表示されます。

アンプ／アクティブスピーカーの接続

ここではアンプ／アクティブスピーカーの接続のしかたを説明します。

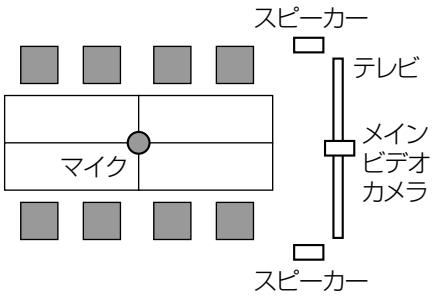


1 ステレオピンプラグケーブルでアンプ／アクティブスピーカーと本体背面のAudio Out L/R端子をつないでください。

お知らせ

- 左チャンネル（L）、右チャンネル（R）を確認して、接続してください。
- アンプおよびアクティブスピーカーの詳細については、それぞれの取扱説明書を参照してください。

配置例：
以下のようにテレビの両側にスピーカーを配置してください。

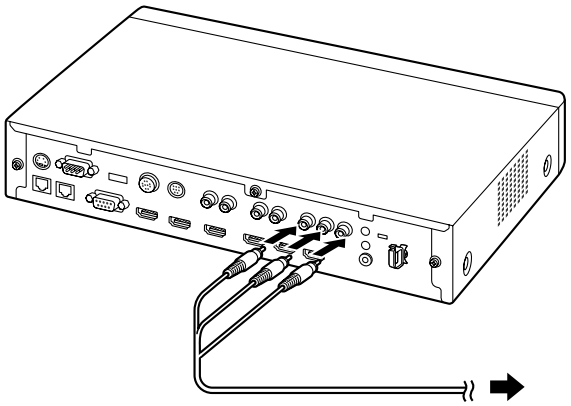


お願い

- テレビの両側にスピーカーを配置してください。会議室の前方にテレビ、後方にスピーカーを配置すると、相手に送る映像に対して音の左右が逆転するため、相手側では、音の左右が映像と一致しなくなります。

コンポーネントケーブルでのテレビの接続

テレビがHDMI端子を持たない場合は、コンポーネントケーブルで接続してください。



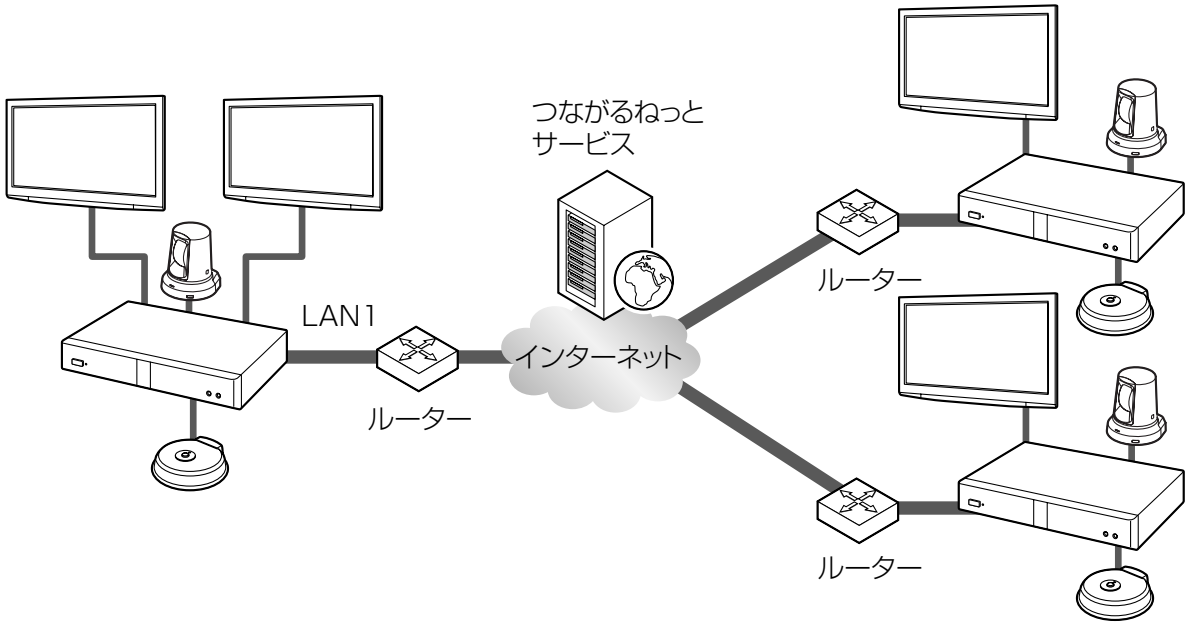
1 コンポーネントケーブルでテレビと本体背面のComponent端子をつないでください。

お知らせ

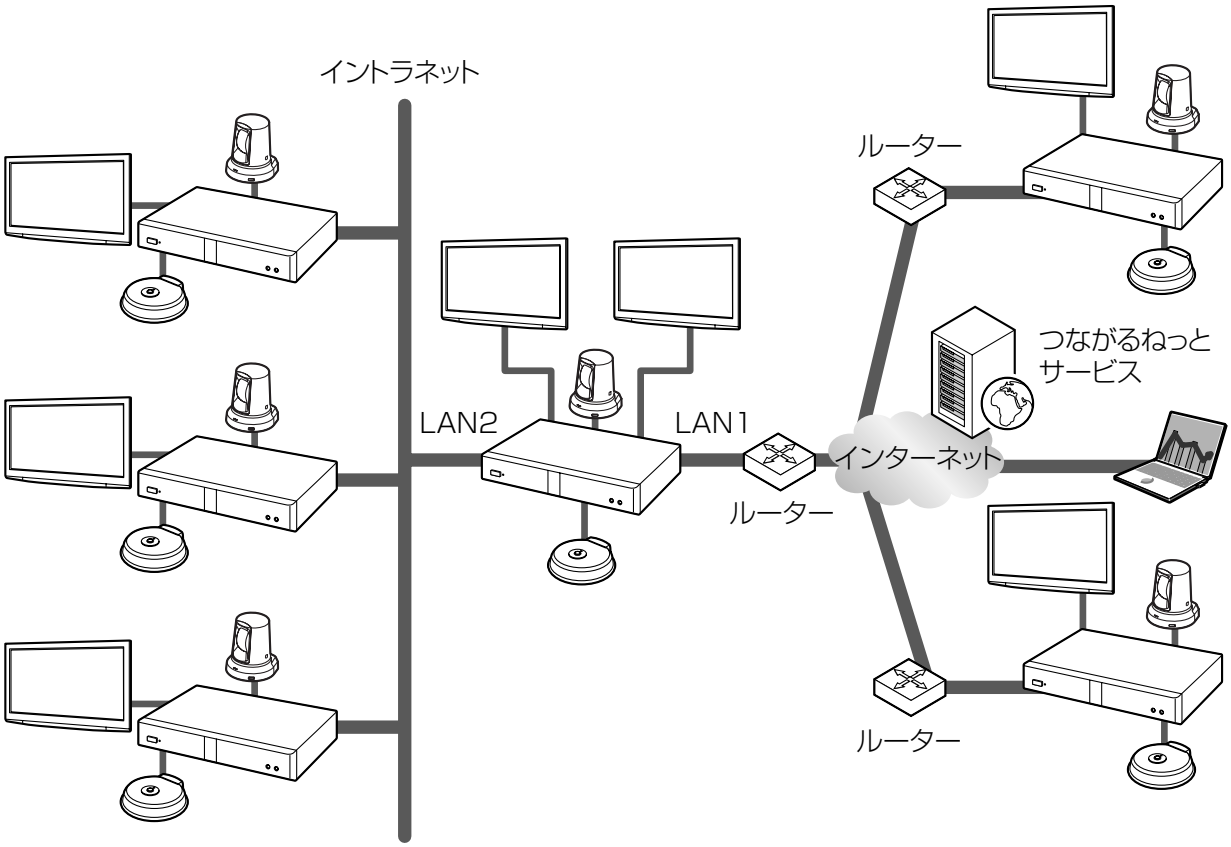
- テレビのスピーカーを使用して音声を出力したい場合は、ステレオピンプラグケーブルでテレビと本体背面のAudio Out L/R端子（21 ページ）をつないでください。
- HDMI端子とComponent端子の両方にテレビを接続する場合は、同じ解像度を持つテレビを接続してください。

ネットワーク構成例

イメージ図（インターネット／つながるねっとサービス使用時）
LAN1対応



イメージ図（イントラネット／つながるねっとサービス使用時）
LAN1、LAN2対応 （KX-VC1600Jのみ）



お知らせ

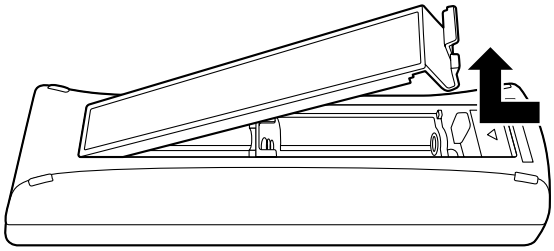
デュアルネットワーク（LAN1、LAN2）使用時

- つながるねっとサービス使用時は、LAN1を使用してください。
- デフォルトゲートウェイはLAN1になります。
- NAT／DHCPはLAN1のみ使用できます。

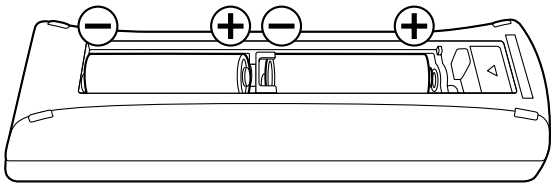
リモコンの準備

電池を入れる

1 ふたを開ける



2 単3形乾電池（付属品）を（−）側から入れ、ふたを閉める

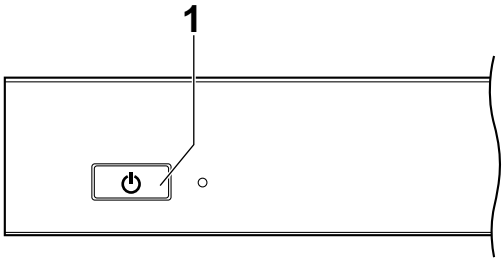


電源を入れる／切る

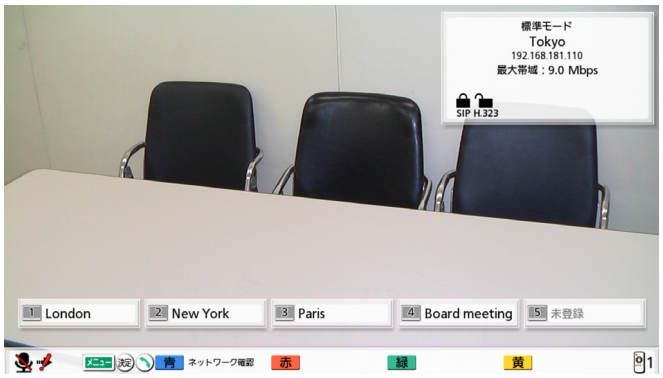
お知らせ

- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 初めて電源を入れた場合は初期設定画面が表示されます（45 ページ）。

1 本体前面の電源ボタンまたはリモコンの電源ボタンを1秒以上押す（電源オン／オフ共通）



- 電源を入れると、電源ランプが緑色に点滅します。その後、電源ランプが緑色点灯し、状態ランプが青色にゆっくり点滅してホーム画面が表示されます。

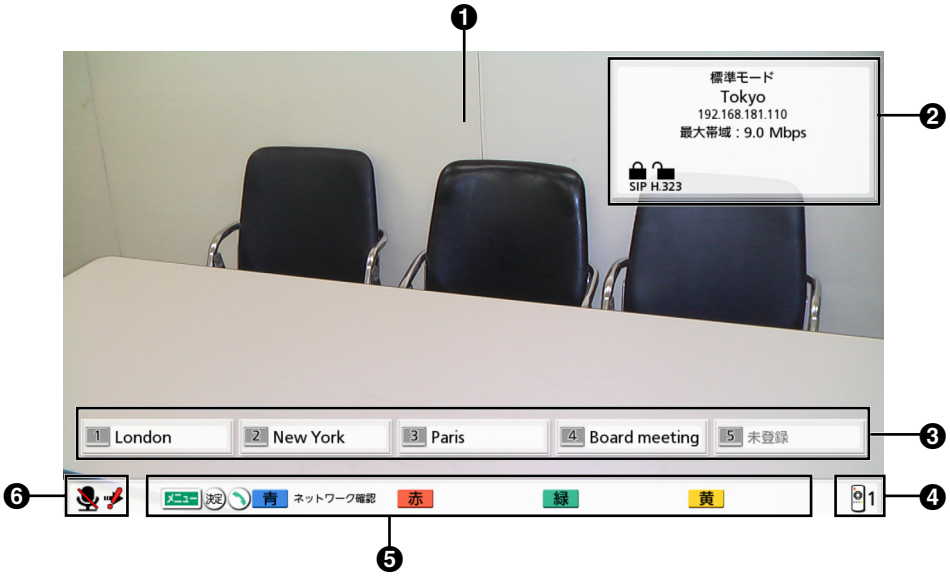


- 電源を切ると、電源ランプが赤になります。

画面の見かた

ホーム画面（待受画面）

電源を入れると表示されます。リモコンの**【ホーム】**を押しても表示されます。



❶ メインビデオカメラ映像エリア

メインビデオカメラの映像を表示します。

❷ 本体情報

選択している接続モードによって（125 ページ）、表示される内容は異なります。

標準モード：接続モード、機器名、SIPユーザー名（SIPサーバー使用時）／H.323内線番号、H.323名（ゲートキーパー使用時）、LAN1 IPアドレス、LAN2 IPアドレス（KX-VC1600Jのみ）、最大帯域、暗号通信利用状況アイコン、静的NAT利用状況アイコン（静的NAT使用時）
つながるねっとサービスモード：接続モード、機器名、接続番号、最大帯域
標準・つながるねっとサービスモード：接続モード、機器名、接続番号／SIPユーザー名（SIPサーバー使用時）／H.323内線番号、H.323名（ゲートキーパー使用時）、LAN1 IPアドレス、LAN2 IPアドレス（KX-VC1600Jのみ）、最大帯域、暗号通信利用状況アイコン、静的NAT利用状況アイコン（静的NAT使用時）

お知らせ

- 発信元選択時（101 ページ）は、選択している発信元の情報を表示します。発信元設定の機器名が表示されます。発信元の接続モードによって、表示される内容は異なります。
- 発信元名、SIPユーザー名、H.323内線番号、またはH.323名が画面に収まらない場合は、末尾が"…"に置き換わります。
- デュアルネットワークでは、接続モードにより使用されるLANが異なります。標準モードのSIPを使用している場合はLAN2、H.323を使用している場合はLAN1、LAN2になります。（KX-VC1600Jのみ）

暗号通信利用状況アイコン

SIP／H.323使用時の暗号通信の設定状況をアイコンで表示します。

アイコンの詳細は以下のとおりです。

アイコン	設定状況
	標準モード使用時：**「SIPの使用」**で**「する」**を選び、**「暗号通信（SIP）」**で**「有効」**を選んでいます。 つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：**「暗号通信（SIP）」**で**「有効」**を選んでいます。
	標準モード使用時：**「SIPの使用」**で**「する」**を選び、**「暗号通信（SIP）」**で**「無効」**を選んでいます。 つながるねっとサービスモード／標準・つながるねっとサービスモード使用時：**「暗号通信（SIP）」**で**「無効」**を選んでいます。
	「H.323の使用」で**「する」**を選び、**「暗号通信（H.323）」**で**「接続性優先」**を選んでいます。
	「H.323の使用」で**「する」**を選び、**「暗号通信（H.323）」**で**「有効」**を選んでいます。
	「H.323の使用」で**「する」**を選び、**「暗号通信（H.323）」**で**「無効」**を選んでいます。

静的NAT利用状況アイコン

アイコン	設定状況
	標準モード使用時、**「静的NATの使用」**で**「する」**を選んでいます。

❸ 会議名／拠点名

ワンタッチダイヤルの1～5に登録されている会議名／拠点名を表示します。会議名／拠点名が画面に収まらない場合は、末尾が"…"に置き換わります。

❹ リモコンID

本体のリモコンIDを表示します（設定時のみ）（114 ページ）。

❺ ショートカットキーエリア

システム設定を呼び出すショートカットキーを表示します。

❻ 状況表示エリア

アイコンで本体の状況を表示します。

アイコン	本体の状況
	マイクオフ中

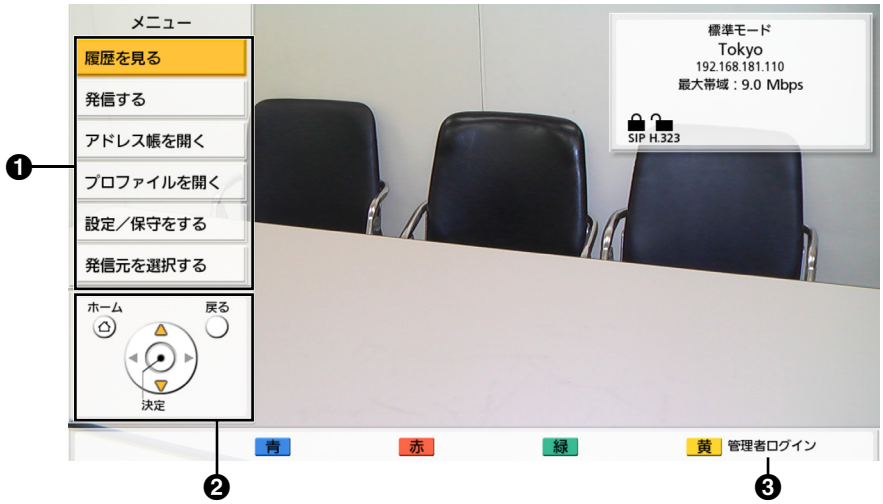
アイコン	本体の状況
	ネットワークや各種サーバー、周辺機器の接続エラー（未接続・機器の故障など）が発生中 **お知らせ** • LANケーブルなど他の機器が未接続の場合や機器の故障で接続に不具合がある場合は、アイコンが表示されます。

お知らせ

- 管理者メニューで**「ホームのガイド表示」**を**「しない」**に設定すると、❷❸❹❺の表示を非表示にすることができます（134 ページ）。非表示にした場合でも、リモコンの**【表示】**を押すと再び表示されます。

メニュー画面（待受画面）

リモコンの**【メニュー】**を押すと表示されます。機能を実行したり、設定を変更するときに表示します。



❶ メニュー一覧

さまざまな機能を使用したり、設定を行うためのメニューが表示されます。

❷ ガイドエリア

機能の実行時／設定の変更時に、操作可能なリモコンのボタンを表示し、操作をサポートします。

❸ 管理者ログイン

【黄】を押すと、管理者設定を行うための管理者ログイン画面が表示されます。

通信中画面

❶ 相手先情報

標準モード使用時：

- アドレス帳に登録されている場合は、相手先の拠点名／IPアドレスを表示します。
- アドレス帳に登録されていない場合は、相手先のIPアドレス、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）、ホスト名（hdvc.example.comなど）、H.323内線番号、H.323名、MCUの会議室番号@IPアドレス、またはMCUのSIPユーザー名@IPアドレスを表示します。相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIP-URIではなくSIPユーザー名のみを表示します。

つながるねっとサービスモード使用時：

- アドレス帳に登録されている場合は、相手先の拠点名／接続番号を表示します。
- アドレス帳に登録されていない場合は、接続番号を表示します。

❷ 映像エリア

相手側や自分側の映像、コンテンツ共有時のパソコンの画面やサブビデオカメラの映像を表示します。

❸ サブ画面

画面レイアウトを変更すると、自分側や相手側の映像を表示します。

❹ 通信時間

通信時間を表示します。

お知らせ

- 通信時間が100時間を越えても、99時間59分までしか表示されません。

❺ ガイドエリア

操作可能なリモコンのボタンを表示し、操作をサポートします。

❻ ネットワーク状況アイコン

ネットワークの混み具合をアンテナの数で表示します。アイコンの詳細は以下のとおりです。

アンテナ0本（ ）：ネットワークが非常に混雑している、または接続拠点に対して帯域が不足している

アンテナ1本（ ）：ネットワークが混雑している

アンテナ2本（ ）：ネットワークがやや混雑している

アンテナ3本（ ）：良好

お知らせ

- アンテナの数が0～1本の状態が続く場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 多地点通信中、アイコンは相手側の映像に対してそれぞれ表示されますが、自分側の映像には表示されません。
- アイコンを表示するかどうかを設定することができます。この設定は表示中の相手側の映像すべてに反映されます（108 ページ）。例えば、アイコンを表示する設定にした場合、相手側の映像すべてにアイコンが表示されます。アイコンを非表示にする設定にした場合、相手側のどの映像にもアイコンは表示されません。
  パソコン画面との合成表示中は、設定にかかわらずアイコンは表示されません。

子拠点音声ミュートアイコン（ ）

内蔵MCUを使用した多地点通信で**「接続先の音声」**を**「全ミュート」**にしたときに、親拠点に表示されます（72 ページ、110 ページ）。

発信中アイコン（ ）

通信中に拠点を追加したときや発信時など、他拠点の呼出中に表示します（65 ページ）。

❼ **状況表示エリア**

アイコンで本体の状況を表示します（39 ページ）。

お知らせ

- リモコンの**【表示】**を押すと、相手先情報、通信時間、ネットワーク状況アイコン[*1]、ガイドエリアを表示／非表示にできます。

[*1] ネットワーク状況アイコンを表示しない設定にしている場合は、**【表示】**を押してもアイコンを表示することはできません。

入力について

- リモコンでカタカナ、アルファベット、数字を入力することができます。152 ページを参照してください。
- 宛先の入力や登録で入力可能な文字は次のとおりです。
  - SIPユーザー名／MCUの会議室番号：英数字、記号 **. = * + _ - $ ~ ! ? / ( ) '**（半角で最大60文字）
  - H.323名：英数字、記号 **. @ : ; = * + # _ - $ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) [ ] {|} '**（半角で最大60文字）
  - SIPドメイン名：英数字、記号 **. -**（半角で最大128文字）
  - H.323内線番号：数字、記号 *** #**（半角で最大20文字）
- 「ユーザー名@ドメイン名」形式のホスト名の場合、「ユーザー名」「ドメイン名」に入力可能な文字と文字数は「SIPユーザー名」「SIPドメイン名」と同じです。
- アドレス帳にアドレスを登録したり、発信時に宛先を直接入力する場合、入力可能な文字は次のとおりです。
  - SIPの場合：英数字、記号 **. @ : = * + _ - $ ~ ! ? / ( ) '**（半角で最大189文字）
  - H.323の場合：英数字、記号 **. @ : ; = * + # _ - $ \ % ~ ^ ! ? / ` ( ) [ ] {|} '**（半角で最大189文字）

  SIPの場合、ユーザー名部分（@の前）が半角で最大60文字、ドメイン名部分（@の後ろ）が半角で最大128文字です。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細についてはネットワーク管理者にご相談ください。

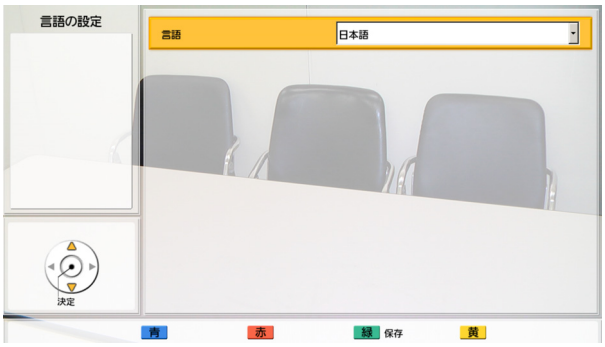
初期設定

お知らせ

- 初期設定は初回に電源を入れたときに表示します。次回からは表示されません。
- 本機の電源を入れた後、言語、接続モード、機器名、日時、ネットワークの設定をします。この設定は後で変更することができます。

1 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる

- 言語設定画面が表示されます。



2 **【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で言語を選ぶ

お知らせ

- 選択可能な言語は以下のとおりです：**「日本語」**（デフォルト）、**「English」**：英語、**「简体中文」**：中国語

3 **【決定】**を押す

4 **【緑】**を押す

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 接続モードの設定画面が表示されます。

6 **【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で設定したい接続モードを選び、再度**【決定】**を押す

お知らせ

- 異なる接続モードの相手とは通信できません。
- **「つながるねっとサービスモード」**、**「標準・つながるねっとサービスモード」**を利用するためには、アクティベーションキーにより「つながるねっとサービス」を有効にする必要があります。

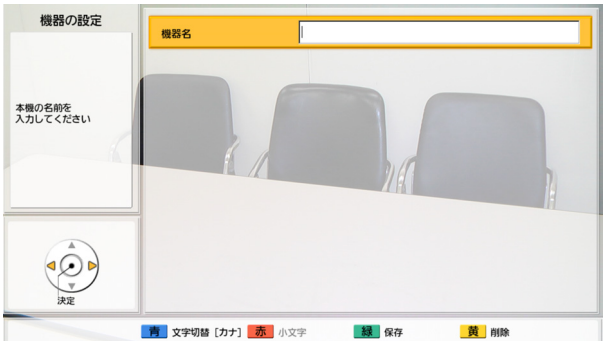
7 **【緑】**を押す

8 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 機器名の設定画面が表示されます。

9 機器名称（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（152 ページ）

- カタカナ、アルファベット、数字が入力できます。
- & < > , ” を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。



10【緑】を押す

11【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 日時の設定画面が表示されます。

12【▲】【▼】で設定したい項目を選び、入力する

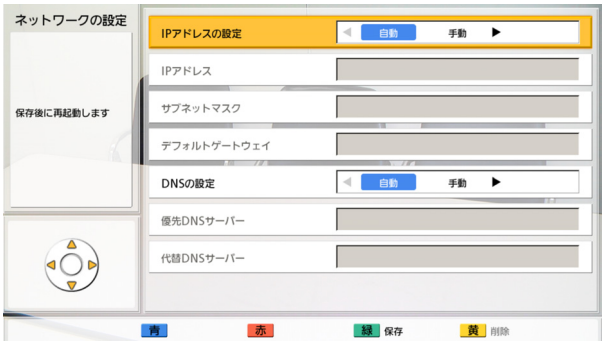
- 西暦（4桁）、月（1～2桁）、日（1～2桁）、時刻（24時間表示）を入力し、日付表示形式（月／日／年、日／月／年、年／月／日）、時間表示（12時間／24時間）を選択してください。

13【緑】を押す

14【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- ネットワークの設定画面が表示されます。

15【▲】【▼】で以下の項目を選び、入力する



「IPアドレスの設定」：【◀】【▶】で本機のIPアドレス情報（**「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

– **「自動」**（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。

– **「手動」**：IPアドレス情報を手動で設定します。

お知らせ

- **「自動」**に設定していても、ネットワーク障害の発生などによりIPアドレス情報を取得できない場合があります。この場合、ホーム画面の右上に**「アドレス未取得」**と表示されます。ネットワーク管理者にご相談ください。

「IPアドレス」：本機のIPアドレスを入力する
「サブネットマスク」：サブネットマスクを入力する
「デフォルトゲートウェイ」：デフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力する

お知らせ

- **「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**は、**「IPアドレスの設定」**を**「手動」**に設定している場合のみ入力可能です。
- **「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001

「DNSの設定」：【◀】【▶】でDNSサーバーのIPアドレス情報（**「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

– **「自動」**（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。

– **「手動」**：IPアドレス情報を手動で設定します。

お知らせ

- **「自動」**を選ぶには、**「IPアドレスの設定」**を**「自動」**に設定している必要があります。
- つながるねっとサービスの利用やバージョンアップの確認、ネットワークから最新バージョンのダウンロードを行うためには、DNSサーバーの設定が必要です。

「優先DNSサーバー」：優先DNSサーバーのIPアドレスを入力する
「代替DNSサーバー」：代替DNSサーバーのIPアドレスを入力する

お知らせ

- **「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**は、**「DNSの設定」**を**「手動」**に設定している場合のみ入力可能です。
- **「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。
「.001」のような入力はしないでください。
例：「192.168.0.1」の場合：
（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001

16 **【緑】**を押す

17 **【◀】** **【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 自動的に再起動し、設定内容が反映されます。

お知らせ

- IPアドレスやサブネットマスクに無効な値を入力した場合、再度有効な値を入力するようにメッセージが表示されます。
- IPアドレスはマルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。

発信する

通信を開始するには次の発信方法があります。

お知らせ

- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 発信後、一定時間（約60秒）内に相手から応答がなかった場合、自動的に発信を中止します。
- 着信履歴からは2地点通信のみ発信することができます。
- 通信帯域が1拠点あたり256 kbpsを下回った場合は、アンテナアイコンを0本にしてお知らせします。この場合、映像や音声の品質に問題が生じることがあります。
- アドレス帳に登録された通信タイプ（SIPまたはH.323）が、通信タイプ設定画面で**「しない」**に設定されている場合、発信はできません。
- 入室制限のかかったプロファイルで発信し、通信中に拠点を追加する場合、相手先を直接入力しての発信や通信履歴からの発信はできません。
- 発信中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。
  【◀】【▶】で**「はい」「いいえ」**を選び、【決定】を押す
  - **「はい」**を選んだ場合、着信に応答します。
  - **「いいえ」**を選んだ場合、着信を中止し発信を継続します。

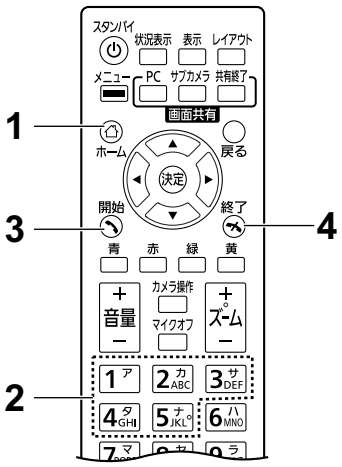
ホーム画面からワンタッチダイヤルで発信する

お知らせ

- ワンタッチダイヤルで発信するには、あらかじめワンタッチダイヤルの設定をしておく必要があります（110 ページ）。

1 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

2 ワンタッチダイヤル（**1**～**5**）を押す
- 選んだワンタッチダイヤルの登録先情報が表示されます。



3 **【開始】**を押し、通信する
- **【決定】**を押して、通信することもできます。

4 通信を終了するときは、**【終了】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

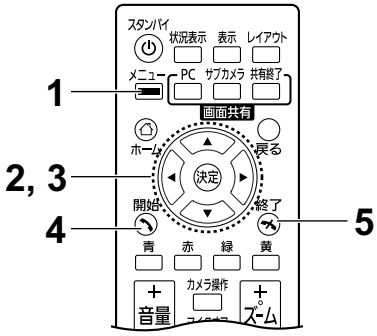
アドレス帳から発信する（2地点通信）

お知らせ

- アドレス帳から発信するには、あらかじめアドレス帳に相手先を登録しておく必要があります（94 ページ）。
- ネットワークの設定画面で**「IPアドレスの設定」**を**「自動」**に設定している場合（105 ページ）、DHCPサーバーを利用して自動的にIPアドレスを取得するため、相手側のアドレス帳にすでに登録されているIPアドレスから変わる可能性があります。この場合、相手側がアドレス帳のIPアドレスを選んで発信してもつながりません。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

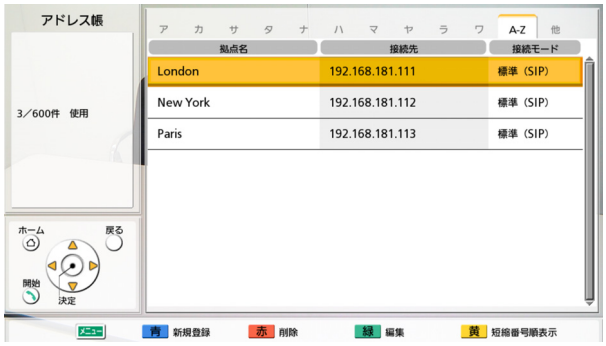
1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。



2 **【▲】【▼】**で**「アドレス帳を開く」**を選び、**【決定】**を押す

- アドレス帳画面が表示されます。**「拠点名」**の50音・アルファベット順に、行ごとのタブで表示されます。



お知らせ

- 【黄】を押すと、短縮番号順に表示することができます。

3 【▲】【▼】で発信したい相手を選ぶ

- 【◀】【▶】を押すと、前後のタブ（行）に切り替わります。（アドレスが登録されていないタブには切り替わりません。）
- リモコンの数字ボタンを押すと、各ボタンに割り当てられたタブ（行）に切り替わります。

数字ボタン	タブ（行）
1	ア行
2	カ行
3	サ行
4	タ行
5	ナ行
6	ハ行
7	マ行
8	ヤ行
9	ラ行
0	ワ行
＊	A-Z
#	他

お知らせ

- 手順2で短縮番号順に表示した場合は、短縮番号（1～600）を押して選択することができます。

4 【開始】を押し、通信する

5 通信を終了するときは、【終了】を押す

- ホーム画面が表示されます。

プロファイルから発信する（多地点通信）

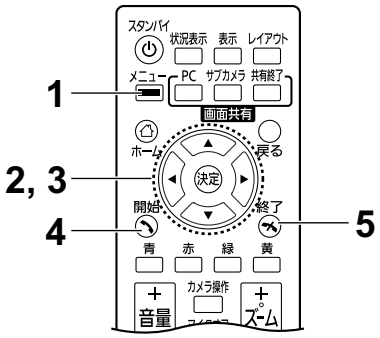
メニュー画面からの多地点への発信は、最大20件のプロファイル（1～20）から選ぶことができます。

お知らせ

- プロファイルから発信するには、あらかじめプロファイル設定でプロファイルを登録しておく必要があります（97 ページ）。

1 **【メニュー】**を押す
   - メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「プロファイルを開く」**を選び**【決定】**を押す
   - プロファイル一覧画面が表示されます。



3 **【▲】【▼】**で会議で発信したいプロファイルを選ぶ

4 **【開始】**を押し、通信する

5 通信を終了するときは、**【終了】**を押す
   - 多地点通信の終了については、「通信中に拠点を切断する (67 ページ)」を参照してください。

お知らせ

- **【開始】**を押して通信を開始する前に、選択したプロファイルから接続先を変更して発信することができます。選択した接続先は保存されませんのでご注意ください。

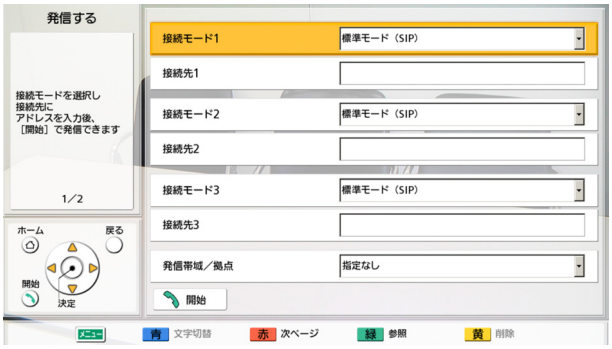
  1. 【青】を押す
     - プロファイル設定画面が表示されます。
  2. **【▲】【▼】**で**「接続先」**を選び**【決定】**を押す
     - プロファイル内で接続先を選択する画面が表示されます。
  3. **【▲】【▼】**で相手先を選び**【決定】**を押す
     - 選択の欄の「✔」の有無が切り替わります。「✔」が表示された相手に発信します。
  4. **【開始】**を押し、通信する
     - 発信を確認するダイアログボックスが表示されます。
  5. **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

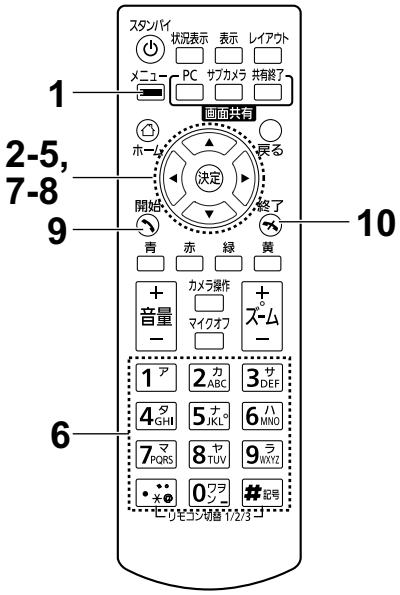
宛先を直接入力して発信する

標準モード使用時は相手先のIPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、またはMCUの会議室番号@IPアドレス、つながるねっとサービスモード使用時は接続番号を入力して発信します。

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「発信する」**を選び、**【決定】**を押す
- ダイレクト入力画面が表示されます。





お知らせ
- 手順1、手順2の代わりにホーム画面で**【開始】**を押しても、ダイレクト入力画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で入力する**「接続モード1」**～**「接続モード9」**を選び**【決定】**を押す

4 **【▲】【▼】**で接続モード（**「つながるねっとサービスモード」**、**「標準モード（SIP）」**、**「標準モード（H.323）」**）を選ぶ

5 **【▲】【▼】**で**「接続先1」**～**「接続先9」**を選ぶ

6 標準モード使用時はIPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、またはMCUの会議室番号@IPアドレス、つながるねっとサービスモード使用時は接続番号（7桁）を入力する

お知らせ
- 多地点通信時は、手順3～6を繰り返してください。
- 4地点以上に発信する場合は**【赤】**で次ページを表示してください。

7 1ページ目で**【▲】【▼】**で**「発信帯域／拠点」**を選び**【決定】**を押す

8 【▲】【▼】で発信帯域／拠点（指定なし、256 kbps～18 Mbps）を選ぶ（選択肢の最大値のデフォルト：9.0 Mbps）

9 **【開始】**を押し、通信する
- **【決定】**を押して、通信することもできます。

10 通信を終了するときは、**【終了】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

お知らせ

- KX-VC1300Jで同時に接続できる相手先は3地点です。KX-VC1600Jをご使用の場合は5地点まで利用可能ですが、アクティベーションキー（KX-VCS304W）による拡張を行うと9地点まで接続することができます。
- 1桁または2桁の数値を含むIPアドレスを入力する場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001
- SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）を入力して発信するには、**「SIPサーバーの使用」**を**「する」**に設定し、**「SIPサーバーアドレス」**、**「SIPユーザー名」**、**「SIPドメイン名」**を設定する必要があります。必要に応じて**「ダイジェスト認証」**、**「認証用ID」**、**「認証用パスワード」**の設定も行ってください（127 ページ）。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 自分と同じSIPドメインへ発信する場合は、SIPユーザー名のみの入力で発信できます。自分と異なるSIPドメインへ発信する場合は、SIPユーザー名に加えてSIPドメイン名の入力が必要です。SIPドメイン名を入力しなかった場合は、自分のSIPドメイン名が自動的に付与されて発信します。誤った相手に発信する可能性がありますのでご注意ください。
- 宛先の入力で入力可能な文字は44 ページを参照してください。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力して発信するには、**「SIPサーバーの使用」**および**「ゲートキーパーの使用」**を**「しない」**に設定する必要があります（127 ページ、128 ページ）。
- KX-VC300/KX-VC600の3.00より古いソフトウェアバージョン（3.00は含みません）を使用している相手に発信する場合、H.323は使用できません。通信タイプ設定画面で**「SIPの使用」**を**「する」**に設定する必要があります（126 ページ）。
- 通信タイプの設定画面（126 ページ）で**「しない」**に設定された項目は、接続モードで設定できません。

- ダイレクト入力画面から次の手順で、アドレス帳または通信履歴から宛先を選んで入力することができます。（プロファイルから宛先を入力することはできません。）

  標準モード使用時：IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス
  つながるねっとサービスモード使用時：接続番号

  1. **【緑】**を押す
     - アドレス帳または履歴を選択するダイアログボックスが表示されます。
  2. **【▲】【▼】**でアドレス帳または履歴を選択し、**【決定】**を押す
  3. **【▲】【▼】**で相手を選ぶ
     - アドレス帳の場合、**【◀】【▶】**、または数字ボタンを押すと、**「ア」**～**「ワ」**、**「A-Z」**、**「他」**から表示するタブ（行）が選べます（51 ページ）。
     - 履歴の場合、**【緑】**を押すと発信履歴と着信履歴が切り替わります。
  4. **【決定】**を押す

- H.323を使用する場合、宛先としてIPアドレス（またはホスト名）%H.323内線番号（またはH.323名）を入力して発信することができます。

通信履歴から発信する

通信履歴から相手に発信することができます。通信履歴は発信履歴と着信履歴に分かれます。発信履歴と着信履歴には、発着信の履歴が新しい順に50件まで記憶されています。拠点名／会議名またはアドレス情報[*1]、日時、通信時間、通信結果、接続モードなどの情報が発信履歴、着信履歴にそれぞれ表示されます。通信履歴に拠点名で表示されている相手のアドレスをアドレス帳から削除または編集した場合、通信履歴の表示は拠点名ではなくアドレス情報になります。

[*1] アドレス情報は次のとおりです。
IPアドレス／ホスト名／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／MCUのSIPユーザー名@IPアドレス／接続番号（つながるねっとサービスモード使用時は、接続番号が表示されます。）

お知らせ

- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合、通信履歴には、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）ではなくSIPユーザー名のみが表示されます。

発信履歴：

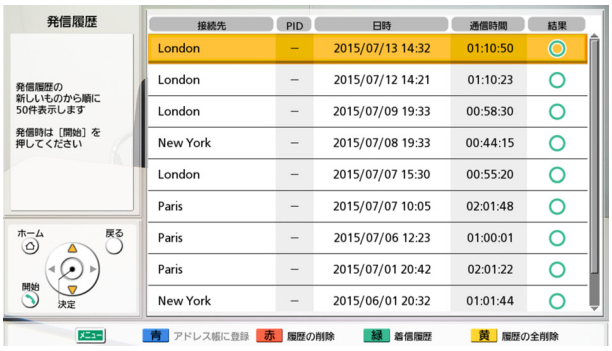
- アドレス帳から発信した場合、拠点名が表示されます。IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号を直接入力して発信した場合（54 ページ）、拠点名ではなく入力した宛先が表示されます。（入力した宛先がアドレス帳に登録されている場合でも、直接入力した宛先が表示されます。）
- プロファイルを使用した発信でも、発信履歴に記憶されますので、発信履歴から発信することができます。
- 続けて同じ相手に発信した場合は、最新の履歴のみ発信履歴に記憶されます。

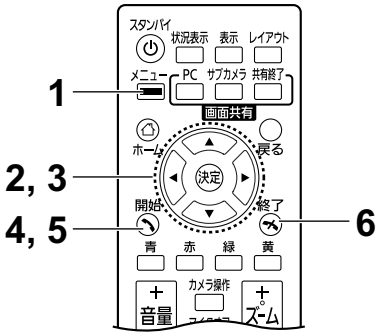
着信履歴：

- かけてきた相手のIPアドレス／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号がアドレス帳に登録されている場合、拠点名／会議名が表示されます。登録されていない場合は、IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／MCUのSIPユーザー名@IPアドレス／接続番号が表示されます。
- MCUの機種によっては、会議室番号@IPアドレスではなく、MCUのSIPユーザー名@IPアドレスで着信する場合があります。この着信履歴から発信しても、MCUの会議室に直接入ることはできません。
- 続けて同じ相手から異常着信（暗号設定不一致など）があった場合は、最新の履歴のみ着信履歴に記憶されます。
- 他社のビデオ会議システムとの接続では、規格に準拠していないなどの理由から、着信履歴のSIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、またはH.323名から発信できない場合があります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「履歴を見る」**を選び、**【決定】**を押す
- 発信履歴一覧画面が表示されます。





お知らせ

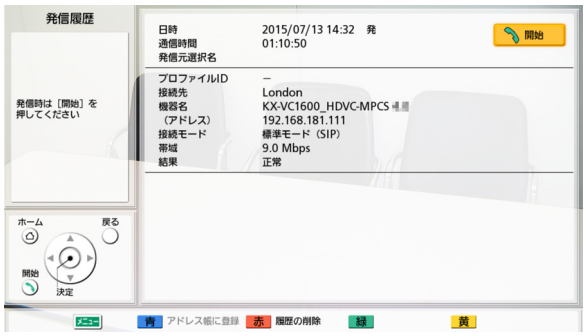
- 通信の結果は、**「結果」**に次のとおり表示されます。
  - ○：相手とつながった場合
  - ×：相手とつながらなかった場合
  - ー：プロファイル発信
- **【緑】**を押すと、着信履歴画面に切り替わります。**【緑】**を押すたびに、発信履歴画面と着信履歴画面を切り替えることができます。
- プロファイルを使用した発信では、プロファイルID（PID）が表示されます。
- アドレス帳に登録されていない相手の場合、着信履歴には相手のIPアドレスなど、相手から通知されたアドレス情報が表示されます。

- 発信履歴には、アドレス帳に登録されている場合は、拠点名が表示されます。IPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、MCUの会議室番号@IPアドレス、または接続番号を直接入力して発信した場合（54 ページ）、アドレス帳に登録されていても、拠点名ではなく入力した宛先が表示されます。
- 着信履歴の相手をアドレス帳に登録すると、着信履歴が更新され、アドレス帳に登録した拠点名が表示されます。
- アドレス帳に登録されていない相手を選んで**【青】**を押すと、アドレス帳登録画面が表示され、相手を登録することができます（95 ページ）。規格に準拠していないなどの理由から、着信履歴のSIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名をアドレス帳に登録できない場合があります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

3 **【▲】【▼】**で発信したい相手を選ぶ

お知らせ

- **【決定】**を押すと、履歴詳細画面が表示されます。



- 発信元を選択していないとき（101 ページ）は、**「発信元選択名」**には基本設定の値が表示されます。
- **「帯域」**には接続拠点との調停帯域を表示します。
- 通信相手によっては、**「機器名」**には何も表示されないことがあります。

4 **【開始】**を押す

- 発信のダイレクト入力画面が表示されます。

お知らせ

- 発信する拠点数や接続先のアドレスを編集することができます。

5 **【開始】**を押し、通信する

6　通信を終了するときは、**【終了】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

着信に応答する

着信に応答する方法として、手動応答と自動応答があり、設定によりどちらかが設定されています（107 ページ）。

お知らせ

- 本機以外の周辺機器（例：テレビ、メインビデオカメラ）の電源が入っていることを確認してください。
- 内蔵MCUを使用した多地点通信で「子拠点」として運用する拠点は、通信の設定で**「2地点以上の着信」**を**「無効」**に設定してください。この設定により通信中に着信しなくなります。

手動応答の場合

着信があると着信音が鳴り、ダイアログボックスが表示されます。

- アドレス帳に登録されている場合は、かけてきた相手の拠点名が表示されます。
- アドレス帳に登録されていない場合は、IPアドレスまたは接続番号など、相手から通知されたアドレス情報が表示されます。

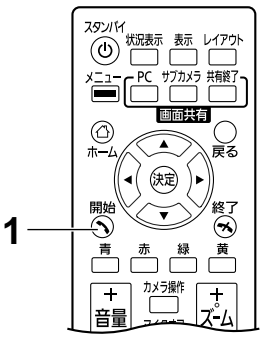
お知らせ

- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）ではなくSIPユーザー名のみが表示されます。
- 会議名／拠点名、ホスト名、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、またはH.323名が画面に収まらない場合は、末尾が"…"に置き換わります。

応答する

1 **【開始】**を押す

- 通信が開始されます。
- **【決定】**を押して、応答することもできます。



お知らせ

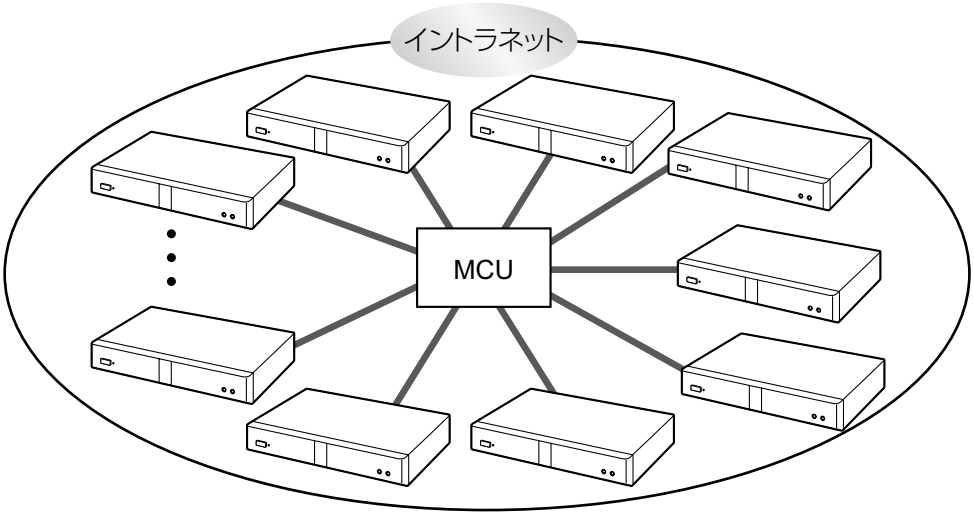
- 着信後、一定時間（約60秒）内に応答をしなかった場合、自動的に切断されます。
- 発信中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます（**「通信の設定」**で**「2地点以上の着信」**が**「有効」**の場合のみ）。
  【◀】【▶】で**「はい」「いいえ」**を選び、【決定】を押す
  - **「はい」**を選んだ場合、着信に応答します。
  - **「いいえ」**を選んだ場合、着信を中止し発信を継続します。

自動応答の場合

着信があると着信音が一度だけ鳴った後、自動的に応答して通信が開始されます。

MCUに接続する

MCUに接続することで、10拠点以上の多地点間でのビデオ会議を行うことができます。

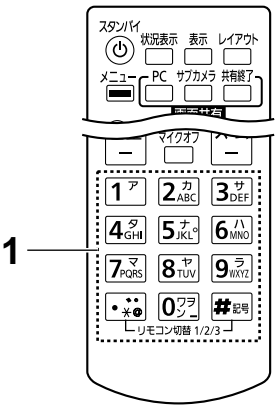


お知らせ

- 接続するMCUは次の条件を満たしている必要があります。MCUの設定をご確認ください。
  - SIPまたはH.323での通信が可能である
  - H.264 Baseline Profile（ベースラインプロファイル）、H.264 High Profile（ハイプロファイル）での通信が可能である
  - 音声コーデックG.711、G.722、G.722.1、G.722.1 Annex Cでの通信が可能である
- 接続が可能なMCUの機種については、販売店にお問い合わせください。
- MCU接続の場合、SIPサーバーを経由したSIP-URIによる通信は動作保証外です。必ずIPアドレスによる通信を行ってください。
- 接続仕様（解像度など）や利用できる機能（コンテンツ共有など）は、接続する機種によって異なります。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- MCU接続を行う操作手順は、接続するMCUにより異なります。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- 相手側に送る音声はモノラルになります。
- サブビデオカメラの映像を共有中に、サブビデオカメラの静止画を送信することはできません。
- 暗号通信ができない場合がありますので、その場合はイントラネット回線またはＶＰＮをご利用ください。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- MCUと通信中は、通信開始時に設定した最大帯域が適用されます。ネットワークの状態に応じて、適切な帯域を設定する必要があります（107 ページ）。

トーン信号でMCUを遠隔操作する

MCUと通信中にリモコンのボタン（0-9、#、＊）を押すと、トーン信号を送信することができます。トーン信号を送信することで、MCUの遠隔操作（例：画面レイアウトの変更）を行うことができます。



お知らせ

- 遠隔操作できる機能や操作手順は、接続するMCUにより異なります。
- 接続するMCUがトーン信号を受信できない場合は、エラーメッセージが表示され、トーン信号を送信しません。
- 相手側がトーン信号を送信してきた場合、音切れが発生したり、音が鳴ったりすることがあります。
- トーン信号による相手機器の操作は、KX-VC1600J／KX-VC1300J／HDVC-MPCSでも行うことができます。

1　トーン信号（0-9、#、＊）を入力する

- 入力欄（❶）が表示されます。

お知らせ

- 入力欄に表示されるトーン信号は最大16桁までです。例えば、17桁目を入力した場合、最初に入力した1桁目が非表示になり、2桁目から17桁目までが表示されます。
- トーン信号が入力されていないときは、入力欄は表示されません。
- 最後に入力してから約3秒間、トーン信号が入力されない場合は、入力欄は消えます。
- 入力欄が消えたあと、再度トーン信号を入力した場合は、前回入力したトーン信号の続きから表示されます。

通信中に拠点を追加する（子拠点以外）

2地点通信中の拠点や親拠点は、次の操作で通信中に相手拠点を追加することができます。

1 **【メニュー】**を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「発信する」**を選び**【決定】**を押す

- 発信方式を選択するダイアログボックスが表示されます。

お知らせ

- プロファイル発信以外の発信方法で通信中となっている拠点の場合、ダイアログボックスは表示されず、ダイレクト入力画面が表示されます。
- プロファイル設定で入室制限が**「する」**に設定されたプロファイルで発信し通信中となっている拠点の場合、ダイアログボックスは表示されず、発信で使用したプロファイルが選択されます。

3 **【▲】【▼】**で発信方法（**「プロファイル」**、**「ダイレクト入力」**）を選ぶ

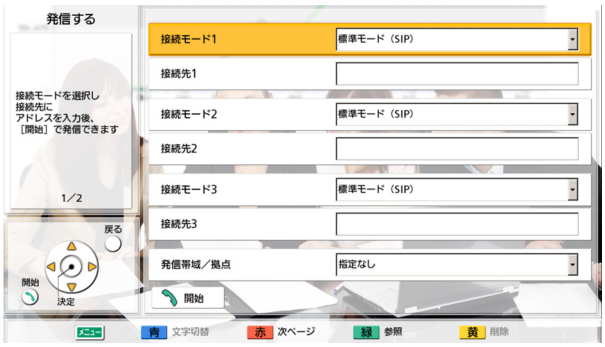
プロファイルを選択：

- プロファイル設定選択画面が表示されます。

1. **【▲】【▼】**で追加したい相手先のプロファイルを選び**【決定】**を押す
   - 選択の欄に「✔」が表示されます。

ダイレクト入力を選択：

- ダイレクト入力画面が表示されます。



1.【▲】【▼】で追加したい相手先の情報を設定する

お知らせ

- 相手先を参照して設定することができます。

  ①【緑】を押す

  - アドレス帳または履歴を選択するダイアログボックスが表示されます。

  ②【▲】【▼】でアドレス帳または履歴を選択し、**【決定】**を押す

  ③【▲】【▼】で相手を選ぶ

  - アドレス帳の場合、【◀】【▶】、または数字ボタンを押すと、**「ア」**～**「ワ」**、**「A-Z」**、**「他」**から表示するタブ（行）が選べます（51 ページ）。
  - 履歴の場合、**【緑】**を押すと発信履歴と着信履歴が切り替わります。

  ④**【決定】**を押す

4 **【開始】**を押す

お知らせ

- 自拠点が子拠点になった場合、通信中の拠点追加は行わないでください。

通信中に拠点を切断する

通信中に相手拠点を切断することができます。

2地点通信で切断する

1 **【終了】**を押す

- 通信が切断されます。

多地点通信で切断する（親拠点のみ）

1 **【終了】**を押す

- 切断先を選択するダイアログボックスが表示されます。

お知らせ

- 手順1で**【メニュー】**を押して **【▲】【▼】**で**「切断する」**を選び**【決定】**を押しても、ダイアログボックスが表示されます。

2 **【▲】【▼】**で切断する拠点を選び**【決定】**を押す

- 選択された拠点が切断されます。

多地点通信で切断する（子拠点のみ）

1 **【終了】**を押す

- 通信が切断されます。

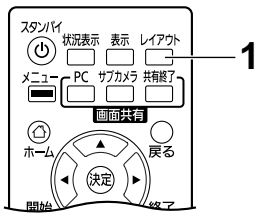
通信中に画面レイアウトを変更する

通信中に、画面レイアウトを変更することができます。

お知らせ

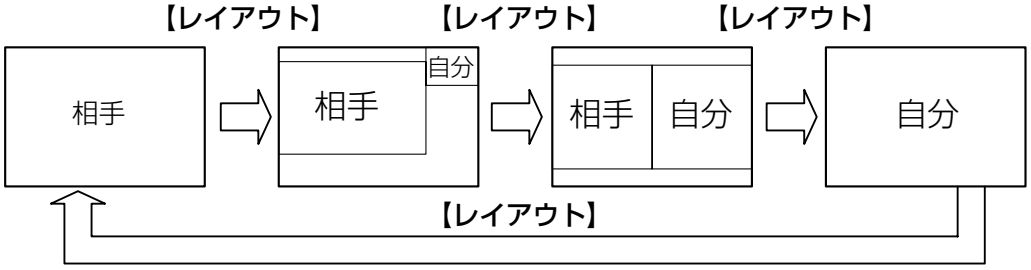
- 表示パターンは、表示するディスプレイの数、接続地点数、コンテンツ共有の有無、親拠点か子拠点か、シングルストリームかデュアルストリームかにより異なります。
- 通信中にデフォルトで表示されるレイアウトは、**「映像出力の設定」**の**「通信開始時のレイアウト」**で変更することができます（131 ページ）。

1 **【レイアウト】**を押す



- **【レイアウト】**を押すたびに、以下の順番に画面レイアウトが切り替わります。
  - **レイアウト1**：相手側の映像
  - **レイアウト2**：相手側の映像・右上に自分側の映像（PwithP）
  - **レイアウト3**：相手側の映像・自分側の映像（Side By side）
  - **レイアウト4**：自分側の映像

例：1ディスプレイ表示、2地点通信、コンテンツ共有なし、親拠点、シングルストリーム通信時



相手拠点の分割画面レイアウトを変更する

通信中に相手拠点の分割画面レイアウトを変更することができます。レイアウト構成内の数字は、拠点映像の表示優先順位を表します。（以降、表示優先順位1を「メイン表示」と記載します。）

親拠点の操作：

1 **【メニュー】**を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「レイアウトの設定」**を選び**【決定】**を押す

- レイアウトの設定ダイアログボックスが表示されます。

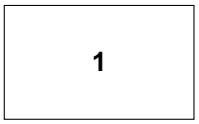
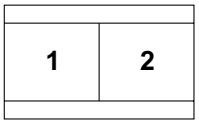
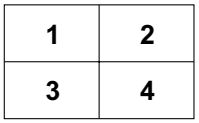
3 **【▲】【▼】**で設定するレイアウトを選び**【決定】**を押す

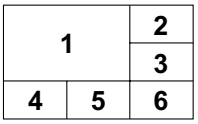
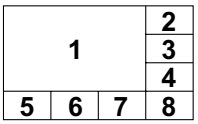
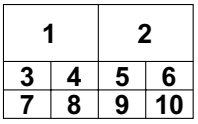
– **「自動切替」**：会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。
– **「CP1」～「CP10」**：選択したレイアウトに変更されます。

自動切替時の会議拠点数とレイアウト

拠点の数	レイアウト番号
2	CP1
3～4	CP4
5～6	CP6
7～8	CP8
9～10	CP10

通信中に選択できるレイアウトパターン

レイアウト番号	レイアウト構成
CP1	
CP2	
CP4	

レイアウト番号	レイアウト構成
CP6	
CP8	
CP10	

子拠点側の操作：

通信中にリモコンを操作することにより、子拠点側から画面レイアウトを変更することができます。

子拠点のリモコン操作とレイアウト

テンキー	レイアウト番号
＊21	CP1
＊22	CP2
＊24	CP4
＊26	CP6
＊28	CP8
＊20	CP10

お知らせ

- **「MCUの設定」**で**「DTMFによる分割レイアウト変更」**を**「無効」**に設定している場合、子拠点からの操作はできません（110 ページ）。
- 子拠点側から画面レイアウト変更をすると全拠点のレイアウトも変更されます。
- 親拠点のレイアウトが自動切替の場合（**「MCUの設定」**で**「レイアウト」**を**「自動切替」**に設定（109 ページ）、または通信中メニューで**「レイアウトの設定」**を**「自動切替」**に設定（69 ページ））、子拠点からの操作はできません。

メイン表示の設定を変更する（親拠点のみ）

通信中に、メインに表示する拠点の設定を変更することができます。

1 **【メニュー】**を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「メイン表示の設定」**を選び**【決定】**を押す

- メイン表示の設定ダイアログボックスが表示されます。

3 **【▲】【▼】**で切り替え方法を選ぶ

- **「音声切替1」**：会議中に最も音量が大きい相手（発言者）を、自動的にメイン表示として表示します。
- **「音声切替2」**：自拠点の表示位置はメイン表示に固定され、最も音量が大きい相手（発言者）を、表示優先順位2として表示します。
- **「自拠点」**：自拠点を表示します。
- **「接続先1」**～**「接続先9」**：選択した拠点がメイン表示として表示されます。

お知らせ

- 1画面でパソコン画面やサブビデオカメラの映像を共有している場合は、共有画面が自動的にメイン表示になります（シングルストリーム通信で受信側のみ）。

拠点名の表示を変更する（親拠点のみ）

通信中、画面に拠点名を表示するかどうか、設定を変更することができます。

1 **【メニュー】**を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「拠点名の表示」**を選び**【決定】**を押す

- 拠点名の表示を設定するダイアログボックスが表示されます。

3 **【▲】【▼】**で拠点名の表示（**「する」**、**「しない」**）を選び**【決定】**を押す

接続先の音声設定を変更する（親拠点のみ）

通話中に、接続先の音声を、親拠点の音声と合成するか、ミュートするかを設定することができます。

1 **【メニュー】**を押す

- 通信中メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「接続先の音声」**を選び**【決定】**を押す

- 接続先の音声を設定するダイアログボックスが表示されます。

3 **【▲】【▼】**で**「合成」**または**「全ミュート」**を選び**【決定】**を押す

– **「合成」**（デフォルト）：接続先と親拠点の音声を合成し出力します。
– **「全ミュート」**：接続先の音声をミュートし、親拠点の音声のみを出力します。

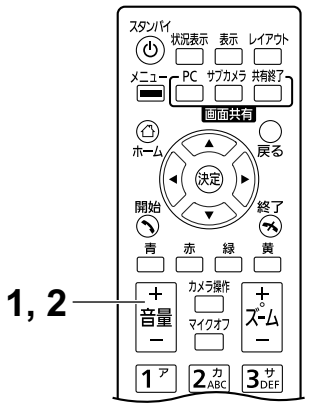
音量を調整する

通信中に音量を調整することができます。

1 **【音量（＋／－）】**を押す
- 音量調整バーが画面下に表示されます。

2 **【音量（＋／－）】**で音量を調整する
- 【＋】を押すと、相手の声が大きくなります。
- 【－】を押すと、相手の声が小さくなります。

約3秒後、音量調整バーの表示が消えます。



お知らせ

- 通信開始時の音量を設定することができます（111 ページ）。
- 通信終了後は、設定した通信開始時の音量に戻ります。
- 通信中の音量を調整できます。テレビの音量は調整できません。

マイク音声をマイクオフする

通信中に、自分の声を相手に聞こえないようにすること（マイクオフ）ができます。相手の声は聞こえますが、相手には自分の声は聞こえません。

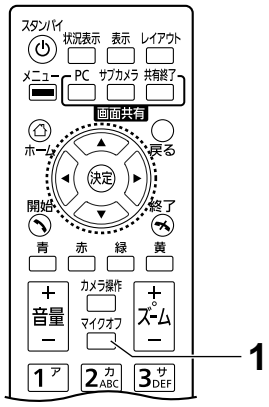
お知らせ

- 応答して通信を開始した時のマイクを、マイクオフにする設定ができます（108 ページ）。

マイクオフする（リモコンで操作する）

1 **【マイクオフ】**を押す

- 画面の状況表示エリアにアイコン（38 ページ）が表示され、専用マイクのランプが赤色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。
- もう一度**【マイクオフ】**を押すと、マイクオフは解除されます。専用マイクのランプが緑色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。



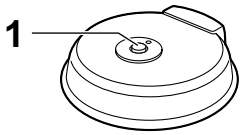
マイクオフする（専用マイクで操作する）

1　マイクオフボタンを押す

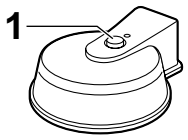
- 画面の状況表示エリアにアイコン（38 ページ）が表示され、専用マイクのランプが赤色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。
- もう一度マイクオフボタンを押すと、マイクオフは解除されます。専用マイクのランプが緑色点灯します。ランプの色が変わったことを確認してください。

お知らせ

- 専用デジタルマイクを複数接続している場合、ひとつの専用デジタルマイクのマイクオフボタンを押すとすべての専用デジタルマイクがマイクオフになります。
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続している場合、一方の専用マイクのマイクオフボタンを押すと両方の専用マイクがマイクオフになります。
- ヘッドセットを接続している場合、専用マイクのマイクオフボタンは使用できません。



専用デジタルマイク

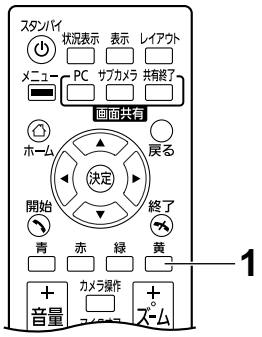


専用アナログマイク

マイク付近のノイズを減らす

通信中に自分のマイク付近のノイズ（書類をめくる音などの雑音）を減らし、相手に自分の音声を聞きやすくします。音声とノイズが同時にマイクに入った場合は、音声が小さくなることがあります。

1 **【黄】**を押す



- **「手元ノイズ抑圧 [ON]」**が表示され、本機能が有効になります。

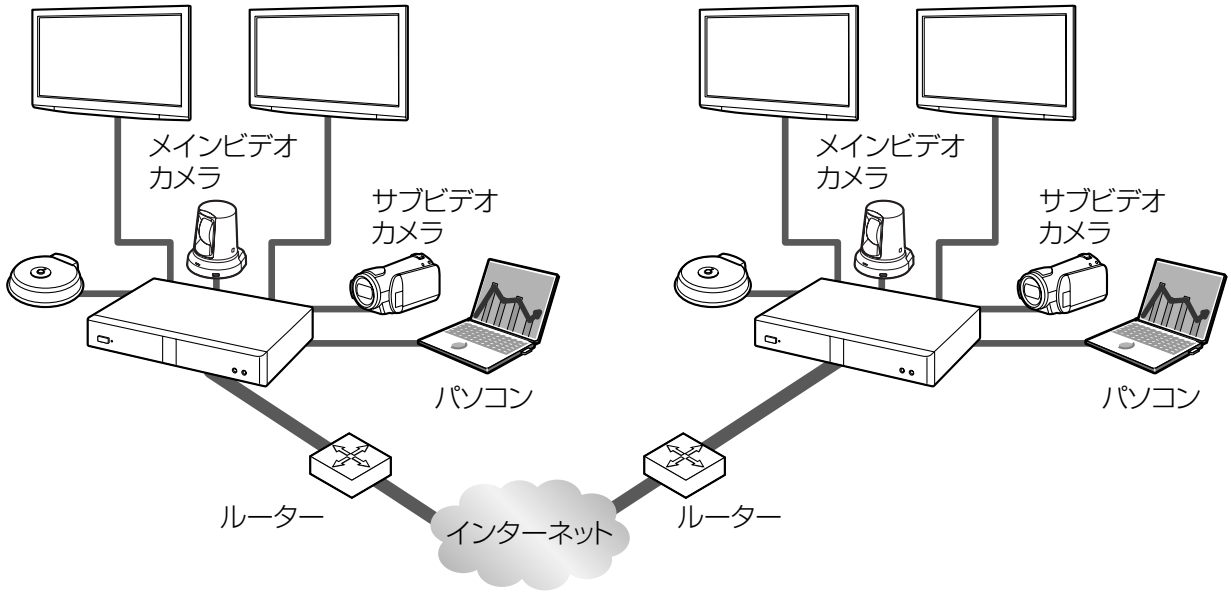
- もう一度**【黄】**を押すと**「手元ノイズ抑圧 [OFF]」**が表示され、本機能が無効になります。

お知らせ

- 本機能は、専用デジタルマイク接続時にのみ有効です。
- 通信を開始した時に本機能を有効にするかどうかを、あらかじめ設定することができます（108 ページ）。
- 通信終了後は、本機能は設定した通信開始時の設定に戻ります。

パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する

本機にパソコンやサブビデオカメラを接続すると、パソコンやサブビデオカメラの画面を自分と相手のテレビに表示させることができます。パソコンやサブビデオカメラの画面を見せながら説明をする場合などに便利です。



お知らせ

- パソコン画面共有に対応している解像度はVGA（640 × 480）、SVGA（800 × 600）、XGA（1024 × 768）、HD（1280 × 720）、WXGA（1280 × 768、1280 × 800）、SXGA（1280 × 1024）、UXGA（1600 × 1200）、WSXGA+（1680 × 1050）、Full-HD（1920 × 1080）です。

1 通信中に**【PC】**または**【サブカメラ】**を押す

デュアルストリーム通信の場合：

- 自分側のビデオカメラの映像と同時に、PCまたはサブビデオカメラのコンテンツ映像を相手拠点に送信することができます。相手側の様子と共有データを、同時に確認することができます。

お知らせ

- 通信の設定（107 ページ）でデュアルストリーム通信を無効にした場合、またはデュアルストリーム通信ができない端末と接続した場合は、画面切り替え方式となります。

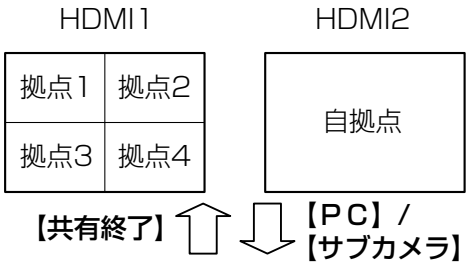
画面切り替え方式（以降、「シングルストリーム通信」と記載します。）の場合：

- テレビの表示が、メインビデオカメラの映像からPCまたはサブカメラのコンテンツ映像に切り替わります。
  相手のテレビにも同じ映像が表示されます。

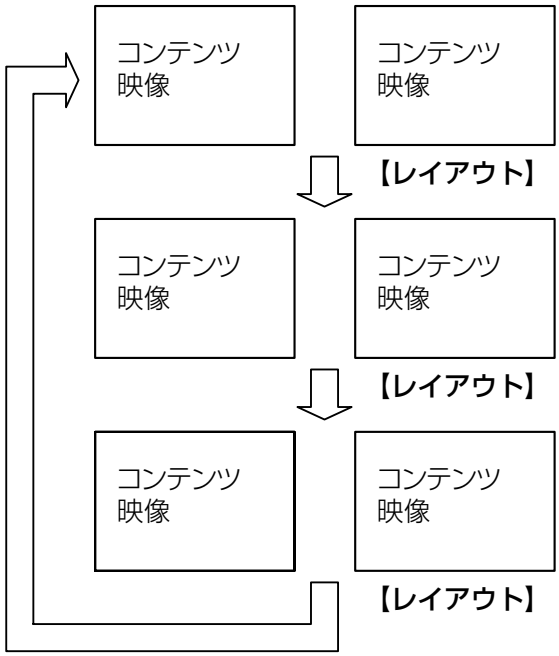
2 メインビデオカメラの映像に戻す場合は**【共有終了】**を押す

例：**シングルストリーム通信**（2画面使用、4地点通信、親拠点）

コンテンツ共有なし

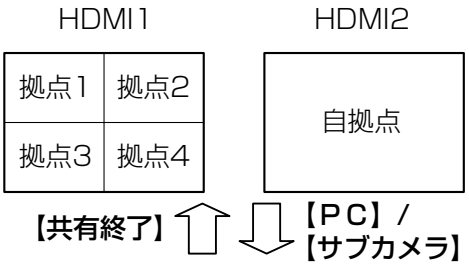


コンテンツ共有あり

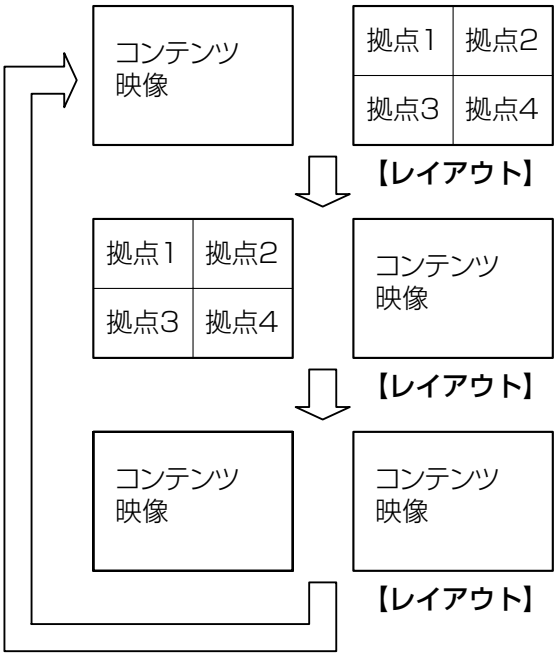


例：**デュアルストリーム通信**（2画面使用、4地点通信、親拠点）

コンテンツ共有なし



コンテンツ共有あり



※拠点１～拠点4は自拠点、または相手拠点です。

お知らせ

- **【レイアウト】**を押すたびに、2モニター間でコンテンツ映像、コンテンツ映像とカメラ映像の合成画面、カメラ映像の表示を切り替えることができます。
- シングルストリーム通信の場合
  - 2地点通信時、相手の画面レイアウトの状態によっては、相手のテレビに同じ画面が表示されない場合があります。その際は、**【共有終了】**を押してコンテンツ共有を解除するか、相手側の画面レイアウトを、こちら側の画面を表示するレイアウトに変更するように伝えてください。
- デュアルストリーム通信の場合
  - PCまたはサブカメラのコンテンツ映像を共有中に相手側からもコンテンツ映像を共有することができます。この場合、全拠点のコンテンツ映像が、後から共有された映像に変わりますのでご注意ください。
- ホーム画面（待受画面）を表示中に**【PC】**または**【サブカメラ】**を押すと、PCまたはサブカメラのコンテンツ映像を表示することができます。PCまたはサブカメラのコンテンツ映像を表示中は、スクリーンスタンバイ状態に移行しません。ホーム画面に戻るときは、**【共有終了】**を押してください。

ビデオカメラを操作する

通信中、自分側または相手側に接続されたPTZ（パン・チルト・ズーム） カメラまたは固定カメラのパン（左右移動）、チルト（上下移動）、ズームを操作することができます。メインまたはサブビデオカメラで操作が可能です。

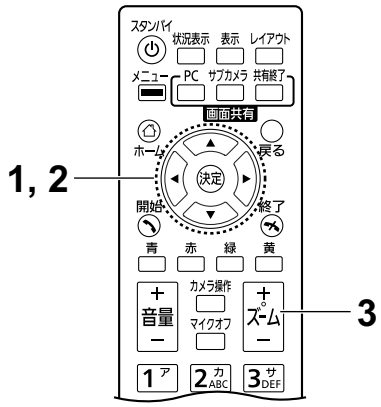
お知らせ

- 本書では、ビデオカメラの方向を変えるとき、カメラ可動部が回転するタイプを「PTZカメラ」と記載しています。可動部がなく、ビデオカメラ自体は回転しないタイプを「固定カメラ」と記載しています。
- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。
- ビデオカメラの機種によっては、利用できる機能が限られる場合があります。
（例：ズーム機能のみのビデオカメラ）
- 相手側が他社製のビデオ会議システムを使用している場合、操作ができなかったり、誤動作を起こす可能性があります。
- **「非通信中のカメラ直接操作」**の設定で、待受中のビデオカメラの操作を**「無効」**にすることができます（115 ページ）。
- 通信参加者の中に、KX-VC400/KX-VC500/KX-VC300/KX-VC600の2.30より古いソフトウェアのバージョン（2.30は含みません）を使用している相手がいる場合、相手側のビデオカメラは操作できません。自分側のビデオカメラ操作のみ可能です。
- 自分側のビデオカメラについて、相手側からの操作を許可するには、自分側で**「通信相手からのカメラ制御」**の設定（デフォルト：**「無効」**）を**「有効」**にする必要があります（115 ページ）。
- 親拠点では全拠点、子拠点では自拠点と親拠点のメイン表示に表示されている拠点のカメラを操作することができます。
- 内蔵MCUを使用した多地点通信の子拠点が自拠点以外のカメラを操作するには、親拠点側で**「カメラ制御の転送」**の設定（デフォルト：**「無効」**）を**「有効」**にする必要があります（110 ページ）。

自分側のビデオカメラを直接操作する

ホーム画面、通信中画面からリモコンにより直接PTZ（パン・チルト・ズーム）操作をすることができます。

1. **【▲】【▼】**： ビデオカメラを上方向／下方向に移動
2. **【◀】【▶】**： ビデオカメラを左方向／右方向に移動
3. **【ズーム（＋／－）】**： ビデオカメラをズームイン、ズームアウトする



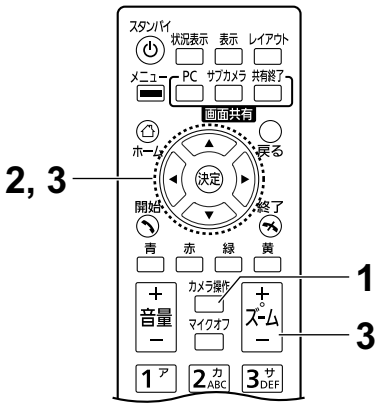
お知らせ

- 通信中に操作を行った場合は、自分側のビデオカメラ映像が表示され操作の確認を行うことができます。操作しない状態が約3秒間続くと、元の画面が表示されます。

ビデオカメラをメニューから操作する

1 **【カメラ操作】**を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



お知らせ

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約3秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。

2 **【▲】【▼】**で表示したい拠点を選び、**【決定】**を押す

- カメラ操作画面が表示されます。

3 リモコンのボタンを押してビデオカメラを操作する
【ズーム（＋／－）】：ズームイン／ズームアウト
【◀】【▶】：ビデオカメラを左方向／右方向に移動
【▲】【▼】：ビデオカメラを上方向／下方向に移動

- ボタンを押している間動作を続け、ボタンを離すと停止します。微調整したい場合は、ボタンを押してすぐ離す操作を繰り返してください。
- 通信中画面に戻りたい場合は**【戻る】**を押してください。

お知らせ

- リモコンの**【表示】**を押すと、ガイドエリアを表示／非表示にできます。非表示にした場合、ガイド表示の一部を非表示にするか、全部を非表示にするかを管理者メニューで設定できます（134 ページ）。
- 以下のような場合は**【カメラ操作】**を押してもビデオカメラを操作できません。
  - 機器情報表示画面表示中、接続表示画面表示中
  - ダイアログボックス表示中

プリセット登録をする

非通信中、自分側にメインまたはサブビデオカメラとして接続されたビデオカメラのプリセット（パン、チルト、ズームなどの調整）を9通りまで登録することができます。

お知らせ

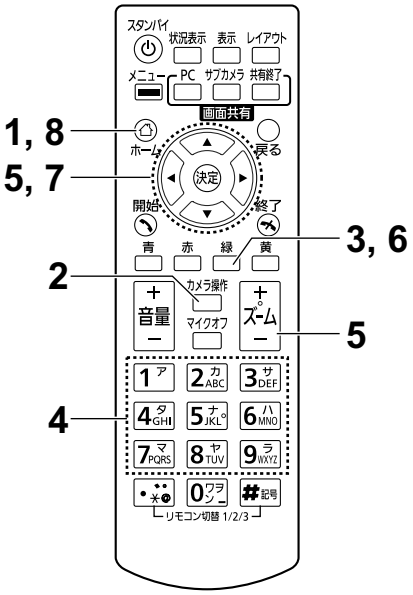
- プリセット登録は、プリセット機能をサポートしているビデオカメラを使用している場合のみ可能です。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- ビデオカメラの機種によっては、利用できる機能が限られる場合があります。
  （例：ズーム機能のみのビデオカメラ）

1 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

お知らせ

- サブビデオカメラのプリセット登録をする場合は、**【サブカメラ】**を押してください。

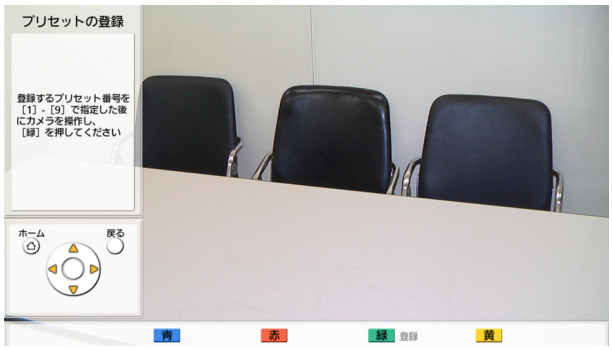


2 **【カメラ操作】**を押す

- 自分側のビデオカメラのカメラ操作画面が表示されます。

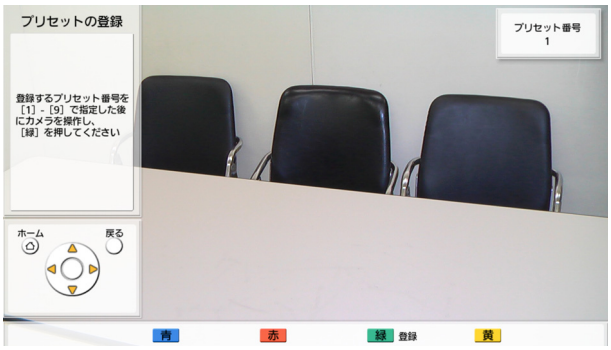
3 **【緑】**を押す

- プリセット登録画面が表示されます。



4 数字ボタン（1-9）を押して、登録したいプリセット番号を選ぶ

- 画面右上に選んだプリセット番号が表示されます。



お知らせ

- すでに登録しているプリセット番号を選んで登録を行った場合、プリセット登録情報は上書きされます。

5 リモコンのボタンを押して、ビデオカメラのプリセットを調整する

【ズーム（＋／－）】：ズームイン／ズームアウト
【◀】【▶】：ビデオカメラを左方向／右方向に移動
【▲】【▼】：ビデオカメラを上方向／下方向に移動

6 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

7 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- プリセット登録画面が表示されます。

お知らせ

- 連続して登録したい場合は、手順**4**～**7**をくり返してください。

8 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

お知らせ

- プリセット登録情報はビデオカメラ側に保存されます。ビデオカメラを初期化した場合、プリセット登録情報は破棄されますので、本機を使用して再度プリセット登録を行ってください。

登録したプリセットを呼び出す

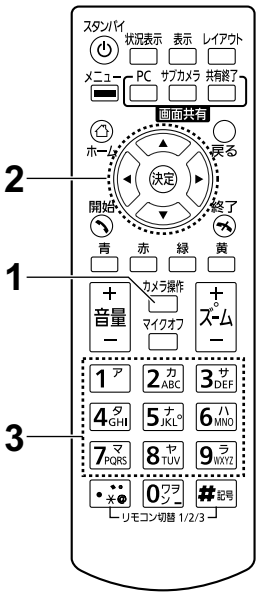
通信中に、事前に登録した自分側のビデオカメラのプリセットを呼び出し、ビデオカメラの向き、ズーム倍率、トリミングズームの設定内容などをご希望の状態に調整することができます。

お知らせ

- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。
- 通信中は、相手側で登録されたビデオカメラのプリセットを呼び出すことも可能です。

1 **【カメラ操作】**を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



お知らせ

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約3秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。

2 **【▲】【▼】**で**「自拠点」**を選び、**【決定】**を押す

- カメラ操作画面が表示されます。

3 数字ボタン（1-9）を押して、呼び出したいプリセット番号を選ぶ

- ビデオカメラの向きやズーム倍率が、事前に登録した状態になります。

ビデオカメラの設定をする

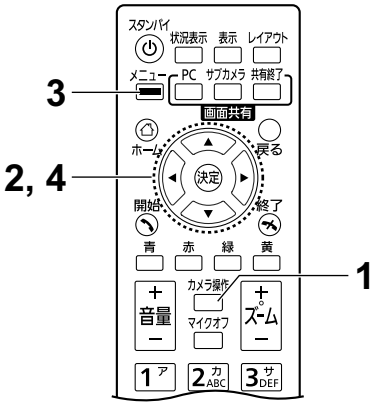
通信中または非通信中、自分側にメインまたはサブビデオカメラとして接続されたビデオカメラの明るさやホワイトバランスなどを設定することができます。

お知らせ

- ビデオカメラの機種によっては、設定できない場合があります。
  対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。

1 **【カメラ操作】**を押す

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されます。



お知らせ

- 拠点選択ダイアログボックスが表示されてから約3秒間操作を行わなかった場合、ダイアログボックスの表示が消えます。

2 **【▲】【▼】**で**「自拠点」**を選び、**【決定】**を押す

- カメラ操作画面が表示されます。

3 **【メニュー】**を押す

- カメラメニュー画面が表示されます。

4 **【▲】【▼】**で設定したい項目を選び**【決定】**を押す

- 各項目の設定画面が表示されます。

お知らせ

- ビデオカメラの機種によっては、設定項目が表示されない場合があります。
- カメラメニュー画面で設定を行っている間、相手側から自分側のビデオカメラを操作することはできません。

「明るさの調整」画面
「明るさモード」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「標準」**、**「手動」**を選ぶ

お知らせ

- **「手動」**を選んだ場合、リモコンのボタンを押して手動で明るさを調整できます。

  【青】：暗く
  【赤】：明るく

「ホワイトバランス」画面
さまざまな光源のもとで、白色が白色に映し出せるよう色合いを補正する機能です。

「ホワイトバランス」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で設定したいホワイトバランスの値（**「自動」**、**「室内1」**、**「室内2」**、**「室外（晴れ）」**、**「室外（曇り）」**、**「ワンプッシュ」**）を選ぶ

お知らせ

- 光源などにより色合いが不自然な場合以外は、**「自動」**を選んでください。
- **「室内1」**は光源が白熱電球などの場合、**「室内2」**は光源が電球色蛍光灯やナトリウムランプなどの場合に使用します。
- **「ワンプッシュ」**を選んだ場合、ホワイトバランスを調整できます。次の手順に従ってください。

1. **【決定】**を押す
   - 以前に**「ワンプッシュ」**を選んでホワイトバランスを設定していた場合は、前回調整した状態が呼び出されます。
2. 白い紙をビデオカメラに向ける
3. **【緑】**を押す

「フォーカスの調整」画面：**【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「フォーカス位置」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「中央」**、**「両サイド」**を選ぶ

「フォーカスモード」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「自動」**、**「手動」**を選ぶ

お知らせ

- **「手動」**を選んだ場合、リモコンのボタンを押してフォーカスを調整できます。

  【青】：近く
  【赤】：遠く

「バックライト補正」画面
逆光時に被写体が暗くなるのを自動で補正する機能です。

「バックライト補正」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「する」**、**「しない」**を選ぶ

「フリッカー補正」画面
映像のちらつきを補正する機能です。

「フリッカー補正」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「する」**、**「しない」**を選ぶ

「デジタルズーム」画面
撮影範囲の中央を切り出して、デジタル処理で拡大する機能です。

「デジタルズーム」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「する」**、**「しない」**を選ぶ

「トリミングズーム」画面
映像の一部を切り出し、画面の四隅に表示する機能です。

「トリミングズーム」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「する」**、**「しない」**を選ぶ

お知らせ

- トリミングズーム機能を利用する場合は、次の手順に従ってください。

1. **「する」**を選び**【決定】**を押す
   - 画面全体に自分側の映像・右上のサブ画面に自分側のトリミング映像が表示されます。

2. リモコンの**【緑】**を押してトリミングズームの詳細を設定する

お知らせ

- トリミングズームの設定は、プリセット登録することができます（83 ページ）。

（トリミングする位置を変更する場合）：
トリミングする内容を変更したい場合は、**【▲】【▼】【◀】【▶】**を押し、トリミング位置を示す枠を移動させて、調整してください。

（トリミングした映像の倍率を変更する場合）：
サブ画面に表示されるトリミング映像のサイズを変更したい場合、ズームインするには**【ズーム（+)】**、ズームアウトするには**【ズーム（−)】**を押してください。

（画面レイアウトを変更する場合）：
画面上の、トリミング映像の位置を変更したい場合は**【黄】**を押してください。
【黄】を押すたびに、以下の順番にトリミング映像の位置が切り替わります。

例：点線部分をトリミングズームし、画面左上に表示した場合

3. 「**トリミングズーム**」画面に戻る場合は【**戻る**】を、カメラメニュー画面に戻る場合は【**メニュー**】を押す

お知らせ

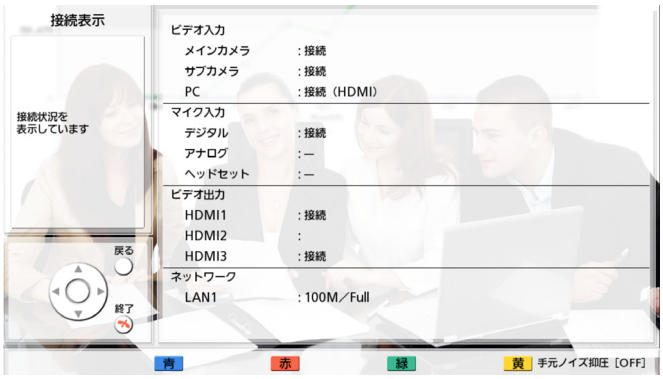
- 各設定画面で設定を完了したら【**決定**】を押してください。その後【**メニュー**】または【**戻る**】を押すとカメラメニュー画面が表示されます。

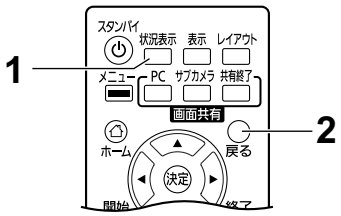
接続状況を表示する

ネットワークや周辺機器の接続状況を確認することができます。

1 **【状況表示】**を押す

- 接続表示画面が表示されます。接続や接続機器に不具合がある箇所、または接続されていない機器がある箇所には「—」のマークが表示されます。



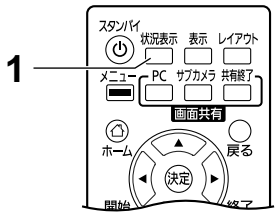


2 **【戻る】**を押す

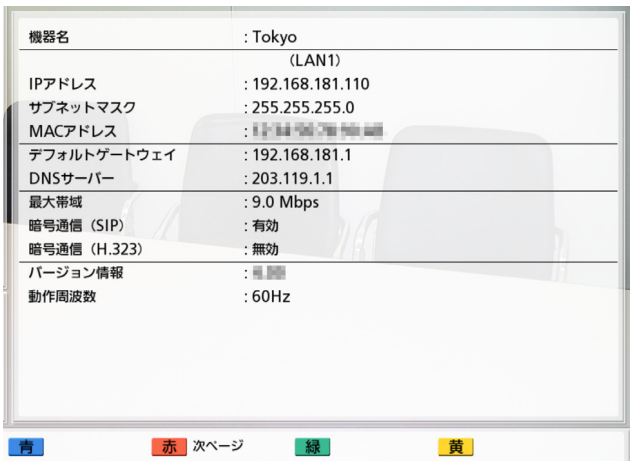
- 接続表示画面を表示させる前の画面に戻ります。

機器情報を表示する

1 **【状況表示】**を2回押す



- 機器情報表示画面が表示されます。



- 機器情報表示画面は、2画面から3画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

お知らせ

- **「暗号通信」**には暗号通信の有効／無効／接続優先が表示されます。
- 1ページ目、2ページ目は自拠点、3ページ目（通信中のみ）は相手拠点の情報を表示します。多地点通信時は、3ページ目で**【緑】**を押すと拠点選択ダイアログボックスが表示され、表示する拠点を変更できます。

アドレス帳に登録する

アドレス帳には相手先を最大600件まで登録することができます。

お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。
  【◀】【▶】で、**「はい」**、**「いいえ」**を選び、**【決定】**を押す
  - **「はい」**を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
  - **「いいえ」**を選ぶと、入力を続けることができます。
- 管理者メニューの設定で、アドレス帳の新規登録、編集、削除が行えないようにすることができます（133 ページ）。

新規に登録する

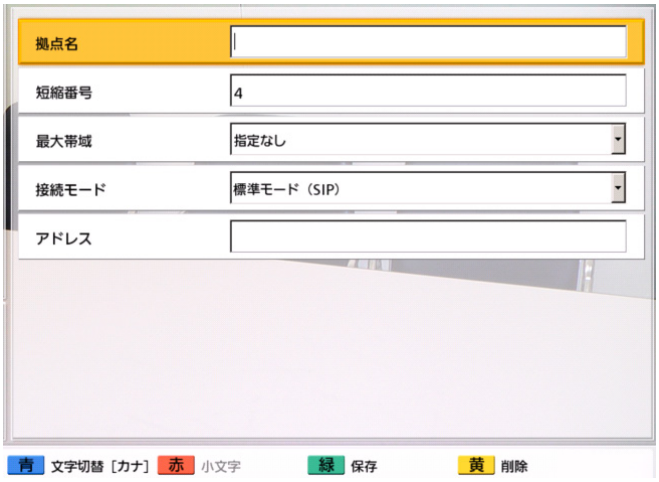
1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「アドレス帳を開く」**を選び、**【決定】**を押す

3 **【青】**を押す

- アドレス帳登録画面が表示されます。



4 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「拠点名」：拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（152 ページ）
「短縮番号」：短縮番号（**1～600**）を入力する
「最大帯域」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で最大帯域（**「256 kbps」**～**「18 Mbps」**、**「指定なし」**［デフォルト］）を選ぶ

お知らせ

- **「指定なし」**を設定した場合、通信設定画面（107 ページ）で設定した最大帯域が適用されます。
- 標準モード使用時の通信中は、最大帯域を最も小さく設定した参加者の最大帯域が適用されます。
- 販売店により設定された最大帯域より大きい値で通信することはできません。詳細については、販売店へお問い合わせください。

「接続モード」：**【▲】【▼】**で接続モード（通信タイプ）（**「つながるねっとサービスモード」**、**「標準モード（SIP）」**、**「標準モード（H.323）」**）を選ぶ
「アドレス」：IPアドレス（またはホスト名）、SIP-URI（またはSIPユーザー名）、H.323内線番号、H.323名、MCUの会議室番号@IPアドレス、または接続番号を入力する

お知らせ

- IPアドレスを入力するとき、1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001
- 宛先の入力で入力可能な文字は44 ページを参照してください。
- 相手が自分と同じSIPドメイン名を設定している場合は、SIPユーザー名のみの入力で登録できます。自分と異なるSIPドメイン名の場合は、SIPユーザー名に加えてSIPドメイン名の入力が必要です。
- SIPドメイン名を入力しなかった場合は、自分のSIPドメイン名が自動的に付与され登録されます。意図しない相手を登録する可能性がありますのでご注意ください。

- H.323を使用する場合、IPアドレス（またはホスト名）%H.323内線番号（またはH.323名）を入力することができます。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

5 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- アドレス帳画面が表示されます。

お知らせ
- 連続して登録したい場合は、**【青】**を押して、手順**4**～**6**をくり返してください。

7 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

登録内容を編集する

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「アドレス帳を開く」**を選び、**【決定】**を押す
- アドレス帳画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で編集したい相手を選ぶ
- **【◀】【▶】**、または数字ボタンを押すと、**「ア」**～**「ワ」**、**「A-Z」**、**「他」**から表示するタブ（行）が選べます（51 ページ）。

4 **【決定】**を押す
- アドレス帳詳細画面が表示されます。

5 **【緑】**を押す
- アドレス帳修正画面が表示されます。

6 **【▲】【▼】**で編集したい項目を選び、編集する

7 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

8 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- アドレス帳詳細画面が表示されます。

9 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

登録を削除する

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 【▲】【▼】で「アドレス帳を開く」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

3 【▲】【▼】で削除したい登録先を選ぶ

- 【◀】【▶】、または数字ボタンを押すと、「ア」～「ワ」、「A-Z」、「他」から表示するタブ（行）が選べます（51 ページ）。

4 【赤】を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- アドレス帳画面が表示されます。

6 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

履歴から登録する

発着信履歴から相手先をアドレス帳に登録することができます。

1 【メニュー】を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 【▲】【▼】で「履歴を見る」を選び、【決定】を押す

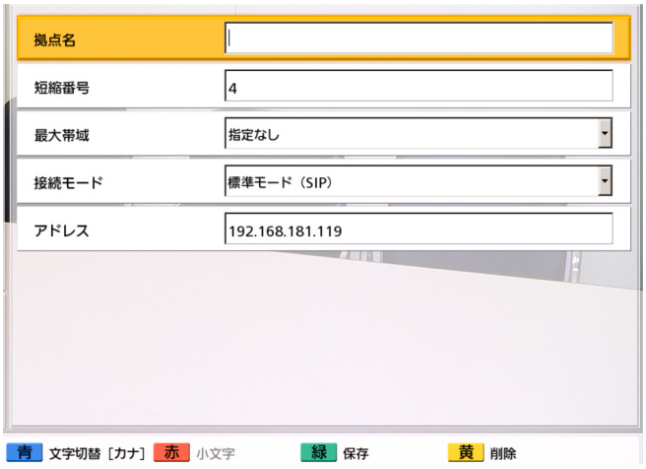
- 発信履歴一覧画面が表示されます。

お知らせ

- 【緑】を押すと、着信履歴を表示することができます。

3 【▲】【▼】で登録したい1地点の履歴を選び、【青】を押す

- アドレス帳登録画面が表示されます。



4 【▲】【▼】で必要な項目を選び、入力する

5 【緑】を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 発信履歴一覧画面または着信履歴一覧画面が表示されます。手順2で表示した画面が表示されます。

7 【ホーム】を押す

- ホーム画面が表示されます。

プロファイルを登録する

会議に参加できる拠点、通信タイプ、分割画面レイアウトなど、会議を開始するために必要な設定を事前にプロファイルとして登録することができます。
最大20件まで設定することができます。

新規に登録する

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

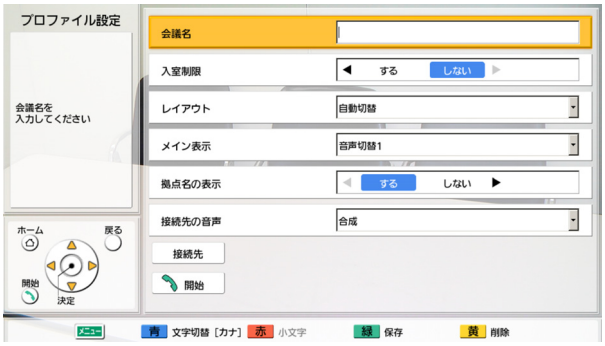
2 **【▲】【▼】**で**「プロファイルを開く」**を選び、**【決定】**を押す

- プロファイル一覧画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で**「＃未使用＃」**を選ぶ

4 **【青】**を押す

- プロファイル設定画面が表示されます。



5 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び入力する

「会議名」：拠点名（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（152 ページ）

「入室制限」：**【◀】【▶】**で登録された拠点以外の会議への入室を制限するかどうかを選ぶ

- **「する」**：会議への入室制限を行います。
- **「しない」**（デフォルト）：会議への入室制限を行いません。

「レイアウト」：**【▲】【▼】**で画面のレイアウトを選ぶ

- **「自動切替」**（デフォルト）：会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。
- **「CP1」**～**「CP10」**：選択された画面レイアウトで表示されます（69 ページ）。

「メイン表示」：**【▲】【▼】**でメイン表示（表示優先順位1）に表示する画面を選ぶ

- **「音声切替1」**（デフォルト）：最も音量が大きい拠点を、自動的にメイン表示に表示します。
- **「音声切替2」**：自拠点の映像をメイン表示に表示し、その時点で最も音量が大きい拠点を表示優先順位2に表示します。
- **「自拠点」**：自拠点を表示します。
- **「接続先1」**～**「接続先20」**：選択した接続先の映像をメイン表示に表示します。

「拠点名の表示」：多地点接続時に拠点名を表示するかどうかを選ぶ

- **「する」**（デフォルト）：拠点名を表示します。
- **「しない」**：拠点名を表示しません。

「接続先の音声」：多地点接続時に、相手拠点の音声を強制的にミュートするかどうかを選ぶ

- **「合成」**：相手拠点の音声を合成して出力します。
- **「全ミュート」**（デフォルト）：相手拠点の音声をミュートします。

6 **【▲】【▼】**で**「接続先」**を選び、**【決定】**を押す

- 接続先選択画面が表示されます。

お知らせ

- 選択の欄に「✔」が表示された接続先の登録がない場合、**【開始】**を押しても発信しません。

7 **【▲】【▼】**で**「#未使用#」**を選び、**【青】**を押す

- 入力方式選択のダイアログボックスが表示されます。

「アドレス入力」を選択した場合

- アドレス入力画面が表示されます。

① **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「接続モード」：**【▲】【▼】**で接続モード（通信タイプ）を選び、**【決定】**を押す
- **「標準モード（SIP）」**（デフォルト）：SIPを使用して通信します。
- **「標準モード（H.323）」**：H.323を使用して通信します。
- **「つながるねっとサービスモード」**：つながるねっとサービスを使用して通信します。

② **「アドレス」**：IPアドレス（またはホスト名）／SIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名／MCUの会議室番号@IPアドレス／接続番号を入力する

③ **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

④ **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 接続先選択画面が表示されます。

「アドレス帳参照」を選択した場合

- アドレス帳画面が表示されます。

① **【▲】【▼】**で登録したい相手を選び、**【決定】**を押す
- 接続先選択画面が表示されます。

「履歴参照」を選択した場合

- 発信履歴選択画面が表示されます。

① **【▲】【▼】**で登録したい相手を選び、**【決定】**を押す
- 接続先選択画面が表示されます。

8 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

9 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- プロファイル一覧画面が表示されます。

10 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

お知らせ

- 連続して登録したい場合は、**【青】**を押して、手順**3**～**9**をくり返してください。
- 接続先は20箇所まで登録可能ですが、**「未登録」**、**「接続モード（通信タイプ）」**の無効な設定を除き、先頭から使用可能な接続数が自動的に選択されます。

登録内容を編集する

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「プロファイルを開く」**を選び、**【決定】**を押す
- プロファイル一覧画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で編集したいプロファイルを選ぶ

4 **【青】**を押す
- プロファイル設定画面が表示されます。

5 **【▲】【▼】**で編集したい項目を選び、編集する

6 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

7 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- プロファイル一覧画面が表示されます。

8 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

登録内容を削除する

1 **【メニュー】**を押す
- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「プロファイルを開く」**を選び、**【決定】**を押す
- プロファイル一覧画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で削除したい登録先を選ぶ

4 **【赤】**を押す
- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- プロファイル一覧画面が表示されます。

6 **【ホーム】**を押す
- ホーム画面が表示されます。

発信元の設定をする

最大10パターンまで発信元を登録することができます。ネットワークや接続モードの設定を変更することなく、1台の本機を複数の会議室で使用することができます。

お知らせ

- 管理者メニューの設定で、メニュー画面から発信元選択画面を表示しないようにすることができます（134 ページ）。

発信元を登録する

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「発信元を選択する」**を選び、**【決定】**を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で**「#未使用#」**を選び、**【青】**を押す

- 発信元設定画面が表示されます。

4 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「発信元の作成方法」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で作成方法を選ぶ

- **「新規作成」**（デフォルト）：新規に作成します。
- **「基本設定からコピー」**：発信元選択画面の一番上の行（基本設定）の設定を流用します。
- **「(1)“機器名”からコピー」**～**「(9)“機器名”からコピー」**：（1）～（9）は発信元IDに対応しています。“機器名”には発信元ID1～9に既に設定されている機器名が表示されます。

「機器名」：発信元の機器名を入力する

お知らせ

- **＆＜＞,”** を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。

「接続モード」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で設定したい接続モード（**標準モード**、**つながるねっとサービスモード**、**標準・つながるねっとサービスモード**）を選ぶ（デフォルト：**「標準モード」**）

5 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

発信元を選択する

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「発信元を選択する」**を選び、**【決定】**を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で使用したい発信元を選ぶ

お知らせ

- 選択中の発信元には、**「現在の設定」**に**「→」**が表示されます。
- 発信元が登録されていない場合は**「#未使用#」**が表示されます。

4 **【緑】**を押す

- 発信元の利用を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 自動的に再起動します。

お知らせ

- 接続モードを変更する場合、ネットワークの状態によっては再起動に時間がかかる場合があります。
- もう一度再起動すると発信元は基本設定（発信元選択画面の先頭行）に戻ります。再起動前の選択を保持する場合は、**「再起動後の選択状態継続」**で**「有効」**を設定してください（135 ページ）。
- 発信元ごとにシステムの設定や管理者メニューの設定が行えます。発信元を切り替えた状態で各種設定を変更し保存すると、その発信元を選択時のみ有効な設定になります。

発信元情報を削除する

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「発信元を選択する」**を選び、**【決定】**を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で削除したい発信元を選ぶ

4 **【赤】**を押す

- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 発信元選択画面が表示されます。

6 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

システムの設定／保守をする

本機の各種機能を設定・変更・確認することができます。

お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。
  【◀】【▶】で**「はい」**、**「いいえ」**を選び、**【決定】**を押す
  - **「はい」**を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
  - **「いいえ」**を選ぶと、入力を続けることができます。

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「設定／保守をする」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

システム設定画面一覧

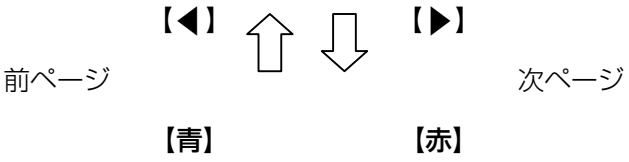
❶ 機器の設定：
機器名称を設定します（105 ページ）。

❷ 日時の設定：
日時を設定します（105 ページ）。

❸ ネットワークの設定：
ネットワークの設定をします
（105 ページ）。

❹ 通信の設定：
通信で使用する項目を設定します
（107 ページ）。

❺ MCUの設定：
内蔵MCUの設定をします（109 ページ）。



【◀】 【▶】

前ページ 次ページ

【青】 【赤】

❻ ワンタッチダイヤルの設定：
ホーム画面で表示されるワンタッチダイヤルを設定します（110 ページ）。

❼ スタンバイの設定：
スタンバイに移行する時間を設定します（111 ページ）。

❽ 音の設定：
起動や通信開始時などの音の設定をします（111 ページ）。

❾ マイク位置の設定：
専用デジタルマイクの集音位置を設定します（112 ページ）。

❿ リモコンの設定：
リモコンと本体にIDを設定します（114 ページ）。

【◀】 【▶】

前ページ 次ページ

【青】 【赤】

⓫ カメラの設定：
自拠点カメラの設定をします（114 ページ）。

⓬ 言語の設定：
表示する言語を設定します（115 ページ）。

❸ 管理者でログイン：
管理者メニューの設定画面に移行します（119 ページ）。

❹ 機器情報の表示：
本体の設定情報を表示することができます（116 ページ）。

❺ 拡張機能の確認：
ソフトウェア拡張機能により有効にした機能を確認することができます（116 ページ）。

❻ ネットワークの確認：
IPアドレスを指定して、ネットワーク接続を確認することができます（116 ページ）。

❼ 自己診断：
相手側に送信される映像、音声を自拠点で確認することができます（117 ページ）。

【◀】 【▶】
前ページ 次ページ
【青】 【赤】

❽ ライセンス情報：
ライセンスやオープンソースソフトウェアについての情報を表示することができます（117 ページ）。

❾ 使用許諾契約：
使用許諾契約についての情報を表示することができます（117 ページ）。

❿ リモートメンテナンス：
販売店によるリモートメンテナンスを実行するための操作を行います（117 ページ）。

3 **【▲】【▼】**で設定する項目を選び、**【決定】**を押す

- 選択した画面が表示されるので、各画面（❶～⓴）の説明に従って設定します。

4 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

機器名称を設定する

1 **「機器の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- 機器名称の設定画面が表示されます。

2 機器名称（全角、半角共通で最大24文字）を入力する（152 ページ）

お知らせ
- & < > , " を使用したい場合は、カナモード（全角）で入力してください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

日時を設定する

1 **「日時の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- 日時の設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で項目を選び、情報を入力する
- 西暦（4桁）、月（1～2桁）、日（1～2桁）、時刻（24時間表示）を入力し、日付表示形式（月／日／年、日／月／年、年／月／日）、時間表示（12時間／24時間）を選択してください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

ネットワークの設定をする

お知らせ
- LAN2の設定をしない場合は、手順3で**【緑】**を押し設定を保存して終了してください。
- 管理者メニューの設定で、ネットワークの設定画面を表示しないようにすることができます（134 ページ）。

LAN1の設定をする

1 **「ネットワークの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- ネットワークの設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面移動し、すべての項目を表示することができます。

「IPアドレスの設定」：**【◀】【▶】**で本機のIPアドレス情報（**「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ
- **「自動」**（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。
- **「手動」**：IPアドレス情報を手動で設定します。

お知らせ
- **「自動」**に設定していても、ネットワーク障害の発生などによりIPアドレス情報を取得できない場合があります。この場合、ホーム画面の右上に**「アドレス未取得」**と表示されます。ネットワーク管理者にご相談ください。

「IPアドレス」：本機のIPアドレスを入力する
「サブネットマスク」：サブネットマスクを入力する
「デフォルトゲートウェイ」：デフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力する

お知らせ
- **「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**は、**「IPアドレスの設定」**を**「手動」**に設定している場合のみ入力可能です。
- **「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「デフォルトゲートウェイ」**の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力し

てください。「.001」のような入力はしないでください。
例：「192.168.0.1」の場合：
（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001

「DNSの設定」：**【◀】【▶】**でDNSサーバーのIPアドレス情報（**「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**）をDHCPサーバーから自動的に取得するか、手動で設定するかを選ぶ

– **「自動」**（デフォルト）：IPアドレス情報を自動的に取得します。
– **「手動」**：IPアドレス情報を手動で設定します。

お知らせ

- **「自動」**を選ぶには、**「IPアドレスの設定」**を**「自動」**に設定している必要があります。
- 次の機能を使用するためには、DNSサーバーの設定が必要です。
  – ホスト名での発信
  – ホスト名でのSIPサーバー／ゲートキーパーアドレスの設定
  – バージョンアップの確認
  – ネットワークからの最新バージョンのダウンロード

「優先DNSサーバー」：優先DNSサーバーのIPアドレスを入力する
「代替DNSサーバー」：代替DNSサーバーのIPアドレスを入力する

お知らせ

- **「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**は、**「DNSの設定」**を**「手動」**に設定している場合のみ入力可能です。
- **「優先DNSサーバー」**、**「代替DNSサーバー」**の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
例：「192.168.0.1」の場合：
（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001

3 LAN1の設定を変更した場合：**【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されるので、設定を保存してください。

LAN2を設定する場合：**【赤】**を押す

- 次ページが表示されます。

LAN2の設定をする（KX-VC1600Jのみ）

4 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「LAN2の使用」：LAN2の**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ
「IPアドレス」：LAN2のIPアドレスを入力する
「サブネットマスク」：LAN2のサブネットマスクを入力する

お知らせ

- **「IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**の値が1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
例：「192.168.0.1」の場合：
（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001
- **「ルーティングの設定」**は、**「LAN2の使用」**を**「する」**に設定しないと表示されません。**「LAN2の使用」**を**「する」**に変更した場合は、**【緑】**を押して設定を保存・終了し、再度**「ネットワークの設定」**を選んでルーティングを設定してください。

LAN2のルーティング設定をする（KX-VC1600Jのみ）

5 **【▲】【▼】**で**「ルーティングの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- ルーティング一覧画面が表示されます。

6 **【▲】【▼】**で**「＃未使用＃」**を選ぶ

7 **【青】**を押す

- ルーティングの設定画面が表示されます。

8 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「宛先IPアドレス」：LAN2で通信する相手側のIPアドレスを入力する
「サブネットマスク」：LAN2で通信する相手側のサブネットマスクを入力する
「ゲートウェイ」：設定した相手との通信用のゲートウェイアドレスを入力する

お知らせ

- **「宛先IPアドレス」**、**「サブネットマスク」**、**「ゲートウェイ」**の値が1桁または2桁の数

値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
例：「192.168.0.1」の場合：
（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001

9 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

10 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- ルーティング一覧画面が表示されます。

お知らせ

- 連続して登録したい場合は、手順**6**～**10**をくり返してください。
- 登録した**「宛先IPアドレス」**はネットワークアドレスに変換して使用されます。ネットワークアドレスが同一の宛先IPアドレスを複数登録する必要はありません。

11 **【戻る】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

通信の設定をする

お知らせ

- 管理者メニューの設定で、通信設定画面を表示しないようにすることができます（134 ページ）。

1 **「通信の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 通信設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

お知らせ

- 画面を移動する前に、変更した設定内容を保存する必要があります。
- 通信タイプ設定画面（126 ページ）で**「SIPの使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「暗号通信（SIP）」**は設定できません。
- 通信タイプ設定画面（126 ページ）で**「H.323の使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。

「着信時の応答方法」：**【◀】【▶】**で着信方法（**「手動応答」**［デフォルト］、**「自動応答」**）を選ぶ（61 ページ）

「2地点以上の着信」：**【◀】【▶】**で2地点以上の子拠点からの着信をするかどうかを選ぶ

– **「有効」**：2地点以上の着信を許可します。
– **「無効」**（デフォルト）：2地点以上の着信を拒絶します。

お知らせ

- 内蔵MCUを使用した多地点通信で「親拠点」として運用する拠点は**「有効」**を選択してください。

「最大帯域」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で最大帯域（**256 kbps**～**18 Mbps**）を選ぶ（デフォルト：**9.0 Mbps**）

お知らせ

- 2地点通信では、最大帯域を最も小さく設定した拠点の最大帯域が適用され、多地点通信では、各拠点の最大帯域と接続拠点数に応じた帯域が適用されます。
- 販売店により設定された最大帯域より大きい値を設定することはできません。詳細については、販売店へお問い合わせください。

「デュアルストリーム」：**【◀】【▶】**でデュアルストリーム通信を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：デュアルストリーム通信を有効にします。
– **「無効」**：デュアルストリーム通信を無効にします。

「エンコードレート比率」：**【◀】【▶】**でメインストリームとサブストリームのエンコードレート比率を選ぶ

– **「メインストリーム（30%）<サブストリーム（70%）」**：サブストリーム優先で通信します。
– **「メインストリーム（50%）＝サブストリーム（50%）」**（デフォルト）：同じ優先度で通信します。

– **「メインストリーム（70%）>サブストリーム（30%）」**：メインストリーム優先で通信します。

「暗号通信（SIP）」：**【◀】【▶】**で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**：暗号通信を有効にします。
– **「無効」**（デフォルト）：暗号通信を無効にします。

「暗号通信（H.323）」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

– **「接続性優先」**（デフォルト）：相手先が暗号化通信を**「有効」**に設定しているときは、暗号化通信が有効になります。**「無効」**に設定しているときは、暗号化せず通信します。
– **「有効」**：暗号通信を有効にします。
– **「無効」**：暗号通信を無効にします。

お知らせ

- 通信ができなくなる可能性がありますので、暗号通信の設定を変更するときはご注意ください。
- 暗号通信を無効にした場合、盗聴対策のとられていないネットワークでは、盗聴される恐れがありますのでご注意ください。
- **「暗号通信（SIP）」**／**「暗号通信（H.323）」**の設定ができない場合は、ネットワーク管理者にご連絡ください。

「画質」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で映像の動きのなめらかさと解像度のどちらを優先させるかを選ぶ

– **「動き優先」**（デフォルト）：動きのなめらかさを優先させます。
– **「解像度優先」**：画質を優先させます。
– **「解像度固定（最大フルHD）」**：通信帯域によらず解像度を、フルHDまたは相手の最大解像度のうち低い方の値に固定します。
– **「解像度固定（最大HD）」**：通信帯域によらず解像度を、HDまたは相手の最大解像度のうち低い方の値に固定します。

「優先制御」：**【◀】【▶】**で低帯域時やネットワーク混雑時に、音声と映像のどちらを優先させるかを選ぶ

– **「音声優先」**（デフォルト）：低帯域時の音声品質を優先させ、ネットワーク混雑時の音声の乱れを防止します。
– **「映像優先」**：低帯域時やネットワーク混雑時でも、映像品質を優先させます。

「着信時のマイクオフ」：**【◀】【▶】**で応答して通信を開始した時のマイクを、マイクオフするかどうかを選ぶ

– **「する」**：マイクをマイクオフします。
– **「しない」**（デフォルト）：マイクをマイクオフしません。

「最長通信時間」：1回の通信で、連続通信できる最長時間（時間・分）を入力する

お知らせ

- 0時間0分（デフォルト）に設定すると、通信時間に制限はありません。
- 設定した通信時間が経過すると、自動的に通信が切断されます。

「ネットワーク状況アイコン表示」：**【◀】【▶】**でネットワーク状況アイコンを表示するかどうかを選ぶ

– **「する」**（デフォルト）：ネットワーク状況アイコンを表示します。
– **「しない」**：ネットワーク状況アイコンを非表示にします。

「通信開始時のガイド表示」：**【◀】【▶】**で通信開始時のガイドエリアを表示をするかどうかを選ぶ

– **「する」**（デフォルト）：ガイドエリアを表示します。
– **「しない」**：ガイドエリアを非表示にします。

「通信開始時の手元ノイズ抑圧」：**【◀】【▶】**で通信開始時のノイズ抑圧機能を有効にするかどうかを選ぶ

– **「ON」**：ノイズ抑圧機能を有効にします。
– **「OFF」**（デフォルト）：ノイズ抑圧機能を無効にします。

「つながるねっとのサーバーポート」：つながるねっとサーバーと接続するときのポート設定を選ぶ

– **「通常」**（デフォルト）：通常使用されるポートに自動で設定されます。
– **「代替」**：通常で通信できない場合に設定します。

お知らせ

- **「接続モード」**が**「つながるねっとサービスモード」**、**「標準・つながるねっとサービスモード」**の場合に表示されます。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

MCUの設定をする

1 **「MCUの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 内蔵MCUの設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。

「レイアウト」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で分割画面のレイアウトを選ぶ

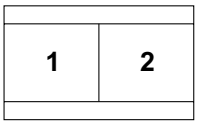
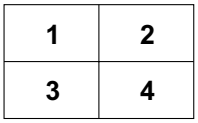
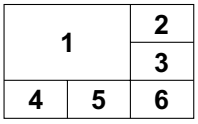
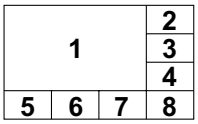
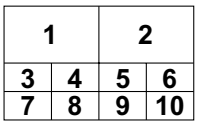
– **「自動切替」**（デフォルト）：接続拠点数により自動的にレイアウトが切り替わります。
– **「CP1～CP10」**：画面レイアウトを手動で設定します。

お知らせ

- **「自動切替」**を選択した場合、会議に参加している拠点の数によって、自動的にレイアウトが切り替わります。

拠点の数	レイアウト番号
1～2	CP1
3～4	CP4
5～6	CP6
7～8	CP8
9～10	CP10

- 会議中の画面レイアウトは、次の6パターンから選ぶことができます。レイアウト構成内の数字は、拠点映像の表示優先順位を表します。

レイアウト番号	レイアウト構成
CP1	
CP2	
CP4	
CP6	
CP8	
CP10	

「メイン表示」：**【決定】**を押し、**【◀】【▶】**でメイン表示の表示方法を選ぶ

– **「音声切替1」**（デフォルト）：最も音量が大きい拠点を、自動的にメイン表示に表示します。
– **「音声切替2」**：自拠点の映像をメイン表示に表示し、その時点で最も音量が大きい拠点を表示優先順位2に表示します。
– **「自拠点」**：自拠点を表示します。

「画面切り替え時間」：**【◀】【▶】**で音声制御時に画面を固定する時間（1～20秒）を選ぶ（デフォルト：10秒）

「拠点名の表示」：**【◀】【▶】**で分割画面内に拠点名を表示するかどうかを選ぶ

– **「する」**：拠点名を表示します。
– **「しない」**：拠点名を表示しません。

「カメラ制御の転送」：**【◀】【▶】**で子拠点からメイン表示拠点のカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

– **「有効」**：子拠点からのカメラ操作を許可します。
– **「無効」**（デフォルト）：子拠点からのカメラ操作を許可しません。

「DTMFによるコンテンツ共有」：**【◀】【▶】**で子拠点のリモコン操作によるコンテンツ共有を許可するかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：子拠点からのリモコンによる操作を許可します。
– **「無効」**：子拠点からのリモコンによる操作を許可しません。

お知らせ

- **「有効」**に設定すると、子拠点から**【PC】**、**【サブカメラ】**、**【共有終了】**ボタンおよびテンキー（＊10：共有開始、＊11：共有終了）でコンテンツ共有を操作できます。

「DTMFによる分割レイアウト変更」：**【◀】【▶】**で相手拠点のリモコン操作により、画面レイアウト変更の操作をするかどうかを選ぶ

– **「有効」**：子拠点からのリモコンによる操作を有効にします。
– **「無効」**（デフォルト）：子拠点からのリモコンによる操作を無効にします。

「CP1自動移行」：**【◀】【▶】**でコンテンツ共有開始時に画面レイアウトをCP1へ変更する機能を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：CP1への移行を有効にします。
– **「無効」**：CP1への移行を無効にします。

「接続先の音声」：**【◀】【▶】**で子拠点の音声を親拠点の音声と合成するかどうかを選ぶ

– **「合成」**（デフォルト）：子拠点と親拠点の音声を合成し出力します。
– **「全ミュート」**：子拠点の音声をミュートし親拠点の音声のみを出力します。

「接続先の音声状況アイコン表示」：**【◀】【▶】**で子拠点の音声状況アイコンを表示するかどうかを選ぶ

– **「する」**（デフォルト）：音声状況アイコンを表示します。
– **「しない」**：音声状況アイコンを表示しません。

「異速度設定」：2種類の通信グループの閾値を選ぶ

– **「指定なし」**（デフォルト）：帯域は閾値を考慮しません。
– **「256 kbps以上」**～**「2.0 Mbps以上」**：帯域を考慮して2種類の通信グループの閾値を判定します。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

ワンタッチダイヤルの設定をする

ホーム画面で表示されるワンタッチダイヤル（1～5）に割り当てるアドレス、またはプロファイルを設定します。

1 **「ワンタッチ設定」**を選び、**【決定】**を押す

- ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「＃未使用＃」**を選ぶ

3 **【青】**を押す

- 入力参照先を選択するダイアログボックスが表示されます。

4 **【▲】【▼】**で参照先（**「アドレス帳参照」**、**「プロファイル参照」**）を選び**【決定】**を押す

「アドレス帳参照」を選択した場合：
アドレス帳選択画面が表示されます。

1. **【▲】【▼】**で登録する相手先を選び**【決定】**を押す
   - ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

「プロファイル参照」を選択した場合：
プロファイル一覧参照画面が表示されます。

1. **【▲】【▼】**で登録する会議名を選び**【決定】**を押す
   - ワンタッチダイヤルの設定画面が表示されます。

5 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

スクリーンスタンバイの設定をする

ある一定期間、リモコンの操作を行わない場合や着信がない場合、スクリーンスタンバイ状態に移行します。スクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を設定することができます。

1 **「スタンバイの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- スクリーンスタンバイ設定画面が表示されます。

2 本機がスクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間（分）（**0**～**99**）を入力する（デフォルト：**10**）

お知らせ

- **「0」**に設定した場合、本機は自動的にはスクリーンスタンバイ状態に移行しません。リモコンの**【スタンバイ】**を押すと、**「0」**に設定した場合でも、スクリーンスタンバイ状態に移行します。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

音の設定をする

1 **「音の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- 音設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「起動音量」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で起動時の音量レベル（**「切」**、**「小」**、**「中」**［デフォルト］、**「大」**）を選ぶ

「発信音量」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で発信音の音量レベル（**「切」**、**「小」**、**「中」**［デフォルト］、**「大」**）を選ぶ

「着信音量」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で着信音の音量レベル（**「切」**、**「小」**、**「中」**［デフォルト］、**「大」**）を選ぶ

「発信音」：発信音のパターン（**「パターン1」**～**「パターン5」**）を選ぶ（デフォルト：**「パターン1」**）

「着信音」：着信音のパターン（**「パターン1」**～**「パターン5」**）を選ぶ（デフォルト：**「パターン1」**）

「通信開始時の音量」：**【◀】【▶】**で通信開始時の音量レベル（**0**～**20**）を選ぶ（デフォルト：**16**）

「通信開始時の音質」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で通信開始時の音質（**「高音強調」**、**「標準」**［デフォルト］、**「低音強調」**、**「音声」**、**「音楽」**）を選ぶ

お知らせ

- **【赤】**を押すと以下の項目を試聴することができます。
  - **「起動音量」**
  - **「発信音量」**
  - **「着信音量」**
  - **「発信音」**
  - **「着信音」**

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

マイク位置の設定をする

テレビから見た、専用デジタルマイクの集音位置を設定することができます。音声が通信相手に送信されると、設定した集音位置に基づいたステレオ音声で相手に聞こえます。

マイク位置を自動で設定する

1 **「マイク位置の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- おまかせ設定画面が表示されます。

お知らせ

- ユーザー設定画面が表示されている場合、**【青】**を押して、おまかせ設定画面に切り替えてください。

2 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

3 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

お知らせ

- 接続する専用デジタルマイクの台数により、専用デジタルマイクの出力は次のとおり異なります。
  - 2台以上の専用デジタルマイクを接続した場合：
    モノラル
  - 1台の専用デジタルマイクを接続した場合：
    ステレオ
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合、専用マイクの出力はどちらもモノラルになります。

マイク位置を手動で設定する

1 **「マイク位置の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- おまかせ設定画面が表示されます。

お知らせ

- ユーザー設定画面が表示されている場合は、手順3にすすんでください。

2 **【青】**を押す

- ユーザー設定画面が表示されます。

3 **【▲】【▼】**で設定したい専用デジタルマイクを選び、**【決定】**を押す

4 **【▲】【▼】**で専用デジタルマイクの集音位置を選ぶ

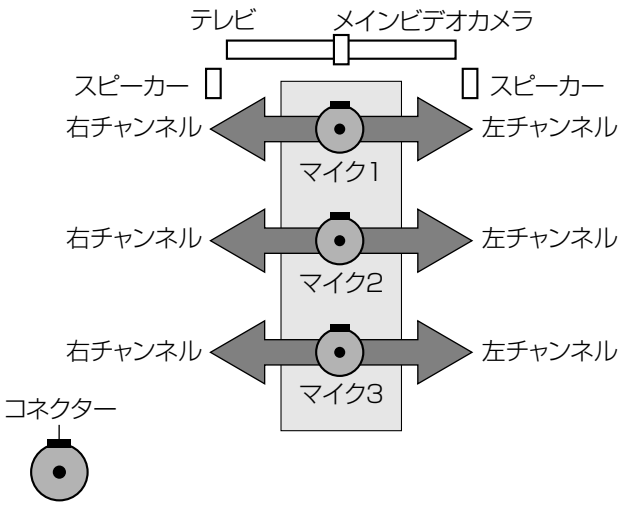
「左側」：左側の音声として送信される
「右側」：右側の音声として送信される
「中央モノラル」：すべての音声が左右両方のスピーカーへ同じ音量で送信される
「中央ステレオ」：マイクに集音された左右の音声がそれぞれ左側と右側のスピーカーへ同じ音量で送信される

お知らせ

- 専用デジタルマイクを**「中央ステレオ」**に設定する場合、専用デジタルマイクのコネクターを必ずテレビ側に向けて専用デジタルマイクを設置してください。
- 専用デジタルマイクと専用アナログマイクを同時に接続した場合、専用マイクの出力は次のとおり異なります。
  - 専用デジタルマイク：
    手動で設定した出力
  - 専用アナログマイク：
    モノラル
- 次の図中の設定値は、メインビデオカメラ側から見たチャンネルの左右を記載しています。

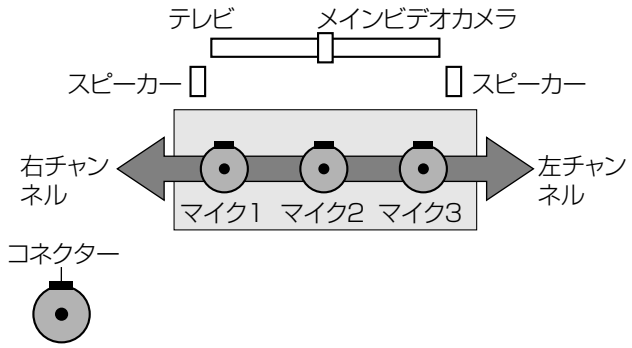
専用デジタルマイクの集音位置の設定例は次のとおりです。

専用デジタルマイクをテレビに対して垂直に設置する場合：



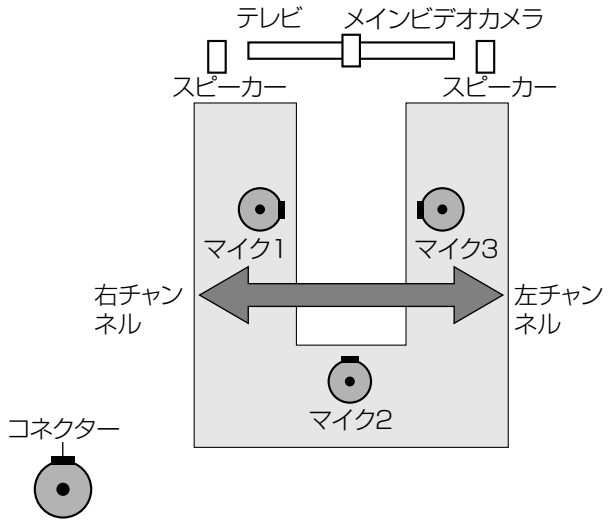
マイク1：**「中央ステレオ」**
マイク2：**「中央ステレオ」**
マイク3：**「中央ステレオ」**

専用デジタルマイクをテレビに対して平行に設置する場合：



マイク1：**「右側」**
マイク2：**「中央モノラル」**
マイク3：**「左側」**

専用デジタルマイクを次のように設置する場合：



マイク1：**「右側」**
マイク2：**「中央モノラル」**
マイク3：**「左側」**

お知らせ

- 専用デジタルマイクの近くで音を鳴らしてください。音を拾った専用デジタルマイクに「▶」が表示されます。
- 専用デジタルマイクをマイクオフしている場合は、「▶」は表示されません。
- 複数の専用デジタルマイクが同時に音を拾った場合、「▶」は表示されません。
- 専用デジタルマイクをマイクオフしているときに、マイクオフボタンを押すと、押したときの音を拾って「▶」が表示される場合があります。

5 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

お知らせ

- 設定後、専用デジタルマイクを移動しないでください。設定が専用デジタルマイクの位置と合わなくなる場合があります。

リモコンの設定をする

リモコンと本体にリモコンID（1、2、3）を設定することができます。
リモコンIDが同じリモコンからの信号に本体は反応します。リモコンIDを設定しない場合、本体はすべてのリモコンからの信号に反応します。ホーム画面で本体のリモコンIDを確認することができます（38 ページ）。

1 **「リモコンの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- リモコン設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「リモコンIDの設定」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ
- **「する」**を選ぶと、本体のリモコンIDを設定することができます。
- **「しない」**を選ぶと、本体はすべてのリモコンに反応します。

「本体のリモコンID」：**【◀】【▶】**で本体のリモコンID（**「ID1」**［デフォルト］、**「ID2」**、**「ID3」**）を選ぶ
「IDの不一致確認」：**【◀】【▶】**で**「する」**（デフォルト）、**「しない」**を選ぶ
- **「する」**を選ぶと、本体に設定したIDと異なるリモコンからの信号を、ホーム画面を表示中に受信したとき、警告画面が表示されます。画面上の次の手順に従って、リモコンIDを変更してください。
- **「しない」**を選ぶと、本体に設定したIDと異なるリモコンから信号を受信しても、ホーム画面に警告画面は表示されません。

お知らせ
- 近くで複数のリモコンIDを使用している場合は、**「IDの不一致確認」**を**「しない」**に設定してください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

5 **「リモコンIDの設定」を「する」に設定している場合**：
リモコンのIDを変更するダイアログボックスが表示されます。手順**6**にすすんでください。

お知らせ
- ダイアログボックスが表示されている間は、着信できません。

「リモコンIDの設定」を「しない」に設定している場合：
システム設定画面が表示されます。**【ホーム】**を押して、ホーム画面に戻ります。

6 次の手順に従って、リモコンのIDを変更する

1 **【・】**と**【#】**を同時に押したままにする

2 ボタンを離して2秒以内に、手順**1**の**「本体のリモコンID」**で設定したIDと一致する番号（**1**～**3**）を押す
- **1**: ID1
- **2**: ID2
- **3**: ID3

7 **【決定】**を押す
- ダイアログボックスが消えて、本体のリモコンIDが保存されます。

お知らせ
- ダイアログボックスが消えない場合は、上記の手順をくり返し実行してください。何度実行してもダイアログボックスが消えない場合は、電源を一度切ったあと再度入れ直して、設定を中止してください。詳細については、販売店へお問い合わせください。

ビデオカメラの設定をする

1 **「カメラの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- ビデオカメラ設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「通信相手からのカメラ制御」：**【◀】【▶】**で、通信相手からのビデオカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

– **「有効」**：通信相手からのビデオカメラ操作を許可します。
– **「無効」**（デフォルト）：通信相手からのビデオカメラ操作を許可しません。

「通信中のカメラ直接操作」：**【◀】【▶】**で、通信中のリモコンによるカメラ操作を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：リモコンによるカメラ操作を許可します。
– **「無効」**：リモコンによるカメラ操作を許可しません。

「非通信中のカメラ直接操作」：**【◀】【▶】**で、非通信中のリモコンによるカメラ操作を許可するかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：リモコンによるカメラ操作を許可します。
– **「無効」**：リモコンによるカメラ操作を許可しません。

「パン方向」：**【◀】【▶】**で、リモコンのボタンを押したときに自分側のビデオカメラが動く方向を選ぶ

– **「通常」**（デフォルト）：ビデオカメラ側から見た左右方向に動きます。
– **「逆方向」**：被写体側から見た左右方向に動きます。

「固定カメラのリモコン受信」：**【◀】【▶】**で、リモコンでの操作を、固定カメラ側で受けるか本機側で受けるかを選ぶ

– **「有効」**：リモコンでの操作を固定カメラ側で受けます。
– **「無効」**（デフォルト）：リモコンでの操作を本機側で受けます。

お知らせ

- 固定カメラが接続されていない場合、または固定カメラの機種によっては、**「有効」**を選んでいても、本機側でリモコン操作を受けます。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

言語の設定をする

1 **「言語の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 言語設定画面が表示されます。

2 **【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で言語を選ぶ

お知らせ

- 選択可能な言語は以下のとおりです：**「日本語」**（デフォルト）、**「English」**：英語、**「简体中文」**：中国語

3 **【決定】**を押す

4 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が選択した言語で表示されます。

お知らせ

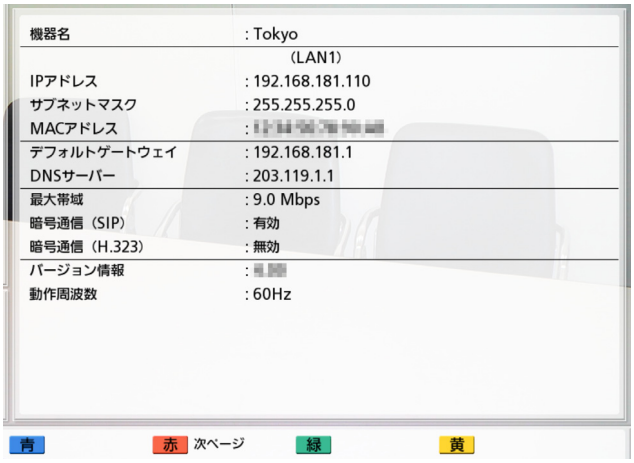
- 誤って希望しない言語に切り替えてしまった場合は、次の手順で設定を変更してください。
  1. **【ホーム】**を押す
  2. **【メニュー】**を押す
  3. **【▼】**を4回押して上から5つ目の項目を選び、**【決定】**を押す
  4. **【▶】**を2回押す
     - 次のページが表示されます。

5. 【▼】を1回押して上から2つ目の項目を選び、**【決定】**を押す
   - 言語設定画面が表示されます。
6. 手順2からやり直す

機器情報を表示する

本機の設定情報を表示することができます。

1 **「機器情報の表示」**を選び、**【決定】**を押す
- 機器情報表示画面が表示されます（93 ページ）。



2 **【戻る】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

拡張機能の確認を行う

ソフトウェアの拡張（137 ページ）により有効にした機能を確認することができます。

1 **「拡張機能の確認」**を選び、**【決定】**を押す
- 拡張機能の確認画面が表示されます。

お知らせ
- **「ソフトウェア機能」**の詳細については 138 ページを参照してください。

2 **【戻る】**を押す
- システム設定画面が表示されます。

ネットワーク接続の確認を行う

IPアドレスを指定して、ネットワーク接続を確認することができます。

お知らせ
- アドレス帳画面または履歴一覧画面からネットワーク接続の確認を行うことはできません。

1 **「ネットワークの確認」**を選び、**【決定】**を押す
- ネットワーク接続の確認画面が表示されます。

2 IPアドレスを入力する

お知らせ
- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001

3 **【赤】**を押す

- ネットワーク接続の確認を開始します。ネットワーク接続の確認が終わった後、確認が成功またはタイムアウトした場合は、結果の詳細が表示されます。確認が失敗した場合は、失敗を示すメッセージが表示されます。

4 **【戻る】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

自己診断を行う

相手側のテレビに表示される映像やスピーカーから聞こえる音声を、通信を開始する前に、自分側のテレビとスピーカーで確認することができます。

お知らせ

- ヘッドセットを接続している場合でも、自己診断を行うことができます。

1 **「自己診断」**を選び、**【決定】**を押す

- 自己診断画面とダイアログボックスが表示されます。

お知らせ

- **【青】**を押すと、ダイアログボックスを表示／非表示にできます。
- マイクをスピーカーから最低1m以上離してください。

2 **【赤】**を押す

- 自己診断を開始します。

お知らせ

- メインビデオカメラからの映像を確認してください。
- ハウリングを避けるため、音量はリモコンの**【+】**で少しずつ上げてください。
- マイクに向かって話し、スピーカーから音声が聞こえるか確認してください。
- 自己診断中は、すべての専用マイクが**「中央ステレオ」**になります。
- 自己診断中の音質は**「標準」**になります。

3 **【赤】**を押す

- 自己診断を終了します。

お知らせ

- **【赤】**を押さなかった場合、自己診断は約10分後に自動的に終了します。

4 **【戻る】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

ライセンス情報を表示する

ライセンスやオープンソースソフトウェアについての情報を表示することができます。

1 **「ライセンス情報」**を選び、**【決定】**を押す

- ライセンス情報表示画面が表示されます。
- **【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動します。

2 **【戻る】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

使用許諾契約を表示する

使用許諾契約についての情報を表示することができます。

1 **「使用許諾契約」**を選び、**【決定】**を押す

- 使用許諾契約表示画面が表示されます。

2 **【戻る】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

リモートメンテナンスを行う

販売店によるリモートメンテナンスを実行するために、次の操作を行います。操作を行った後、リモートメンテナンスが終了するまで本機を使用することはできません。電源を一度切ったあと再度入れ直すと、リモートメンテナンスを終了し、本機を使用することができます。詳細については、販売店へお問い合わせください。

1 **「リモートメンテナンス」**を選び、**【決定】**を押す

- リモートメンテナンスの開始を確認するダイアログボックスが表示されます。

2 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- リモートメンテナンス画面が表示されます。

管理者メニューの設定をする

管理者メニューの一覧

本機の管理者用機能を設定・変更・確認することができます。

お知らせ

- 入力中に着信があると、応答するかどうか確認するダイアログボックスが表示されます。
  【◀】【▶】で**「はい」**、**「いいえ」**を選び、**【決定】**を押す
  - **「はい」**を選ぶと着信に応答し、入力中の内容は反映されず、破棄されます。
  - **「いいえ」**を選ぶと、入力を続けることができます。

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「設定／保守をする」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

3 **【◀】【▶】**を押して、4ページ目を表示する

4 **【▲】【▼】**で**「管理者でログイン」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者ログイン画面が表示されます。

5 **【▲】【▼】**で**「パスワード」**を選び、パスワード（数字4～10桁）を入力する

- 管理者メニュー画面が表示されます。

お知らせ

- メニュー画面から**「黄」**を押しても管理者ログイン画面を表示することができます。
- パスワードは、設置時に設定した管理者メニューログイン用パスワードを入力してください。
- パスワードをお忘れになった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

6 **【▲】【▼】**で**「ログイン」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー一覧が表示されます。

管理者メニュー画面一覧

❶ パスワードの設定：
本機の管理者用パスワードを設定します（123 ページ）。

❷ 暗号通信の設定：
暗号通信の有無や設定者などを設定します（123 ページ）。

❸ バージョン確認の設定：
バージョンアップを行う前に、最新のバージョンを確認するための設定を行います（124 ページ）。

❹ 接続モードの設定：
相手先と通信するモードを設定します（125 ページ）。

❺ NATの設定：
NATの情報を設定します（125 ページ）。

【◀】 前ページ　　【▶】 次ページ

【青】　　【赤】

【◀】 【▶】

前ページ 次ページ

【青】 【赤】

❻ 通信タイプの設定：
本機で使用する通信のタイプを設定します（126 ページ）。

❼ SIPの設定：
SIPの設定を行います（127 ページ）。

❽ H.323の設定：
H.323の設定を行います（128 ページ）。

❾ コーデックの設定：
コーデックの有効/無効を設定します（130 ページ）。

【◀】 【▶】

前ページ 次ページ

【青】 【赤】

❿ 映像出力の設定：
HDMI、アナログコンポーネントの映像出力を設定します（131 ページ）。

⓫ 音声入出力の設定：
音声の設定を行います（133 ページ）。

⓬ GUIの設定：
メニュー画面などに表示される項目の表示の有無を設定します（133 ページ）。

⓭ HDMI制御：
HDMIでの制御の有効／無効を設定します（134 ページ）。

❶❹ ショートカットの設定：
リモコンのカラーキーに、ネットワーク設定などの画面に、ショートカットで移動できる機能を設定します（135 ページ）。

❶❺ 発信元選択の設定：
発信元の設定を行います（135 ページ）。

❶❻ データのエクスポート：
アドレス帳などの情報をエクスポートします（135 ページ）。

❶❼ データのインポート：
エクスポートしたデータをUSBメモリーからインポートします（136 ページ）。

【◀】 【▶】
前ページ 次ページ
【青】 【赤】

❶❽ ソフトウェアの拡張：
本機の機能を拡張するための、レジストレーションキーを登録します（137 ページ）。

❶❾ ソフトウェアの更新：
USBメモリーからソフトウェアを更新します（138 ページ）。

❷❿ カメラの初期化：
自拠点のビデオカメラを初期化します（139 ページ）。

❷❶ システムの初期化：
ソフトウェアの拡張で有効にした機能以外の設定はすべて初期化されます（140 ページ）。

7 **【▲】【▼】**で設定する項目を選び、**【決定】**を押す

- 選択した画面が表示されるので、各画面（❶〜❷❶）の説明に従って設定します。

8 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

管理者パスワードの設定をする

1 **「パスワードの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- パスワード設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、パスワード（4～10桁）を入力する
「現在のパスワード入力」：現在のパスワードを入力する（デフォルト：**00000000**）
「新しいパスワードの入力」：新しいパスワードを入力する
「新しいパスワードの再入力」：新しいパスワードを再度入力する

お知らせ
- 設置時にログインパスワードを初期値から変更してください。
- パスワードは大切に保管してください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

暗号通信の設定をする

お知らせ
- 2地点通信時、両拠点の暗号通信の設定が一致しないと接続できません。ただし、H.323の通信で両拠点のいずれかが**「暗号通信（H.323）」**を**「接続性優先」**に設定した場合、暗号通信の設定が異なっても接続できます。多地点通信時は、親拠点と各子拠点の2地点間で同様に接続の可否を判断します。
- 通信ができなくなる可能性がありますので、暗号通信の設定を変更するときはご注意ください。
- 第三者により暗号通信の設定を変更される恐れがあります。管理者パスワードの管理や、暗号通信の設定の権限を一般ユーザーに与えるときはご注意ください。
- SIPでの通信で暗号鍵が設定されていない場合は、暗号通信を有効にすることができません。
- つながるねっとサービスで暗号通信を行う場合は、本設定でSIPの暗号通信を設定してください。標準・つながるねっとサービスモード使用時は、標準モードでのSIP通信、つながるねっとサービスモードでのSIP通信で同一の暗号設定を使用します。
- 暗号通信を無効にした場合、盗聴対策のとられていないネットワークでは、盗聴される恐れがありますのでご注意ください。

1 **「暗号通信の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- 暗号通信設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

お知らせ
- 標準モード使用時
  - 通信タイプ設定画面（126 ページ）で**「SIPの使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（SIP）」**、**「暗号通信（SIP）」**、**「暗号鍵（SIP）」**は設定できません。
  - 通信タイプ設定画面（126 ページ）で**「H.323の使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。
- つながるねっとサービスモード使用時
  - **「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。
- 標準・つながるねっとサービスモード使用時
  - 通信タイプ設定画面（126 ページ）で**「H.323の使用」**を**「しない」**に設定している場合、**「設定するユーザー（H.323）」**、**「暗号通信（H.323）」**は設定できません。

「設定するユーザー（SIP）」／**「設定するユーザー（H.323）」**：**【◀】【▶】**で**「管理者」**（デフォルト）、**「一般」**を選ぶ
- **「管理者」**を選ぶと、ネットワーク管理者のみ暗号通信の有効／無効を設定することができます。

- **「一般」**を選ぶと、一般ユーザーでも暗号通信の有効／無効を設定することができます（108 ページ、108 ページ）。

「暗号通信（SIP）」：**【◀】【▶】**で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**：暗号通信が有効です。

– **「無効」**（デフォルト）：暗号通信が無効です。

「暗号通信（H.323）」：**【▲】【▼】**で暗号通信を有効にするかどうかを選ぶ

– **「接続性優先」**（デフォルト）：相手先が暗号化通信を有効に設定している場合は、暗号化通信が有効になります。無効に設定している場合は、暗号化せず通信します。

– **「有効」**：暗号通信を有効にします。

– **「無効」**：暗号通信を無効にします。

お知らせ

- この設定は**「設定するユーザー（SIP）」**／**「設定するユーザー（H.323）」**で**「管理者」**を選んでいるときのみ設定可能です。

「暗号鍵（SIP）」：暗号鍵（4～256文字［英数字、半角スペース、記号］）を入力する（152 ページ）

お知らせ

- **& < > , "** は入力できません。
- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク（*）で表示されます。設定した暗号鍵を画面で確認することができなくなりますので、暗号鍵はメモに控えるなどして大切に保管してください。
- **「暗号鍵（SIP）」**の設定が相手と一致しない場合は、暗号通信を有効にしていても、通信は開始されません。
- 暗号鍵がアスタリスク（*）で表示されているときに**【黄】**を押すと、暗号鍵のすべての文字が削除されます。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

バージョンアップ確認の設定をする

ソフトウェアのバージョンアップを行う前に、最新のバージョンを確認するための設定を行います。

お知らせ

- バージョンアップの確認や、ネットワークから最新バージョンのダウンロードを行うためには、DNSサーバーの設定が必要です（106 ページ）。

1 **「バージョン確認の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- バージョン確認設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「プロキシサーバーアドレス」：プロキシサーバーのIPアドレスを入力する

お知らせ

- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001

「プロキシサーバーポート」：プロキシサーバーのポート番号（**1**～**65535**）を入力する

「起動時のバージョン確認」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ

- **「する」**を選ぶと、起動時に自動でアップデートの確認を行います。利用可能なアップデートがある場合は、ホーム画面にダイアログボックスが表示されます。
- **「しない」**を選ぶと、起動時に自動でアップデートの確認は行いません。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

接続モードを設定する

1 **「接続モードの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 接続モード設定画面が表示されます。

2 **【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で設定したい接続モードを選び、再度**【決定】**を押す

「標準モード」：インターネットまたはイントラネット回線で通信を行います。

「つながるねっとサービスモード」：つながるねっとサービスを利用して通信を行います。

「標準・つながるねっとサービスモード」：標準モードとつながるねっとサービスモードの2つのモードで通信を行います。

お知らせ

- 異なる接続モードの相手とは通信できません。
- **「つながるねっとサービスモード」**を利用するためには、アクティベーションキーにより**「つながるねっとサービス」**を有効にする必要があります。

  詳細については、以下のホームページを参照してください。
  http://panasonic.biz/com/visual/tsunagaru/

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

お知らせ

- 接続モードを変更する場合、ネットワークの状態によっては再起動に時間がかかる場合があります。

NATの設定をする

お知らせ

- 設定を変更するためには、ポート番号の設定を含めたシステムの設定が必要になります。詳細は販売店にお問い合わせください。
- 標準モード使用時（125 ページ）は手順**2**で**「NATの設定」**は表示されません。
- つながるねっとサービスモード使用時（125 ページ）は、手順**2**で**「静的NATの使用」**、**「WAN側アドレス」**、**「ローカルアドレス判定」**は表示されません。
- この設定は**「ネットワークの設定」**で**「IPアドレスの設定」**が**「手動」**に設定されている場合のみ設定可能です（105 ページ）。

1 **「NATの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- NATの設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ移動し、すべての項目を表示することができます。設定を変更した場合は、画面移動の前に**【緑】**を押して、設定を保存してください。

「NATの設定」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**で**「動的」**（デフォルト）、**「静的」**を選ぶ

「静的NATの使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ

お知らせ

- **「する」**を選ぶには、H.323設定画面の**「H.460の使用」**で**「しない」**を選んでいる必要があります（129 ページ）。
- **「する」**を選んだ場合、ホーム画面の本体情報には、**「WAN側アドレス」**で設定したWAN側のIPアドレスが表示されます（38 ページ）。

「WAN側アドレス」：ルーターの WAN側のIPアドレスを入力する

お知らせ

- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：

（正）192.168.0.1
（誤）192.168.000.001

- **「外部取得」**と表示されている場合、WAN側のIPアドレスは設定できません。詳細については、販売店にお問い合わせください。

「ローカルアドレス判定」：**【▲】【▼】**で**「無効」**（デフォルト）、**「自動」**を選ぶ

– **「無効」**（デフォルト）：すべてのアドレスで静的NATを適用します。
– **「自動」**：プライベートアドレスは静的NATを適用しません。

「音声用RTP・RTCP」：音声RTP/RTCPの先頭ポート番号（**5100**～**5164**）を入力する（デフォルト：**5100**）
「映像用RTP・RTCP」：映像RTP/RTCPの先頭ポート番号（**5200**～**5264**）を入力する（デフォルト：**5200**）
「カメラ制御」：ビデオカメラ制御用の先頭ポート番号（**5300**～**5364**）を入力する（デフォルト：**5300**）
「サブ映像用RTP・RTCP」：サブ映像RTP／RTCPのポート番号（**5400**～**5464**）を入力する。（デフォルト：**5400**）
「BFCP」：BFCPの先頭ポート番号（**5800**～**5890**）を入力する。（デフォルト：**5800**）
「SIP」：SIPサーバーを使用して通信するための、2地点用のポート番号（**5000**～**5099**）を入力する（デフォルト：**5060**）

お知らせ

- 変更したポート番号は機器情報表示画面に表示されます（93 ページ）。

「H.245」：H.245用の先頭ポート番号（**5500**～**5580**）を入力する（デフォルト：**5500**）

お知らせ

- 以下の項目については、入力した先頭ポート番号に自動的に値を加算して、利用可能な範囲や値を表示します。
  – **「音声用RTP・RTCP」**
  – **「映像用RTP・RTCP」**
  – **「カメラ制御」**
  – **「サブ映像用RTP・RTCP」**
  – **「BFCP」**
  – **「H.245」**

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

通信タイプの設定をする

1 **「通信タイプの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 通信タイプ設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「SIPの使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**（デフォルト）、**「しない」**を選ぶ

お知らせ

- **「しない」**を選んだ場合、**「SIPサーバーの使用」**で**「する」**を選んでいても、SIPサーバーは使用できません（127 ページ）。
- KX-VC300/KX-VC600の3.00より古いソフトウェアバージョン（3.00は含みません）を使用している相手に発信する場合、H.323は使用できません。**「する」**を選ぶ必要があります。

「H.323の使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**（デフォルト）、**「しない」**を選ぶ

お知らせ

- **「しない」**を選んだ場合、**「ゲートキーパーの使用」**と**「H.460の使用」**で**「する」**を選んでいても、ゲートキーパーとH.460は使用できません（128 ページ）。

「優先表示」：**【◀】【▶】**で**「つながるねっとサービスモード」**、**「標準モード（SIP）」**（デフォルト）、**「標準モード（H.323）」**を選ぶ

お知らせ

- ここで選んだ通信タイプが、機器設定の表示内容や発信時の接続モードのデフォルト値などに反映されます。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

SIPの設定をする

イントラネットにおいてSIPサーバーを使用することで、IPアドレスだけではなくSIP-URI（SIPユーザー名@SIPドメイン名）による発着信が可能になります。

お知らせ
- 通信タイプ設定画面で**「SIPの使用」**を**「する」**に設定している場合のみ設定可能です。
- MCU接続または他社機接続の場合、SIPサーバーを経由したSIP-URIによる通信は動作保証外です。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力してMCU接続を行う場合は、**「SIPサーバーの使用」**および**「ゲートキーパーの使用」**（128 ページ）を**「しない」**に設定する必要があります。
- SIPサーバーの故障、またSIP設定が正しくない（SIPサーバー側または本体側）などの理由により、通信ができなくなっている場合、ホーム画面にSIPユーザー名は表示されず、**「サーバー未登録」**と表示されます。この場合、SIPによる通信だけでなくIPアドレスによる通信もできません。ネットワーク管理者にご相談ください。

1 **「SIPの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- SIP設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「SIPサーバーの使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ

お知らせ
- SIPサーバーを使用して通信するためには、**「する」**を選び**「SIPサーバーアドレス」**、**「SIPユーザー名」**、**「SIPドメイン名」**の設定が必要です。
- **「する」**を選ぶには、**「ゲートキーパーの使用」**（128 ページ）で**「しない」**を選んでいる必要があります。

「SIPサーバーアドレス」：SIPサーバーのIPアドレス（またはホスト名）を入力する

お知らせ
- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001
- ホスト名を入力するためには、DNSサーバーの設定が必要です（105 ページ）。
- ホスト名で入力可能な文字と文字数は44 ページを参照してください。

「SIPユーザー名」：SIPユーザー名を入力する。
「SIPドメイン名」：SIPドメイン名を入力する。

お知らせ
- 入力可能な文字は44 ページを参照してください。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

「ダイジェスト認証」：**【◀】【▶】**でダイジェスト認証を有効にするかどうかを選ぶ
- **「有効」**：ダイジェスト認証を有効にします。
- **「無効」**（デフォルト）：ダイジェスト認証を無効にします。

「認証用ID」：認証用ID（半角で1～60文字［英数字、半角スペース、記号］）を入力する（152 ページ）。**& < > , "** は入力不可。
「認証用パスワード」：認証用パスワード（半角で0～60文字［英数字、半角スペース、記号］）を入力する（152 ページ）。**& < > , "** は入力不可。

お知らせ
- SIPサーバーを使用して通信するためには、**「ダイジェスト認証」**、**「認証用ID」**、**「認証用パスワード」**の設定が必要な場合があります。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- **「認証用ID」**、**「認証用パスワード」**の設定は、**「ダイジェスト認証」**で**「有効」**を選んでいるときのみ設定可能です。

- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク（*）で表示されます。設定した認証用パスワードを画面で確認することができなくなりますので、認証用パスワードはメモに控えるなどして大切に保管してください。
- 認証用パスワードがアスタリスク（*）で表示されているときに**【黄】**を押すと、認証用パスワードのすべての文字が削除されます。

「SIPトランスポートプロトコル」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**でSIPによる通信に使用するプロトコル（**UDP**、**TCP**、**自動 （接続先による切り替え）**、**自動(TCP／UDP)**［デフォルト］）を選ぶ

お知らせ

- **「自動 （接続先による切り替え）」**を選ぶと、SIPサーバーを使用した通信にはTCPが、SIPサーバーを使用しない通信にはUDPが使用されます。**「自動(TCP／UDP)」**を選ぶと、TCP、UDPの順で通信を試みます。通常は**「自動(TCP／UDP)」**に設定してください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

H.323の設定をする

お知らせ

- 通信タイプ設定画面で**「H.323の使用」**を**「する」**に設定している場合のみ設定可能です。
- MCUの会議室番号@IPアドレスを入力してMCU接続を行う場合は、**「SIPサーバーの使用」**（127 ページ）および「**ゲートキーパーの使用」**を**「しない」**に設定する必要があります。
- ゲートキーパーおよびH.460サーバーの故障、またH.323設定が正しくない（ゲートキーパーおよびH.460サーバー側または本体側）などの理由により、通信ができなくなっている場合、ホーム画面にH.323内線番号／H.323名は表示されず、**「サーバー未登録」**と表示されます。この場合、ゲートキーパー、H.460サーバーによる通信だけでなくＩＰアドレスによる通信もできません。ネットワーク管理者にご相談ください。

1 **「H.323の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- H.323設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「ゲートキーパーの使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ

お知らせ

- この設定は**「H.323の使用」**（126 ページ）で**「する」**を選び、**「SIPサーバーの使用」**で**「しない」**を選んでいるときのみ設定可能です。

「ゲートキーパーアドレス」：ゲートキーパーのIPアドレス（またはホスト名）を入力する

お知らせ

- 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。
  例：「192.168.0.1」の場合：
  （正）192.168.0.1
  （誤）192.168.000.001
- ホスト名を入力するためには、DNSサーバーの設定が必要です（105 ページ）。
- ホスト名で入力可能な文字と文字数は44 ページを参照してください。

「H.323名」：H.323名を入力する。
「H.323内線番号」：H.323内線番号を入力する。

お知らせ

- 入力可能な文字は44 ページを参照してください。
- 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。

「認証」：**【◀】【▶】**で認証を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**：認証を有効にします。

– **「無効」**（デフォルト）：認証を無効にします。

「認証用ID」：認証用ID（半角で1～60文字［英数字、半角スペース、記号］）を入力する（152 ページ）。**& < > , "** は入力不可。

「認証用パスワード」：認証用パスワード（半角で0～60文字［英数字、半角スペース、記号］）を入力する（152 ページ）。**& < > , "** は入力不可。

お知らせ

- **「認証用ID」**、**「認証用パスワード」**の設定は、**「認証」**で**「有効」**を選んでいるときのみ設定可能です。
- 入力中は、実際に入力した文字が表示されますが、設定保存後は、すべての文字がアスタリスク（*）で表示されます。設定した認証用パスワードを画面で確認することができなくなりますので、認証用パスワードはメモに控えるなどして大切に保管してください。
- 認証用パスワードがアスタリスク（*）で表示されているときに**【黄】**を押すと、認証用パスワードのすべての文字が削除されます。

「H.460の使用」：**【◀】【▶】**で**「する」**、**「しない」**（デフォルト）を選ぶ

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

コーデックの設定をする

コーデックの有効／無効を設定します。

お知らせ

- コーデックの設定を変更すると、通信ができなくなる可能性があります。詳細については、販売店にお問い合わせください。
- 接続モードの設定で**「つながるねっとサービスモード」**を選択している場合、コーデックの設定は表示されません。

1 **「コーデックの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- コーデック設定画面が表示されます。

2 以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。**【青】**を押すとH.323設定画面へ移動し、再度**【青】**を押すとSIP設定画面に戻すことができます。

「SIP／映像コーデック」／**「SIP／音声コーデック」**／**「SIP／QoS」**／**「H.323／映像コーデック」**／**「H.323／音声コーデック」**／**「H.323／QoS 」**：**【▲】【▼】**で変更する項目を選び、**【決定】**を押す

- チェックのあり、なしが切り替わります。チェックのないコーデックは無効になります。
- デフォルトはすべて有効です。

お知らせ

- **「H.323／映像コーデック」**の**「H.264／Baseline Profile（PktMode0）」**と**「H.323／音声コーデック」**の**「G.722」**は設定できません。
- **「SIP／映像コーデック」**の**「H.264／Baseline Profile（PktMode0）」**と**「SIP／音声コーデック」**の**「G.722」**は設定できません。

「SIP／QoS」／**「H.323／QoS 」**：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**でQoSを有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：QoSが有効になります。
– **「無効」**：QoSが無効になります。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

映像出力の設定をする

HDMIへの映像出力を設定します。

1 **「映像出力の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 映像出力の設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「映像出力」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でHDMI2を使用するかどうかを選ぶ

- **「HDMI1のみ」**（デフォルト）：HDMI1のみ使用します。
- **「HDMI1／HDMI2」**：HDMI1とHDMI2を使用し2画面で表示します。

「HDMI1のみ」を選択した場合：

「通信開始時のレイアウト」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でコンテンツ共有を行っていない通信時のレイアウトを選ぶ

- **「相手映像」**（デフォルト）：相手拠点の映像を表示します。
- **「相手映像／自映像（PwithP）」**：相手拠点の映像と自拠点の映像をPwithPで表示します。
- **「相手映像／自映像（SidebySide）」**：相手拠点の映像と自拠点の映像をSidebySideで表示します。
- **「自映像」**：自拠点の映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト1」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でシングルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- **「コンテンツ映像」**（デフォルト）：自拠点のコンテンツ映像を表示します。
- **「コンテンツ映像／カメラ映像（PwithP）」**：自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映像をPwithPで表示します。
- **「コンテンツ映像／カメラ映像（SidebySide）」**：自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映像をSidebySideで表示します。
- **「相手映像」**：相手拠点のカメラ映像を表示します。
- **「自映像」**：自拠点のカメラ映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト2」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でデュアルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- **「コンテンツ映像」**（デフォルト）：自拠点のコンテンツ映像を表示します。
- **「コンテンツ映像／相手映像（PwithP）」**：自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映像をPwithPで表示します。
- **「コンテンツ映像／自映像（PwithP）」**：自拠点のコンテンツ映像とカメラ映像をPwithPで表示します。
- **「コンテンツ映像／相手映像（SidebySide）」**：自拠点のコンテンツ映像と相手拠点のカメラ映像をSidebySideで表示します。
- **「コンテンツ映像／自映像（SidebySide）」**：自拠点のコンテンツ映像とカメラ映像をSidebySideで表示します。
- **「相手映像」**：相手拠点のカメラ映像を表示します。
- **「自映像」**：自拠点の映像を表示します。

「HDMI1／HDMI2」を選択した場合：

「通信開始時のレイアウト」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でコンテンツ共有を行っていない通信時のレイアウトを選ぶ

- **「相手映像／自映像」**（デフォルト）：HDMI1に相手側の映像、HDMI2に自拠点の映像を表示します。
- **「自映像／相手映像」**：HDMI1に自拠点の映像、HDMI2に相手拠点の映像を表示します。
- **「相手映像／相手映像」**：HDMI1,HDMI2に相手拠点の映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト1」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でシングルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

- **「コンテンツ映像／相手映像」**（デフォルト）：HDMI1に自拠点のコンテンツ映像、HDMI2に相手拠点の映像を表示します。
- **「相手映像／コンテンツ映像」**：HDMI1に相手拠点の映像、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。

– **「コンテンツ映像／コンテンツ映像」**：HDMI1、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。

「共有開始時のレイアウト2」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でデュアルストリーム通信中にコンテンツ共有を行った場合の表示方法を選ぶ

– **「コンテンツ映像／相手映像」**：HDMI1に自拠点のコンテンツ映像、HDMI2に相手拠点の映像を表示します。
– **「相手映像／コンテンツ映像」**：HDMI1に相手拠点の映像、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。
– **「コンテンツ映像／コンテンツ映像」**：HDMI1、HDMI2に自拠点のコンテンツ映像を表示します。

「HDMI3の出力」（KX-VC1600Jのみ）：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でHDMI3への出力を選ぶ

– **「自拠点映像」**（デフォルト）：自拠点の映像をHDMI3へ出力します。
– **「録画（HDMI1／LR分離）」**：HDMI1の信号を録画・録音用としてL（他拠点音声）、R（自拠点音声）を分離してHDMI3へ出力します。
– **「録画（HDMI1／LR合成）」**：HDMI1の信号を録画・録音用としてL（他拠点音声）、R（自拠点音声）を合成してHDMI3へ出力します。
– **「録画（HDMI2／LR分離）」**：HDMI2の信号を録画・録音用としてL（他拠点音声）、R（自拠点音声）を分離してHDMI3へ出力します。
– **「録画（HDMI2／LR合成）」**：HDMI2の信号を録画・録音用としてL（他拠点音声）、R（自拠点音声）を合成してHDMI3へ出力します。

お知らせ

- 自拠点映像を選択した場合、ビデオカメラの解像度は1080p／1080iでご使用ください。720pは使用できません。

「アナログコンポーネントの映像出力」（KX-VC1600Jのみ）：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**でアナログコンポーネントの出力設定を選ぶ

– **「HDMI1と同一」**：HDMI1と同一映像をアナログコンポーネントに出力します。
– **「HDMI2と同一」**：HDMI2と同一映像をアナログコンポーネントに出力します。

「最大解像度」（KX-VC1600Jのみ）：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**で**「1080i」**（デフォルト）または**「1080p」**を選ぶ

お知らせ

- 設定した最大解像度は、アナログコンポーネント出力と、アナログコンポーネントと同一映像を出力するHDMIに適用されます。

「自映像の表示位置」：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**で自映像をPinP表示する位置を選ぶ

– **「右上」**（デフォルト）：画面の右上に自映像を表示します。
– **「右下」**：画面の右下に自映像を表示します。
– **「左上」**：画面の左上に自映像を表示します。
– **「左下」**：画面の左下に自映像を表示します。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

音声入出力の設定をする

お知らせ

- 音声の調整を行うための設定です。
- **「エコーキャンセラー」**と**「オートゲインコントロール」**は、通常は**「有効」**にしてください。**「無効」**にすると、通信時に音質が低下する可能性があります。
- **「自音声の出力」**は通常は**「しない」**にしてください。
- マイクを接続した状態で自音声をテレビのスピーカーから出力すると、ハウリングすることがあります。マイクが設置された場所で、自音声をスピーカーから出力しないでください。

1 **「音声入出力の設定」**を選び、**【決定】**を押す

- 音声入出力設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「エコーキャンセラー」：**【◀】【▶】**でエコーキャンセラー機能を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：エコーキャンセラー機能を有効にします。
– **「無効」**：エコーキャンセラー機能を無効にします。

「オートゲインコントロール」：**【◀】【▶】**でオートゲインコントロール機能を有効にするかどうかを選ぶ

– **「有効」**（デフォルト）：オートゲインコントロール機能を有効にします。
– **「無効」**：オートゲインコントロール機能を無効にします。

お知らせ

- **「オートゲインコントロール」**を設定するには、**「エコーキャンセラー」**の設定を**「無効」**にする必要があります。

「RCA音声入力ゲイン」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**でAudio In L/R端子の入力ゲイン（**-42 dB**～**+4 dB**）を選ぶ（デフォルト：**-32 dB**）

お知らせ

- **「オートゲインコントロール」**を**「有効」**に設定した場合、**「RCA音声入力ゲイン」**で設定した値が有効となります。

「音声の出力先」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で通信中の音声の出力先を選ぶ

– **「HDMI1」**（デフォルト）：自拠点の音声をHDMI1に出力します。
– **「HDMI2」**：自拠点の音声をHDMI2に出力します。
– **「無効」**：自拠点の音声をHDMIに出力しません。

お知らせ

- 映像出力の設定で**「映像出力」**を**「HDMI1のみ」**に設定した場合、**「HDMI2」**は表示されません（131 ページ）。

「自音声の出力」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で通信中の自拠点音声を出力先に出力するかどうかを選ぶ

– **「しない」**（デフォルト）：自拠点の音声を出力しません。
– **「RCA」**：自拠点の音声をAudio Out L/R端子に出力します。
– **「HDMI」**：自拠点の音声を**「音声の出力先」**で設定したHDMIに出力します。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

GUIの設定をする

1 **「GUIの設定」**を選び、**【決定】**を押す

- GUI設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

- 項目は2画面に渡って表示されます。**【赤】**を押すと次の画面へ、**【青】**を押すと前の画面へ

移動し、すべての項目を表示することができます。

「設定/保守をする」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「設定／保守をする」**を選択しても、設定／保守画面を表示しません。

「発信元を選択する」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「発信元を選択する」**を選択しても、発信元選択画面を表示しません。

「ネットワークの設定」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「ネットワークの設定」**を選択しても、ネットワークの設定画面を表示しません。

「通信の設定」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「通信の設定」**を選択しても、通信設定画面を表示しません。

「カメラの設定」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「カメラの設定」**を選択しても、カメラ設定画面を表示しません。

「MCUの設定」メニュー：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、メニュー画面で**「MCUの設定」**を選択しても、MCUの設定画面を表示しません。

「ホームのガイド表示」：**【◀】【▶】**で**「する」**（デフォルト）、**「しない」**を選ぶ

- **「しない」**を選ぶと、ホーム画面のガイド表示を非表示にします。

「カメラ操作のガイド表示」：**【決定】**を押し、**【▲】【▼】**で**「一部非表示」**（デフォルト）、**「全て非表示」**を選ぶ

- 通信中のカメラ操作画面で、リモコンの**【表示】**を押してガイドエリアを非表示にしたときの動作を設定します。
  - **「一部非表示」**：操作名とリモコンのカラーボタンの説明以外を非表示にします。
  - **「全て非表示」**：全てのガイドエリアを非表示にします。

「通信中の「カメラ操作」ボタン」：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、通信中に**【カメラ操作】**ボタンは使用できません。

「アドレス帳の編集」：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、アドレス帳の新規登録、編集、削除は行えません。

「プロファイルの編集」：**【◀】【▶】**で**「有効」**（デフォルト）、**「無効」**を選ぶ

- **「無効」**を選ぶと、プロファイルの新規登録、編集、削除はできません。

3 **【緑】**を押す

- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

HDMI制御の設定をする

1 **「HDMI制御」**を選び、**【決定】**を押す

- HDMI制御設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「ワンタッチプレイ機能」：**【◀】【▶】**で**「有効」**、**「無効」**（デフォルト）を選ぶ

お知らせ

- 通常は**「無効」**にしてください。**「有効」**にすると、接続されるビデオカメラによっては、映像が自動的に切り替わってしまいます。

「スタンバイ機能」：**【◀】【▶】**で**「有効」**、**「無効」**（デフォルト）を選ぶ

お知らせ

- **「有効」**にすると、本体がスクリーンスタンバイ状態になった場合、接続されるビデオカメラによっては、ビデオカメラ（メイ

ン、サブ）も同期してスクリーンスタンバイ状態になります。ビデオカメラの機種によって動作が異なりますので、詳細については、販売店にお問い合わせください。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

ショートカットを設定する

システム設定画面への移動操作を短縮する機能を、リモコンキーに設定することができます。

1 **「ショートカットの設定」**を選び、**【決定】**を押す
- ショートカットの設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「【青】ショートカット」／**「【赤】ショートカット」**／**「【緑】ショートカット」**／**「【黄】ショートカット」**：**【決定】**を押し**【▲】【▼】**で設定する機能を選ぶ
- **「ー」**：ショートカットキーを設定しません。
- **「ネットワーク設定」**：ネットワーク設定画面を設定します。
- **「通信設定」**：通信設定画面を設定します。
- **「言語設定」**：言語設定画面を設定します。
- **「ネットワークの確認」**：ネットワーク確認画面を設定します。

お知らせ
- **「GUIの設定」**で**「無効」**に設定された項目も表示されます。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

発信元選択の設定をする

1 **「発信元選択の設定」**を選び、**【決定】**を押す
- 発信元選択の設定画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する
「再起動後の選択状態継続」：再起動前の発信元を再起動後も**「有効」**にするか**「無効」**にするかを選ぶ
- **「有効」**：再起動前の発信元が有効になります。
- **「無効」**（デフォルト）：再起動前の発信元は保持されません。

「発信元選択の編集」：発信元選択画面からの編集機能を**「有効」**にするか**「無効」**にするかを選ぶ
- **「有効」**（デフォルト）：編集機能が有効になります。
- **「無効」**：編集機能が無効になります。

お知らせ
- **「無効」**を選ぶと、発信元の新規登録、編集、削除はできません。

3 **【緑】**を押す
- 設定の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
- 管理者メニュー画面が表示されます。

データをエクスポートする

履歴、動作ログ、アドレス帳などをUSBメモリーに保存します。保存された動作ログは、トラブルが発生した場合の原因を特定するのに使用されます。詳細については、販売店にお問い合わせください。

お知らせ
- 本機では、マスストレージクラス （FAT16、またはFAT32フォーマット）対応のUSBメモリーを使用できます。
- 次のUSBメモリーは使用できません。
  - U3スマートドライブ（U3プラットフォームに対応したUSBメモリー）
  - セキュリティー機能を持つUSBメモリー
  - NTFSフォーマットのUSBメモリー

  - 複数LUN （Logical Unit Number）を持つUSBメモリー
  - 複数パーティションのUSBメモリー
- 全てのUSBメモリーの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店にお問い合わせください。
- USBメモリーを再度接続する場合は、一度USBメモリーを完全に取り外してから、再度接続してください。
- USBメモリーに十分な空き容量（50 MByte以上）があることを確認してから操作を行ってください。

1 USBメモリーを、本体背面のUSB端子に接続する（21 ページ）

お知らせ

- USBメモリーが正しく接続されていることを確認してください。

2 **「データのエクスポート」**を選び、**【決定】**を押す

- データのエクスポート画面が表示されます。

3 **【決定】**を押す

- データのエクスポートが開始されます。

お知らせ

- データのエクスポート中は、USBメモリーを取り外さないでください。故障や障害が発生する原因になります。
- USBメモリーに保存されるデータのファイル名は「hdvclogall_XXXX.tar」です。「XXXX」は使用しているソフトウェアのバージョンや保存した日時によって表示が異なります。
- hdvclogall_XXXX.tarに含まれるアドレス帳（address.xml）、プロファイル（profile.xml）、構成データ（config.xml）は本機にインポートすることができます。
- 本機からエクスポートしたアドレス帳（address.xml）、プロファイル（profile.xml）の編集については、販売店にご相談ください。

4 保存の結果（成功／失敗）を確認し、**【決定】**を押す

- 管理者メニュー画面が表示されます。

5 USBメモリーを取り外す

お知らせ

- USBメモリー内のデータ流出などを回避するために、USBメモリーを廃棄（または譲渡、返却）される際には、USBメモリー内に保存されたデータを必ず消去してください。

データをインポートする

本機からエクスポートしたアドレス帳などのデータを、USBメモリーから本機にインポートします。

お知らせ

- 本機では、マスストレージクラス （FAT16、またはFAT32フォーマット）対応のUSBメモリーを使用できます。
- 次のUSBメモリーは使用できません。
  - U3スマートドライブ（U3プラットフォームに対応したUSBメモリー）
  - セキュリティー機能を持つUSBメモリー
  - NTFSフォーマットのUSBメモリー
  - 複数LUN （Logical Unit Number）を持つUSBメモリー
  - 複数パーティションのUSBメモリー
- 全てのUSBメモリーの動作を保証するものではありません。詳しくは、販売店にお問い合わせください。

- USBメモリーを再度接続する場合は、一度USBメモリーを完全に取り外してから、再度接続してください。
- 起動画面をインポートすることにより、デフォルトの起動画面を変更することができます。

1 インポートするデータを格納したUSBメモリーを準備する

- インポートするファイル名は固定です。
  - アドレス帳：address.xml
  - プロファイル：profile.xml
  - 構成データ：config.xml
  - 起動画面：startup.png
- データはUSBメモリーのルートディレクトリ、またはルートディレクトリ直下のフォルダ（フォルダ名「01」～「16」）に格納してください。
- 起動画面は、（960 × 540 pixel）以下の（PNG）ファイルフォーマットをご使用ください。

2 USBメモリーを、本体背面のUSB端子に接続する（21 ページ）

お知らせ

- USBメモリーが正しく接続されていることを確認してください。

3 **「データのインポート」**を選び、**【決定】**を押す

- データのインポート画面が表示されます。

4 **【▲】【▼】**で以下の項目を選び、入力する

「USBディレクトリ名」：インポートするデータが格納されたディレクトリを**「ルート」**（デフォルト）、**「／01」**～**「／16」**から選びます。
「データ」：インポートするデータを**「全て」**、**「アドレス帳」**、**「プロファイル」**、**「構成データ」**、**「起動画面」**から選びます。

5 **【緑】**を押す

- データのインポートとインポート後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

6 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- インポート内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

お知らせ

- （960 × 540 pixel）より大きいデータを入力した場合、デフォルトの起動画面が表示されます。
- （960 × 540 pixel）より小さいデータを入力した場合、センタリングされて表示されます。

拡張機能を有効にする

ソフトウェアの拡張により、機能を有効にすることができます。機能を有効にするためには、Registration Key（レジストレーションキー）を販売店より入手し登録する必要があります。MPR ID、アクティベーションキーに記載されているActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）およびRegistration ID（レジストレーションID）を販売店に伝えてください。それらの情報を元に販売店がキー管理システムへ登録を行い、発行されたRegistration Key（レジストレーションキー）をお知らせします。

MPR IDを確認する

1 **「ソフトウェアの拡張」**を選び、**【決定】**を押す

- ソフトウェア拡張画面が表示されます。**「MPR ID」**の表示を確認してください。

Registration Key（レジストレーションキー）を登録する

入手したRegistration Key（レジストレーションキー）を本体に登録することにより、拡張機能を有効にします。

1 **「ソフトウェアの拡張」**を選び、**【決定】**を押す

- ソフトウェア拡張画面が表示されます。

お知らせ

- **「つながるねっとサービス」**には、つながるねっとサービスの登録状況が表示されます。
  - **「登録されていません」**：サービス未登録または有効期限切れから6か月を超えています

– **「有効期限が切れています」**：有効期限切れから6か月以内です。有効期限の延長を行うことができます
– **「<年月日>（GMT）が有効期限です」**：サービスが登録されています

• **「ソフトウェア機能」**には有効にした機能の情報が表示されます。詳細は次のとおりです。
– **「4地点接続拡張」**：内蔵MCU機能を6地点（デフォルト）から10地点に拡張する機能が有効になっています（KX-VC1600Jのみ）
– **「登録されている機能はありません」**：有効になっている機能がありません

2 **【緑】**を押す
• Registration Key（レジストレーションキー）登録画面が表示されます。

3 Registration Key（レジストレーションキー）（16桁）を入力する

4 **【緑】**を押す
• 設定の保存と保存後の再起動を確認するダイアログボックスが表示されます。

5 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す
• 設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。

お知らせ
• 入力したRegistration Key（レジストレーションキー）が無効の場合、**「Registration Keyの認証に失敗しました」**と表示されます。手順**3**からやり直してください。発行されたRegistration Key（レジストレーションキー）を正しく入力しても、上記のメッセージが表示される場合は、販売店にお問い合わせください。
• Registration Key（レジストレーションキー）の登録は、一度につきひとつのみ可能です。複数の機能を有効にするため複数のRegistration Key（レジストレーションキー）を登録するには、登録毎に再起動が必要になります。
• 有効になっている機能を拡張機能の確認画面でも確認することができます（116 ページ）。

ソフトウェアを更新する

お知らせ
• USBからソフトウェア更新を行う場合は、販売店にご相談のうえ、更新を行ってください。
• USBからソフトウェア更新を行う場合は、次の点にご注意ください。
– 新しいソフトウェアは、USBメモリーのルートディレクトリに保存してください。
– ソフトウェアのファイル名は変更しないでください。
– あらかじめUSBメモリーを本体背面のUSB端子に接続しておいてください。

1 **「ソフトウェアの更新」**を選び、**【決定】**を押す
• バージョンアップ画面が表示されます。

2 **【▲】【▼】**で**「ソフトウェアの転送元」**を選び、**【決定】**を押す

3 **【▲】【▼】**で**「ネットワーク」**、**「USB」**を選び、**【決定】**を押す
– **「ネットワーク」**：ネットワークからソフトウェアを更新します。
– **「USB」**：USBからソフトウェアを更新します。

お知らせ
• **「USB」**を選ぶ場合、詳細については販売店にお問い合わせください。

4 **「起動時のバージョン確認」を「する」に設定している場合（124 ページ）：**
最新のソフトウェアバージョンが**「最新のバージョン」**に表示されます。バージョンアップがある場合は、手順**5**にすすんでください。
「起動時のバージョン確認」を「しない」に設定している場合（124 ページ）または手順3で「ソフ

トウェアの転送元」を「USB」に設定している場合：
【▲】【▼】で「バージョン確認」を選び、【決定】を押す

- バージョンアップの確認を開始します。最新のソフトウェアバージョンが**「最新のバージョン」**に表示されます。バージョンアップがある場合は、手順**5**にすすんでください。

5 【▲】【▼】で「ソフトウェア更新」を選び、【決定】を押す

- ソフトウェアの更新を確認するダイアログボックスが表示されます。

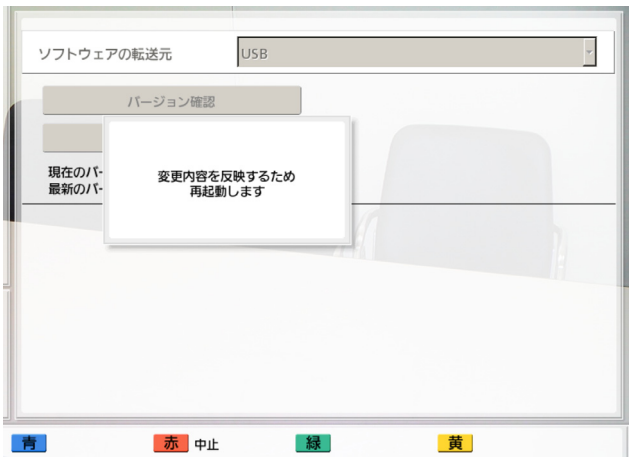
お知らせ

- ダイアログボックス内の注意事項をよく確認してから、次の手順にすすんでください。

6 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 自動的に最新バージョンのダウンロードが開始されます。
- ダウンロードが完了すると、設定内容を反映させるため、本機は自動的に再起動されます。再起動が始まる前には、次の画面が表示されます。

再起動前の画面



再起動後、本機は最新バージョンのソフトウェアで起動します。

お知らせ

- 最新のファームウェアおよび取扱説明書の入手方法については、販売店にお問い合わせください。
- バージョンアップの確認や、最新バージョンのダウンロードに失敗すると、エラーメッセージが表示されます。**【決定】**を押して本機を再起動してください。
  次の点を実行してみてください。
  a. ネットワーク設定（105 ページ）で、**「DNSの設定」**または**「優先DNSサーバー」**の設定を確認してください。その後、再度ソフトウェアの更新を行ってください。

  「DNSの設定」が**「自動」**に設定されている場合は、DHCPサーバーに問題がある可能性がありますのでネットワーク管理者にご相談ください。
  b. 上記の方法でもうまくいかない場合は、回線が混み合っている可能性があります。しばらく時間をおいてから、再度ソフトウェアの更新を行ってください。
  何度実行してもうまくいかない場合は、ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。販売店にご相談ください。

ビデオカメラを初期化する

お知らせ

- 非通信中、自分側に接続されたビデオカメラのみ初期化が可能です。
- 対応しているビデオカメラの機種については、販売店にお問い合わせください。

1 「カメラの初期化」を選び、【決定】を押す

- ビデオカメラの初期化画面が表示されます。

2 【◀】【▶】で初期化するビデオカメラ（「メイン」（デフォルト）、「サブ」）を選ぶ

3 【赤】を押す

- ビデオカメラ初期化の開始を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 【◀】【▶】で「はい」を選び、【決定】を押す

- 初期化完了後、管理者メニュー画面が表示されます。

システムの初期化を行う

1 **「システムの初期化」**を選び、**【決定】**を押す

- システム初期化の開始を確認するダイアログボックスが表示されます。

2 **【◀】【▶】**で**「はい」**を選び、**【決定】**を押す

- システムの初期化を完了するために、本機は自動的に再起動されます。

お知らせ

- 初期化後、すべての設定とアドレス帳、プロファイル、発信元、通信履歴に保存されている情報は破棄されます。
- データのインポート（136 ページ）により更新された起動画面データは破棄されます。
- ソフトウェアの拡張（137 ページ）により有効にした機能は破棄されません。

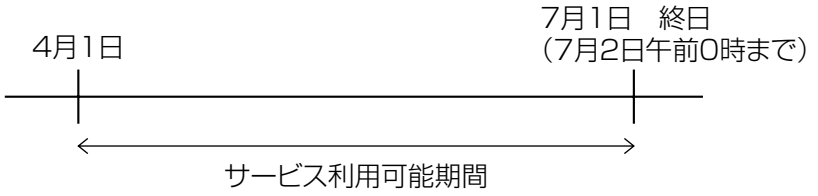
つながるねっとサービスを利用する

接続にあたっての準備

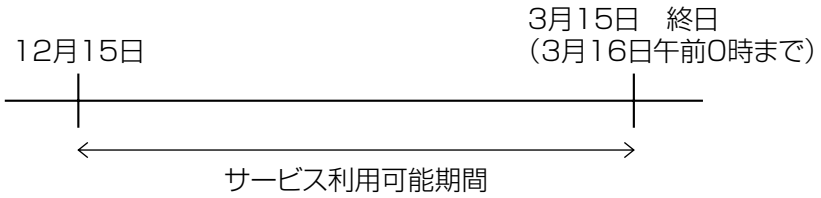
サービスの有効期限について

本サービスをご利用になるには、サービスの利用登録が必要です。添付のアクティベーションキーで利用登録を行うことで、本サービスを3か月間無料でご利用いただけます。サービスの利用可能期間は、利用登録が完了した時点（「拡張機能を有効にする (137 ページ)」の手順が完了した時点）から開始されます。有効期限は開始から３か月後にあたる日の終日（日付が変わる翌日午前0時まで）となります。

例1：4月1日に利用登録を完了した場合



例2：12月15日に利用登録を完了した場合



お知らせ

- サービスの有効期限は、本機を使って確認することができます。確認方法については、「拡張機能の確認を行う (116 ページ)」を参照してください。

お試し用の利用可能期間終了後も継続して本サービスをご利用になるには、有償のアクティベーションキーを購入し有効期限を延長する必要があります。延長できる期間はアクティベーションキーによって異なります。アクティベーションキーの詳細については、販売店にお問い合わせください。
延長についての手順や詳しい内容については、「有効期限の延長を行う (147 ページ)」を参照してください。

セキュリティについて

本サービスはインターネット回線を利用して通信を行うため、暗号通信を無効にしていると盗聴される恐れがあります。本サービスを使って通信をする際は、暗号通信を有効にしてください。設定方法については「暗号通信の設定をする (123 ページ)」を参照してください。

つながるねっとサービスの導入手順

「つながるねっとサービス」を導入し、運用を開始していただくために必要な手順です。
詳細は各設定項目を参照してください。

1　必要な環境を準備する（143 ページ）。

2　Registration Key（レジストレーションキー）を取得する（143 ページ）。
（パソコンでの操作）

3　本体につながるねっとサービスを使用するための設定を行う（125 ページ）。
（本体での操作）

4　Registration Key（レジストレーションキー）を本体に登録する（137 ページ）。
（本体での操作）

5　つながるねっとサービスを使用する。

6　つながるねっとサービスの有効期間を延長する（147 ページ）。
（パソコンでの操作）

お知らせ

- 「Registration Key（レジストレーションキー）を取得する (143 ページ)」と「有効期限の延長を行う (147 ページ)」操作は、販売店が行う必要があります。詳細は販売店にお問い合わせください。

インターネットに接続する

つながるねっとサービスを利用するためには、以下の条件を満たしている機器および環境が必要です。

ネットワーク環境

つながるねっとサービスを利用して通信をする場合は、ブロードバンド回線による接続が必要です。推奨環境は光回線です。

ルーター

当社にて動作検証済みのルーターを使用して、プロバイダーからの設定情報をもとにインターネット接続の設定を行ってください。検証済みルーターの詳細については、以下のホームページを参照してください。
http://panasonic.biz/com/visual/tsunagaru/
ルーターの設定方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。

ルーターと本体を接続する

1 ルーターと本体背面のLAN1ジャックを接続する

- カテゴリー5以上のLANケーブルでルーターと本体背面のLAN1ジャックをつないでください。（LAN 1 ジャックの位置は「各部のなまえとはたらき」の「本体（背面） (21 ページ)」を参照してください。）

お知らせ

- 次の場合、通信は保証されません。
  - 検証済みルーター以外のルーターを使用した場合
  - 1台のルーターに複数台のHD映像コミュニケーションユニットを接続した場合
  - ルーターを使用せずに、HD映像コミュニケーションユニットを直接インターネットに接続した場合

Registration Key（レジストレーションキー）を取得する

パソコンから、つながるねっとサービス登録ページにアクセスし、Registration Key（レジストレーションキー）を取得します。取得するには次の情報が必要です。

- **MPR ID**
  - 本体背面のラベル、または本機を操作して確認することができます。確認方法については「MPR IDを確認する（本機での操作） (143 ページ)」を参照してください。
- **Activation Key No.（アクティベーションキーナンバー）**
  - アクティベーションキーに記載されています。
- **Registration ID（レジストレーションID）**
  - アクティベーションキーに記載されています。

MPR IDを確認する（本機での操作）

1 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

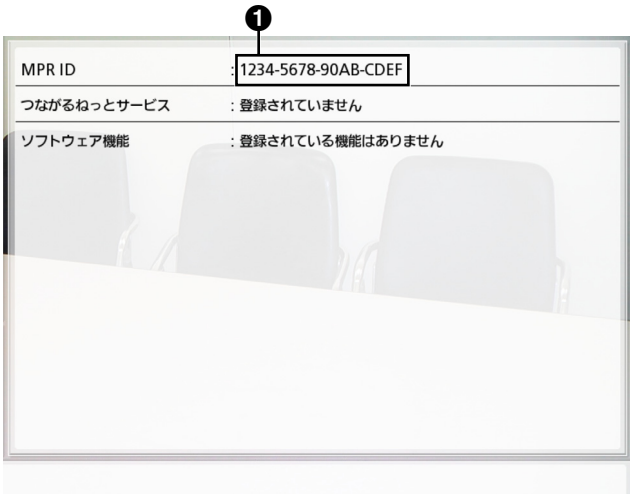
2 **【▲】【▼】**で**「設定／保守をする」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

3 **【◀】【▶】**を押して、4ページ目を表示する

4 **【▲】【▼】**で**「拡張機能の確認」**を選び、**【決定】**を押す

- 拡張機能の確認画面が表示されます。**「MPR ID」**（❶）の表示を確認してください。



5 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

Registration Key（レジストレーションキー）を取得する（パソコンでの操作）

お知らせ

- 対応OSおよびブラウザーは次のとおりです。
  Microsoft® Windows® 7
  - Microsoft® Windows® Internet Explorer® 8
  - Windows Internet Explorer 10

  Microsoft Windows 8
  - Windows Internet Explorer 10
  - Mozilla® Firefox®

1 パソコンからつながるねっとサービス登録ページ（https://www.tsunagarunet.com/hdcom/main）にアクセスする

- ログイン画面が表示されます。

2 画面右上のプルダウンメニューから**「日本語」**を選ぶ

English
Visual Communication
Please enter Security Code shown below, and click [Apply].
Apply
In case of lost of the applied Registration Key information,
enter Security Code shown above and click here.

- ログイン画面が日本語で表示されます。

3 画像に表示されている文字を入力し、**「次へ」**をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

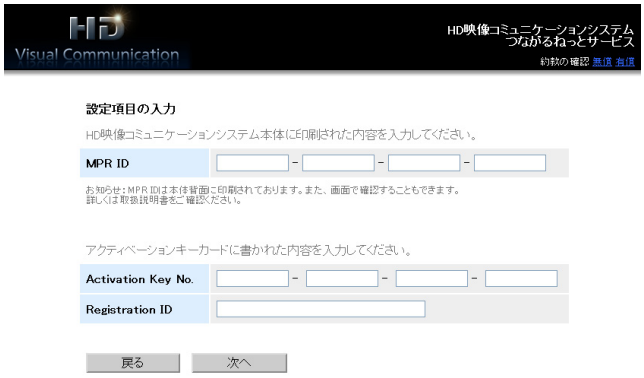
お知らせ

- 入力時にはアルファベットの大文字、小文字の違いも認識されます。

4 HDコムの**「新規申請」**をクリックする

- 新規申請画面が表示されます。

5 以下の項目を入力する



「MPR ID」
「Activation Key No.」
「Registration ID」

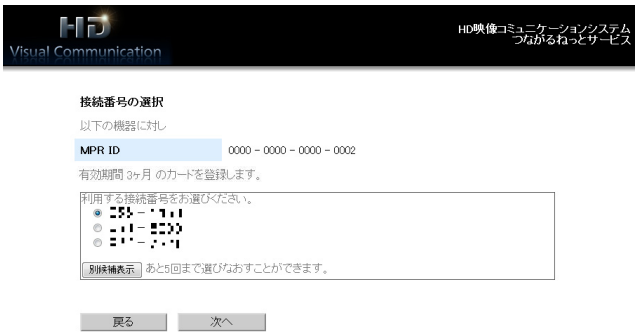
6 **「次へ」**をクリックする

- 約款画面が表示されます。

7 約款をよく読み、内容に同意したうえで**「同意する」**をクリックする

- 接続番号選択画面が表示されます。

8 利用したい接続番号のラジオボタンをクリックし、**「次へ」**をクリックする



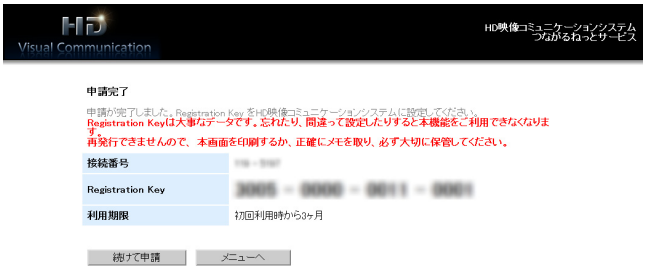
- 入力内容確認画面が表示されます。

お知らせ

- **「別候補表示」**をクリックすると、別の利用可能な接続番号の候補が表示されます。この操作は5回まで行うことができます。一度**「別候補表示」**をクリックすると、それまで表示されていた接続番号の候補に戻ることはできません。

9 **「登録」**をクリックする

- 申請完了画面が表示されます。画面に表示されている**「Registration Key」**（16桁）は、本体に登録する際に必要です。この画面を印刷するか、アクティベーションキーまたはメモに控えるなどして大切に保管してください。



重要

- Registration Key（レジストレーションキー）の内容を紛失した場合は、「Registration Key（レジストレーションキー）を再表示させる（パソコンでの操作）（146 ページ)」を参照してください。

10「メニューへ」をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

Registration Key（レジストレーションキー）を再表示させる（パソコンでの操作）

Registration Key（レジストレーションキー）の内容を紛失した場合は、次の手順で再表示させることができます。

1 パソコンからつながるねっとサービス登録ページ（https://www.tsunagarunet.com/hdcom/main）にアクセスする

- ログイン画面が表示されます。

2 画面右上のプルダウンメニューから**「日本語」**を選ぶ

- ログイン画面が日本語で表示されます。

3 画像に表示されている文字を入力し、画面下の**「こちら」**をクリックする

- 機器参照入力画面が表示されます。

お知らせ

- 入力時にはアルファベットの大文字、小文字の違いも認識されます。

4 以下の項目を入力する

「種別」：HDコムを選択
「MPR ID」
「Activation Key No.」
「Registration ID」

5 「次へ」をクリックする

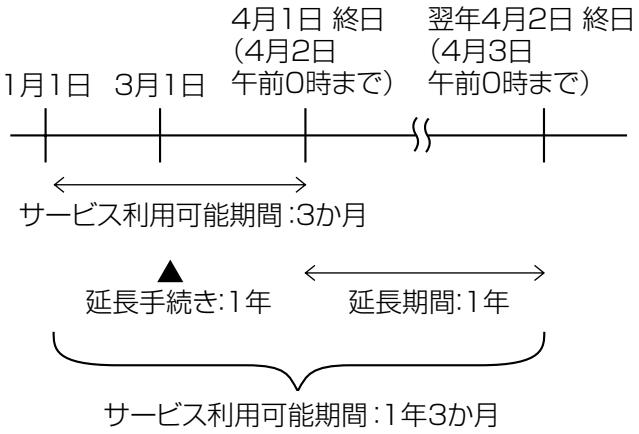
- 機器参照画面が表示されます。画面に表示されている「Registration Key」の内容を確認してください。確認が完了したら、ブラウザーを閉じてください。

有効期限の延長を行う

サービスの有効期限を延長するには、有償のアクティベーションキーを購入する必要があります。
延長できる期間はアクティベーションキーによって異なります。アクティベーションキーの詳細については、販売店にお問い合わせください。

お知らせ

- サービス利用可能期間中に有効期限の延長を行った場合は、延長した分の期間が現在のサービス利用可能期間に加算されます。
  例：3か月のサービス利用可能期間中に、1年の有効期限の延長を行った場合



- 有効期限切れから6か月以内に有効期限の延長を行った場合は、延長を行った時点からサービス利用可能期間が開始されます。

1 パソコンからつながるねっとサービス登録ページ（https://www.tsunagarunet.com/hdcom/main）にアクセスする

- ログイン画面が表示されます。

2 画面右上のプルダウンメニューから**「日本語」**を選ぶ

- ログイン画面が日本語で表示されます。

3 画像に表示されている文字を入力し、**「次へ」**をクリックする

- 機能選択画面が表示されます

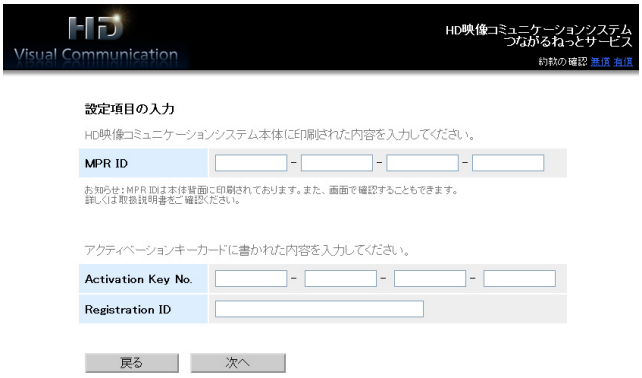
お知らせ

- 入力時にはアルファベットの大文字、小文字の違いも認識されます。

4 HDコムの**「期間の延長」**をクリックする

- 期間の延長画面が表示されます。

5 以下の項目を入力する



「MPR ID」：有効期限を延長したい本体のMPR IDを入力する
「Activation Key No.」：有効期限を延長するために購入したアクティベーションキーに記載されているActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）を入力する
「Registration ID」：有効期限を延長するために購入したアクティベーションキーに記載されているRegistration ID（レジストレーションID）を入力する

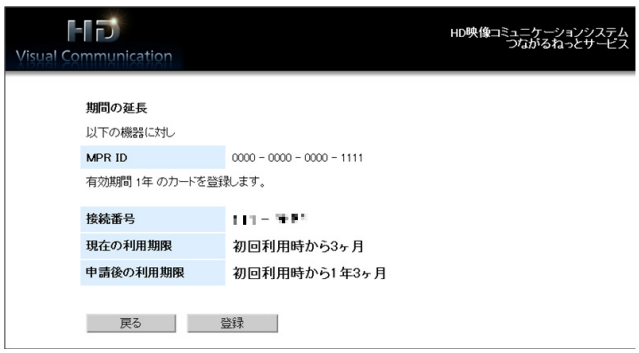
6 **「次へ」**をクリックする

- 約款画面が表示されます。

7 約款をよく読み、内容に同意したうえで**「同意する」**をクリックする

- 延長確認画面が表示されます。

8 **「登録」**をクリックする



- 延長完了画面が表示されます。

お知らせ

- 連続して複数のアクティベーションキーを登録したい場合は、**「続けて申請」**ボタンをクリックして、手順5～8をくり返してください。
- 同時に登録できるアクティベーションキーの有効期間の合計は、現在利用中の有効期間の残りも含めて最長で6年です。有効期間の合計が6年を超えるアクティベーションキーの登録はできません。

9 **「メニューへ」**をクリックする

- 機能選択画面が表示されます。

10 本体の電源ボタンをオフ／オンして再起動する

- 延長した有効期限が本機に反映されます。

11 **【メニュー】**を押す

- メニュー画面が表示されます。

12 **【▲】【▼】**で**「設定／保守をする」**を選び、**【決定】**を押す

- システム設定画面が表示されます。

13 **【▶】**を3回押す

- 4ページ目が表示されます。

14 **【▲】【▼】**で**「拡張機能の確認」**を選び、**【決定】**を押す

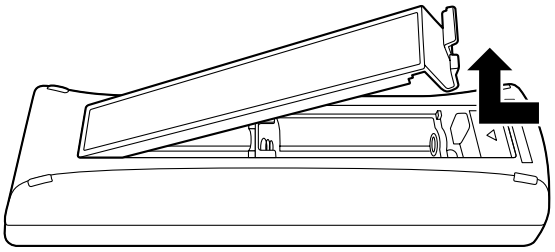
- 拡張機能の確認画面が表示されます。**「つながるねっとサービス」**の表示を確認し、有効期限が延長されていることを確認してください。

15 **【ホーム】**を押す

- ホーム画面が表示されます。

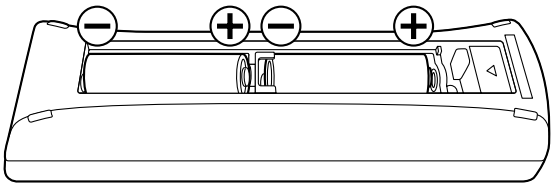
リモコンの電池を交換する

1 ふたを開ける



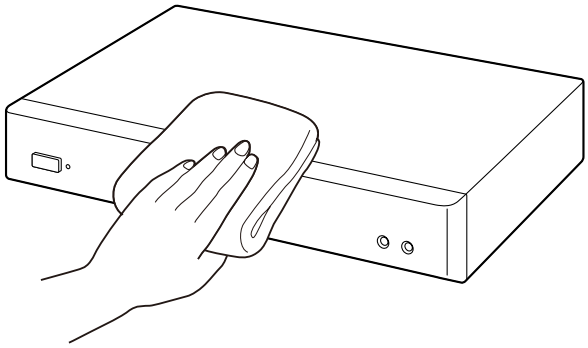
2 単3形乾電池を取り出す

3 交換用の単3形乾電池を（−）側から入れ、ふたを閉める



お手入れ

お手入れをするときは、電源プラグやケーブルを抜き、電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままお手入れをすると、感電の原因となります。



- 機器は、乾いた柔らかい布でふいてください。
  汚れがひどい場合、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
- お手入れには下記のものは使わないでください。変色、変質の原因になります。
  - 石油
  - みがき粉
  - アルコール
  - シンナー
  - ベンジン
  - ワックス
  - 熱湯
  - 粉せっけん
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。

文字や数字を入力する

リモコンでカタカナ、アルファベット、数字を入力することができます。（リモコンで漢字を入力することはできません。漢字を入力したい場合は、お手数ですが販売店までご相談ください。）
入力可能な文字や数字は次のとおりです。設定により選択した言語、また、選択した接続モードによって入力可能な文字は異なります。入力したい文字や数字が表示されるまで、該当するボタンを繰り返し押します。同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するには、【▶】を押してカーソルを右に移動させてください。

表1　日本語

ボタン	カナモード（全角）	英字モード（半角）		数字モード（半角）
		大文字優先モード	小文字優先モード	
1 ア	アイウエオァィゥェォ	1	1	1
2 カ ABC	カキクケコ	ABCabc2	abcABC2	2
3 サ DEF	サシスセソ	DEFdef3	defDEF3	3
4 タ GHI	タチツテトッ	GHIghi4	ghiGHI4	4
5 ナ JKL	ナニヌネノ	JKLjkl5	jklJKL5	5
6 ハ MNO	ハヒフヘホ	MNOmno6	mnoMNO6	6
7 マ PQRS	マミムメモ	PQRSpqrs7	pqrsPQRS7	7
8 ヤ TUV	ヤユヨャュョ	TUVtuv8	tuvTUV8	8
9 ラ WXYZ	ラリルレロ	WXYZwxyz9	wxyzWXYZ9	9
0 ワヲン	ワヲンヮー（全角スペース）	0（半角スペース）	0（半角スペース）	0
・ ゛゜ @	゛（濁点）゜（半濁点）	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>
# 記号	。＠：；”　＝＊＋＜＞＃＿ーー＆＄￥％～￣！？／　‘（），［］｛｜｝’	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'

表2　英語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード	拡張文字1（西欧系）		拡張文字2（東欧系）	
	大文字優先モード	小文字優先モード		大文字優先モード	小文字優先モード	大文字優先モード	小文字優先モード
1 ア	1	1	1	1	1	1	1
2 カ ABC	ABCabc2	abcABC2	2	AÀÁÂÃÄÅÆBCÇaàáâãäåæbcç2	aàáâãäåæbcçAÀÁÂÃÄÅÆBCÇ2	AÁÄĄBCĆČaáäąbcćč2	aáäąbcćčAÁÄĄBCĆČ2
3 サ DEF	DEFdef3	defDEF3	3	DEÈÉÊËFdeèéêëf3	deèéêëfDEÈÉÊËF3	DĎEÉĘĚFdďeéęěf3	dďeéęěfDĎEÉĘĚF3
4 タ GHI	GHIghi4	ghiGHI4	4	GĞHIİÌÍÎÏĨĬgğhiıìíîïĩĭ4	gğhiıìíîïĩĭGĞHIİÌÍÎÏĨĬ4	GHIÍghiı4	ghiıGHIÍ4
5 ナ JKL	JKLjkl5	jklJKL5	5	JKLjkl5	jklJKL5	JKLĹĽŁjklĺľł5	jklĺľłJKLĹĽŁ5
6 ハ MNO	MNOmno6	mnoMNO6	6	MNÑOÒÓÔÕÖØŒmnñoòóôõöøœ6	mnñoòóôõöøœMNÑOÒÓÔÕÖØŒ6	MNŃŇOÓÖŐmnńňoóöő6	mnńňoóöőMNŃŇOÓÖŐ6
7 マ PQRS	PQRSpqrs7	pqrsPQRS7	7	PQRSŞßpqrsşß7	pqrsşßPQRSŞß7	PQRŔŘSŚŠpqrŕřsśš7	pqrŕřsśšPQRŔŘSŚŠ7
8 ヤ TUV	TUVtuv8	tuvTUV8	8	TUÙÚÛÜŨVtuùúûüũv8	tuùúûüũvTUÙÚÛÜŨV8	TŤUÚÜŮŰVtťuúüůűv8	tťuúüůűvTŤUÚÜŮŰV8
9 ワ WXYZ	WXYZwxyz9	wxyzWXYZ9	9	WŴXIJYŶZwŵxijyŷz9	wŵxijyŷzWŴXIJYŶZ9	WXYỲÝZŹŻŽwxyỳýzźżž9	wxyỳýzźżžWXYỲÝZŹŻŽ9
0 ワヲン_	0（スペース）	0（スペース）	0	0（スペース）	0（スペース）	0（スペース）	0（スペース）
・ ゛ ゜ ＊ @	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>	.@:;"=*+<>
# 記号	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'	#_-&$\%~^!?/`(),[]{|}'

表3　中国語

ボタン	ラテン文字モード		数字モード
	大文字優先モード	小文字優先モード	
1	1	1	1
2 ABC	ABCabc2	abcABC2	2
3 DEF	DEFdef3	defDEF3	3
4 GHI	GHIghi4	ghiGHI4	4
5 JKL	JKLjkl5	jklJKL5	5
6 MNO	MNOmno6	mnoMNO6	6
7 PQRS	PQRSpqrs7	pqrsPQRS7	7
8 TUV	TUVtuv8	tuvTUV8	8
9 WXYZ	WXYZwxyz9	wxyzWXYZ9	9
0 _	0　(Normal space)	0　(Normal space)	0
• @ *	.@:;”=*+<>	.@:;”=*+<>	.@:;”=*+<>
#	#_-&$\%~^!?/‘(),[]{|}’	#_-&$\%~^!?/‘(),[]{|}’	#_-&$\%~^!?/‘(),[]{|}’

入力モードを切り替える

【青】または**【赤】**を押すたびに、次のように順番に入力モードが切り替わります。

- **【青】**:
  （日本語選択時）カナモード → 英字モード → 数字モード
  （英語選択時）ラテン文字モード → 数字モード → 拡張文字1モード → 拡張文字2モード
  （中国語選択時）ラテン文字モード → 数字モード
- **【赤】**:
  （カナモード／数字モード以外選択時）小文字優先モード → 大文字優先モード

現在選択中の入力モードはガイドエリアに表示されます。

例：カナモードを選択中

入力した文字や数字を削除する

【黄】を押すと、入力した文字や数字を削除できます。カーソルの位置によって削除される文字や数字が次のように異なります。

- カーソルの位置が入力文字・数字の最後：直前の1文字や数字を削除
- カーソルの位置が入力文字・数字の途中：直後の1文字や数字を削除

文字や数字を挿入する

【◀】【▶】で挿入したい位置にカーソルを移動させ、文字や数字を入力します。入力した文字や数字は、移動させたカーソルの前後の文字や数字の間に挿入されます。

困ったとき

トラブルが起きたときは、こちらをお読みください。点検を行う前に、本体が正しく接続されているか、電源プラグを差し込んでいる電源コンセントから電源が供給されているか確認してください。

標準モード

基本動作について

こんなとき	原因と対応
電源が入らない	• 電源プラグが電源コンセントに接続されていません。 → 電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。
画面が表示されない	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。自己診断を行い、本体に接続しているビデオカメラとテレビの動作を確認してください（117 ページ）。 • メインビデオカメラの電源が入っていません。 → メインビデオカメラの電源を入れてください。 • テレビの電源が入っていません。またはテレビの入力切替の設定が異なっています。 → テレビの電源を入れてください。テレビの入力切替の設定を変更してください。 • スクリーンスタンバイ状態です。 → リモコンを操作するか、着信があるとスクリーンスタンバイ状態が解除され、映像が表示されます。 **お知らせ** • ネットワーク管理者がスクリーンスタンバイ状態に移行するまでの時間を設定することができます（111 ページ）。 • HDCP（不正コピー防止技術）に対応した機器を接続したときは、青い画面が表示されたり、青と黒の画面を繰り返すなど映らない場合があります。 → 正常に映らない場合は、HDCPに対応した機器を接続しないでください。

こんなとき	原因と対応
映像の上／下または左／右が欠けているように見える	• テレビが、すべてを表示できる設定になっていません。 → パナソニック（株）製テレビをご使用の場合は、テレビの画面表示モードが「フル」になっていることを確認してください。 → パナソニック（株）製以外のテレビをご使用の場合は、販売店にご相談ください。 • MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、映像の一部が切れて表示されることがあります。 → 販売店にご相談ください。
映像の横縦比が正しく表示されない	• MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、映像の横縦比が正しく表示されないことがあります。 → 2地点通信中に**【緑】**を押すと映像横縦比を変更するダイアログボックスが表示されるので、**【▲】【▼】**で横縦比を選んでください。ダイアログボックスは約３秒後に消えます。変更した映像横縦比は、通信が終了すると**「自動」**（デフォルト）に戻ります。
操作しても動かない／動作がおかしい	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。 • エラーが発生しています。 → 電源を切って再起動してください。 • ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。 → 販売店にご相談ください。

こんなとき	原因と対応
リモコンが動かない	• リモコンの電池が切れています。 → 新しい電池に交換してください。 • リモコンの動作範囲外で操作しています。 → リモコンの動作範囲内で操作していることを確認してください。 • リモコンIDが本体とリモコンとで一致していません。 → 本体とリモコンのリモコンIDが一致するよう設定を変更してください。次の手順を行ってください。 **1.** 電源を一度切ったあと再度入れ直して本機を再起動する • ホーム画面が表示されます。本体のリモコンIDを確認してください（38 ページ）。 **お知らせ** • リモコンIDがホーム画面に表示されていない場合は、販売店へお問い合わせください。 **2.** **[・]**と**[#]**を同時に押したままにする **3.** ボタンを離して2秒以内にホーム画面に表示されているIDと一致する番号（**1**～**3**）を押す **お知らせ** • 上記の手順を行ってもリモコンが動かない場合は、販売店へお問い合わせください。 • 固定カメラが、リモコンからの信号を受信する設定になっています。 → 固定カメラのリモコン受信部にリモコンを向けて操作を行ってください。 → **「固定カメラのリモコン受信」**を**「無効」**に設定してください（115 ページ）。 • 本体が、リモコンからの信号を受信する設定になっています。 → 本体のリモコン受信部にリモコンを向けて操作を行ってください（20 ページ）。 → **「固定カメラのリモコン受信」**を**「有効」**に設定してください（115 ページ）。

こんなとき	原因と対応
リモコンで自分側のビデオカメラ（メインまたはサブビデオカメラ）を操作できない	• 自分側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。 → 本体がサポートしているビデオカメラを使用してください。詳細については、販売店にお問い合わせください。 • 自分側のビデオカメラがサポートしていない機能を操作しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。 → 操作しようとしている機能を自分側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。 • 自分側でメインビデオカメラとサブビデオカメラを両方接続している場合、操作できないときがあります。 → 操作できないビデオカメラのHDMIケーブルを一度抜いて、再度接続し直してください。

こんなとき	原因と対応
リモコンで相手側のビデオカメラ（メインまたはサブビデオカメラ）を操作できない	• 相手側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。 → 本体がサポートしているビデオカメラを使用するように相手に伝えてください。詳細については、販売店に問い合わせるように相手に伝えてください。 • 相手側の**「通信相手からのカメラ制御」**が**「無効」**に設定されています（115 ページ）。 → 相手側に**「通信相手からのカメラ制御」**を**「有効」**に設定するように伝えてください。 • 相手側のビデオカメラがサポートしていない機能を操作しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。 → 操作しようとしている機能を相手側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。 • 相手側でメインビデオカメラとサブビデオカメラを両方接続している場合、操作できないときがあります。 → 操作できないビデオカメラのHDMIケーブルを一度抜いて、再度接続し直すように相手に伝えてください。 • 互換性のないソフトウェアのバージョンを使用している通信参加者がいます。 → 通信参加者のソフトウェアのバージョンを確認してください。ソフトウェアを更新して、バージョンを合わせてください。 • 相手が他社製のビデオ会議システムを使用しています。 → 他社製のビデオ会議システムの場合、操作ができなかったり、誤動作を起こす可能性があります。 • 自拠点が内蔵MCU機能を使用した多地点通信の子拠点で、相手側のカメラの制御を許可されていません。 → **「MCUの設定」**の**「カメラ制御の転送」**を**「有効」**に設定してください。

こんなとき	原因と対応
相手とつながらない	• LAN1またはLAN2（KX-VC1600Jのみ）のケーブルが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。相手のIPアドレスを指定して、ネットワーク接続の確認を行い、相手との接続を確認してください（116 ページ）。 • ルーティング情報が正しくありません。 → ネットワーク設定、ルーティング設定をご確認のうえ、ネットワーク管理者にご相談ください。 • 最大帯域の設定が正しくありません。 → 他社機接続の場合、双方の帯域設定によっては通信できません。最大帯域の設定を確認し設定を変更するか、適切な設定に変更するように相手に伝えてください（107 ページ）。 • 通信タイプの設定が正しくありません。 → 通信タイプの設定を相手と合わせてください（126 ページ）。 • SIPの設定が正しくありません。 → SIPの設定を確認してください（127 ページ）。SIPの設定を確認後、それでも相手とつながらない場合はネットワーク管理者にご相談ください。 • ダイジェスト認証用のIDとパスワードが正しく設定されていません。 → **「認証用ID」**と**「認証用パスワード」**が正しく設定されているか確認してください（127 ページ）。 • **「SIPトランスポートプロトコル」**の設定が相手と異なります。 → **「SIPトランスポートプロトコル」**の設定を相手と合わせてください（128 ページ）。 • 発信元の選択が正しくありません。 → 発信元を確認してください。ご使用の環境に合った発信元を選択してください（101 ページ）。 • IPアドレスが正しく入力されていません。 → 相手のIPアドレスを正しく入力したか確認してください。 • SIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名が正しく入力されていません。 → 相手のSIP-URI（またはSIPユーザー名）／H.323内線番号／H.323名を正しく入力したか、また、規格に準拠した値を入力したか確認してください。 • MCUの会議室番号@IPアドレスが正しく入力されていません。 → 接続するMCUの会議室番号およびIPアドレスを正しく入力したか確認してください。

こんなとき	原因と対応
	• MCUの会議室番号@IPアドレスを入力して発信する場合、**「SIPサーバーの使用」**または**「ゲートキーパーの使用」**を**「する」**に設定しています。 → **「SIPサーバーの使用」**と**「ゲートキーパーの使用」**を**「しない」**に設定してください（127 ページ、128 ページ）。 • インターネット接続が確立（リンクアップ）していません。 → 接続するハブ、ルーターなどによっては、リンクアップに 10 秒以上かかるものがあります。 • ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。 → 販売店にご相談ください。 • MCU接続または他社機接続で通信をしようとしています。 → MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、暗号通信ができなかったり、誤動作を起こしたりする可能性があります。その場合は販売店にご相談ください。 • MCU接続または他社機接続の場合、対応していない機種に接続しようとしています。 → 発信履歴から問題のある機器名を確認し、販売店にご相談ください。 • ホスト名が正しくIPアドレスに変換されていません。 → ネットワーク設定（105 ページ）で、**「DNSの設定」**または**「優先DNSサーバー」**の設定を確認してください。
映像が乱れる	• ハブやルーターの設定が本機と異なっています。 → 販売店にご相談ください。 • パケットロスが発生しています。（ネットワークが混雑しています。） → ネットワーク状況アイコンの表示を確認してください（42 ページ）。アンテナの数が0～1本の状態が続く場合は、**【状況表示】**を 2 回押して、**「ロス率」**と**「帯域」**をご確認のうえ、ネットワーク管理者または販売店にご相談ください（93 ページ）。 • 最大帯域の設定が正しくありません。 → 多地点通信では、1拠点あたり256 kbps以上の帯域が必要です。**「最大帯域」**を接続拠点数×256 kbps以上の値に設定してください（107 ページ）。 → MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、帯域不足などにより映像が乱れることがあります。その場合は販売店にご相談ください。 • ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。 → 販売店にご相談ください。
通信中の最大帯域が変わっている	• 通信中は、最大帯域を最も小さく設定した参加者の最大帯域が適用されます。 → ご利用の回線に問題が発生する場合は、販売店にご相談ください。

こんなとき	原因と対応
パソコンの画面やサブビデオカメラの映像が共有できない	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（77 ページ）。ホーム画面で**【PC】**または**【サブカメラ】**を押して、パソコン画面やサブビデオカメラの映像を確認してください。 • パソコンの解像度が本機に対応していません。 → 本機に対応している解像度に設定してください（77 ページ）。

音声について

こんなとき	原因と対応
相手に自分の声が聞こえない	• マイクのケーブルが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。自己診断を行い、本体に接続しているマイクの動作を確認してください（117 ページ）。 • マイクがマイクオフになっています。 → リモコンの**【マイクオフ】**を押すか、専用マイクのマイクオフボタンを押して、マイクオフを解除してください（74 ページ）。 • **「着信時のマイクオフ」**が**「する」**に設定されています。 → 応答して通信を開始した時のマイクがマイクオフになります。設定を確認してください（108 ページ）。 • マイクが遮られています。 → 通信中は、物や手でマイクを遮らないでください。 • マイクから離れすぎています。 → マイクの近くで話をしてください。 • 専用デジタルマイクを5台以上カスケード接続しています。 → 接続台数を4台以下にしてください。 • ヘッドセットが接続されています。 → ヘッドセットを接続している場合は、専用マイクからの音声入力が機能しなくなりますので、専用マイクを使って通信する場合は、ヘッドセットを外してください。 • ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。 → 販売店にご相談ください。
音が途切れる	• マイクから離れすぎています。 → マイクの近くで話をしてください。 • 通信中に本体やマイクを動かしています。 → 通信中は、本体やマイクを動かさないでください。 • マイクが遮られています。 → 通信中は、物や手でマイクを遮らないでください。 • ご利用の回線に問題が発生している可能性があります。 → 販売店にご相談ください。

こんなとき	原因と対応
音声が聞こえない・小さい	• 本機の音量の設定が小さすぎます。 → 音量を大きくしてください（73 ページ）。 **お知らせ** • 通信開始時の音量を設定することができます。設定を確認してください（111 ページ）。 • 通信中の相手がマイクオフになっています。 → 相手にマイクオフを解除するように伝えてください。 • テレビの音量の設定が小さすぎます。 → テレビの音量を大きくしてください。 • ヘッドセットが接続されています。 → ヘッドセットを接続している場合は、テレビやスピーカーからの音声出力が機能しなくなりますので、ヘッドセットを外してください。
ハウリングが発生する	• マイクがテレビ・スピーカーに近づきすぎています。 → マイクをテレビ・スピーカーから1 m以上離してください。 • テレビの音量の設定が大きすぎます。 → テレビの音量を小さくしてください。
音が途切れる／エコー（自分の声がスピーカーから聞こえる現象）が発生する	• 通信開始直後は、本機が使用環境に適応していない場合があります。 → 通信開始直後は、相手と交互にお話ください。本機が使用環境に合わせて両者の声を聞き取りやすくなるように自動的に調整します。
相手にノイズが聞こえる	• 専用マイクのケーブルが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（28 ページ）。
相手の映像と逆のスピーカーから声が聞こえる（画面の右側に映っている相手の声が左側から聞こえるなど）	• スピーカーが正しく配置されていません。 → テレビの両側にスピーカーを配置し、左右が正しく接続されているか確認してください。 • 相手側のスピーカーが正しく配置されていません。 → 相手にテレビの両側にスピーカーを配置するように伝えてください。マイク位置の設定がおまかせ設定の場合、会議室の前方にテレビ、後方にスピーカーを配置すると、マイクの集音位置が左右逆になり、相手側の映像と逆のスピーカーから声が聞こえます。 • 相手側のマイク位置の手動設定が正しくありません。 → 相手にマイク位置の手動設定内容を確認するように伝えてください。マイク位置の手動設定の左右はメインビデオカメラから見た左右です。また、**「中央ステレオ」**に設定する場合は、専用デジタルマイクのコネクターをテレビ側に向けて設置してください（112 ページ）。

機能の設定について

こんなとき	原因と対応
本機の設定ができない	• 通信中です。 → 通信を終えてから、本機を設定してください。 • 着信中です。 → 着信に応答するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。**【終了】**を押して着信を切断してから、本機を設定してください。 → 本機の設定を編集中に着信すると、編集内容を保存せずに着信に応答するかどうかを確認するダイアログボックスが表示され、一時的に編集ができなくなります。編集を継続したい場合は、応答を拒否してください。

こんなメッセージが出たら

表示メッセージ	原因と対応
暗号設定が異なるため通信できませんでした	• 暗号通信の有効／無効の設定が相手と一致していません。 → 暗号通信の設定を相手と合わせてください（108 ページ、108 ページ、123 ページ）。
暗号鍵が一致しないため通信できませんでした	• 暗号鍵の設定が相手と一致していません。 → 暗号鍵の設定を相手と合わせてください（124 ページ）。
メインカメラの入力信号を確認してください	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（21 ページ）。 • メインビデオカメラからの入力信号不正です。 → 接続したメインビデオカメラから正常な入力信号が受信できません。販売店にお問い合わせください。
アドレス帳に空きがないため登録できません	• アドレス帳に空きがありません。 → 不要な登録先を削除してください（95 ページ）。
IPアドレスが正しくありません	• IPアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいIPアドレスを入力してください。IPアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。

表示メッセージ	原因と対応
サブネットマスクが正しくありません	• サブネットマスクとして無効な値を入力しています。 → 正しいサブネットマスクを入力してください。 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。 「.000」のような入力はしないでください。 例：「255.255.255.0」の場合： （正）255.255.255.0 （誤）255.255.255.000
デフォルトゲートウェイが正しくありません	• デフォルトゲートウェイとして無効な値を入力しています。 → 正しいデフォルトゲートウェイを入力してください。 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。 「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001
日時の入力が正しくありません	• 有効な入力範囲以外の値を入力しています。 → 2014/1/1～2035/12/31の値で入力してください。
PCが接続されていません 接続を確認してください	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（32 ページ）。 • パソコンの電源が切れています。 → パソコンの電源を入れてください。 • パソコンの外部ディスプレイ端子から信号が出力されていません。 → パソコンの画面の出力先が外部ディスプレイになるように、パソコンの設定を変更してください。
サブカメラが接続されていません 接続を確認してください	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（32 ページ）。 • サブビデオカメラの電源が切れています。 → サブビデオカメラの電源を入れてください。
サブカメラの入力信号を確認してください	• ケーブルやコードが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください（32 ページ）。 • サブビデオカメラからの入力信号不正です。 → 接続したサブビデオカメラから正常な入力信号が受信できません。販売店にお問い合わせください。

表示メッセージ	原因と対応
HDMInに映像周波数、または解像度が異なるTVが接続されました **お知らせ** • nにはHDMI端子番号（1～3）が表示されます。	• 本体の映像周波数と異なるテレビが接続されました。 → 本体の映像周波数をご使用のテレビに合わせてください。 • 1920 × 1080に対応していないテレビが接続されました。 → 1080に対応したテレビをご使用ください。 **お知らせ** • 接続されたすべてのテレビの解像度が低下します。表示メッセージが示す端子のテレビを外すとフルHDの解像度に戻ります。 • 表示メッセージが示す端子の出力は、機器状況表示画面で**「サポート外」**と表示されます。
画面の解像度を 確認してください	• パソコンの解像度が本機に対応していません。 → 本機に対応している解像度に設定してください（77 ページ）。
nはすでに使用されています **お知らせ** • **n**にはIPアドレスが表示されます。	• 使用するネットワーク上に、入力したアドレスがすでに設定された機器があります。 → 同一ネットワーク上ではIPアドレスが重複しないように設定してください。
冷却用ファンが停止しました 速やかに電源を切ってください	• CPU冷却用のファンが停止しました。 → 速やかに電源を切り、販売店にご相談ください。
サポート外のため通信できませんでした	• サポートしていない機能で接続しようとしました。 → 通信参加者のソフトウェアのバージョンを確認してください。ソフトウェアを更新して、バージョンを合わせてください。接続可能なバージョン、機能の詳細については、販売店へお問い合わせください。 • サポートしていないMCUまたは他社製のビデオ会議システムの機種と接続しようとしました。 → 接続可能なMCUまたは他社製のビデオ会議システムの機種の詳細については、販売店へお問い合わせください。
サポート外のため通信を切断しました	• 通信相手の機器がサポートしていないコーデックを使用しています。 → 通信相手の機器の設定を確認してください。

表示メッセージ	原因と対応
本体の設定（**n2**）と異なるリモコンID（**n1**）を受信しました 本体の設定と同じリモコンで［ホーム］を押してください または、以下の手順でリモコンを設定してください **1** ［·］と［#］を同時に押して離してください **2** 2秒以内に、［**n2**］を押してください **3** リモコンの［ホーム］を押して、この表示が消えれば変更完了です ※この表示が消えない場合は、リモコンの電池を確認し、本体近くで、もう一度設定してください **お知らせ** • ここでは、リモコンのリモコンID（**1**、**2**、**3**）を**n1**と記載しています。 • ここでは、本体のリモコンID（**1**、**2**、**3**）は**n2**と記載しています。	• 本体とリモコンのリモコンIDが一致しません。 → 画面上の手順に従って、リモコンのリモコンIDを変更して本体と合わせてください。 → リモコンのリモコンIDが変更できない場合は、販売店へお問い合わせください。 → 近くで複数のリモコンIDを使用している場合や、このメッセージを表示させない場合は、**「IDの不一致確認」**を**「しない」**に設定してください（114 ページ）。
発信先アドレスが正しくありません	• IPアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいIPアドレスを入力してください。IPアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。 1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。 「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。 • アドレス情報として無効な値を入力しています。 → 正しい宛先を入力してください（44 ページ）。

表示メッセージ	原因と対応
発信先を確認してください	• 相手のIPアドレスが自分のIPアドレスと同じです。 → 正しいIPアドレスを登録してください。 • 多地点通信において、通信参加者の中に、同一のIPアドレスを使用している相手が含まれています。 → 正しいIPアドレスを登録してください。
優先DNSサーバーが正しくありません 代替DNSサーバーが正しくありません	• IPアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいIPアドレスを入力してください。IPアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。
DNSサーバーには異なるアドレスを入力してください	• 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのアドレスが同じです。 → 異なるアドレスを入力してください（106 ページ）。
あとn秒で通信を終了します 通信を継続する場合は、［はい］を押してください **お知らせ** • 設定した時間の残り1分前になった時、このメッセージが表示されます。最初に表示される時、nは**「60」**と表示されています。残りの時間が減り始めます。	• **「最長通信時間」**で設定した時間が残り1分となっています（108 ページ）。 → **「はい」**を選ぶと、**「最長通信時間」**で設定した時間分の通信時間を延長することができます。**「いいえ」**を選ぶと、通信は切断されます。
切断されました	• MCU接続時または他社機接続時に通信が切断されました。 → MCU接続または他社機接続の場合、相手側の機器によっては、暗号通信ができなかったり、誤動作を起こしたりする可能性があります。その場合は販売店にご相談ください。 • MCUまたは他社機接続時に相手と通信ができない場合、本体が原因を特定できずに、通信が切断されました。 → しばらく待って再度発信し、それでも接続できない場合は、販売店にご相談ください。

表示メッセージ	原因と対応
ネットワークに接続できません (XXXX XXXX) **お知らせ** • 「XXXX XXXX」にはエラーコード（数字）が表示されます。	• LANケーブルが正しく接続されていないため、通信ができません。 → LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。ホーム画面にIPアドレス／SIPユーザー名／電話番号などが表示されるのを待って、再度発信してください。それでも接続できない場合は、エラーコードをお控えのうえ、販売店にご相談ください。 **お知らせ** • LANケーブルが正しく接続されていないことが原因で、通信が行えない状態が発生した場合、LANケーブルを正しく接続し直しても、最大で約10分IPアドレス／SIPユーザー名／電話番号などが表示されず、通信を行えない場合があります。
サポート外のためPC共有できませんでした	• 相手がサポートできない解像度のため、パソコン画面を共有することができません。 → 相手が対応可能な解像度に設定を変更してください。 → ネットワーク管理者にご相談ください。
トーン信号は送信できません。	• 相手側の機器がトーン信号に対応していないため、トーン信号を送信できません。 → 相手側の機器の設定を確認するように伝えてください。
現在この操作はできません	• 自分側のビデオカメラが、本体がサポートしているビデオカメラではありません。 → 本体がサポートしているビデオカメラを使用してください。詳細については、販売店にお問い合わせください。 • 自分側のビデオカメラがサポートしていない機能を操作しようとしています。例えば、ズーム機能のみサポートしているビデオカメラに対してパン操作を行おうとしています。 → 操作しようとしている機能を自分側のビデオカメラがサポートしているか確認してください。 • 発信元を選択中に、通信タイプを変更しようとしています。 → 発信元の選択を解除してから通信タイプの変更を行ってください。
SIPサーバーアドレスが正しくありません	• SIPサーバーアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいSIPサーバーアドレスを入力してください。SIPサーバーアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。

表示メッセージ	原因と対応
SIPドメイン名が正しくありません	• SIPドメイン名として無効な値を入力しています。 → 規格に準拠した値を入力してください。詳細については、ネットワーク管理者にご相談ください。
WAN側アドレスが正しくありません	• ルーターのWAN側IPアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいWAN側IPアドレスを入力してください。WAN側IPアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。
ゲートキーパーアドレスが正しくありません	• ゲートキーパーアドレスとして無効な値を入力しています。 → 正しいゲートキーパーアドレスを入力してください。ゲートキーパーアドレスはXXX.XXX.XXX.XXX（ドット形式10進表記）で入力してください。1桁または2桁の数値を含む場合は、そのまま入力してください。「.001」のような入力はしないでください。 例：「192.168.0.1」の場合： （正）192.168.0.1 （誤）192.168.000.001 マルチキャストアドレスやブロードキャストアドレスは使用できません。
動作ログの保存に失敗しました	• 本機に対応していないUSBメモリーを使用しています。 → 本機に対応しているUSBメモリーを使用してください（135 ページ）。 • 使用しているUSBメモリーの空き容量が不足しています。 → USBメモリーに十分な空き容量（50 MByte以上）があることを確認してから操作を行ってください。
初期設定がされていないため設定できません	• 発信元設定において、ネットワーク設定が完了していない接続モードを選択し保存しようとしました。 → 発信元設定の前に、接続モードを変更し（125 ページ）ネットワーク設定を行ってください（105 ページ）。
障害が発生しました 電源を入れ直してください ※自動的に再起動する場合があります	• 本体内部のソフトウェアの起動に失敗しました。 • 本体内部のフラッシュメモリーへのデータの書き込みに失敗しました。 → 約20秒経過しても自動的に再起動しない場合、電源を一度切り再度入れて本機を再起動してください。再起動後も同じメッセージが表示される場合は、販売店にご相談ください。
WAN側アドレスの取得に失敗しました	• 外部サーバーからのWAN側アドレス取得に失敗しました。 → 販売店にご相談ください。

表示メッセージ	原因と対応
管理者権限によりこの操作はできません	• 管理者メニューによって操作が制限されています。 → ネットワーク管理者にご相談ください。
現在この操作はできません	• 実行できないメニューを選択しています。 → 1対1接続の通信中に多地点通信中の操作は選択できません。
この操作はできません	• 実行できないメニューを選択しています。 → 内蔵MCU機能を使用した多地点通信でシングルストリームによるコンテンツ共有中の場合、親拠点で通信中メニューの**「発信する」**、**「メイン表示の設定」**は選択できません。

つながるねっとサービス登録ページについて

基本動作について

こんなとき	原因と対応
画面の表示言語が外国語になっている	• 表示言語の設定が正しくありません。 → ログイン画面右上のプルダウンメニューから、表示したい言語を選んでください（144 ページ）。
機器申請画面にログインできない	• 画像に表示されている文字が正しく入力されていません。 → アルファベットの大文字と小文字が間違っていないか確認して、再度入力してください。 → 使用されない文字を入力していないか確認して、再度入力してください。次の文字は使用されません。 – 大文字：I O – 小文字：c i j l o s u v w x z

こんなメッセージが出たら

表示メッセージ	原因と対応
Activation Key No.（アクティベーションキーナンバー） が不正です。	• 入力したActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）、またはRegistration ID（レジストレーションID）が正しくありません。 → アクティベーションキーの記載を確認して、正確に入力してください。

表示メッセージ	原因と対応
申請済みのアクティベーションキーです。	• 入力したActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）とRegistration ID（レジストレーションID）は、他のHD映像コミュニケーションユニットですでに使用されています。 • 入力したActivation Key No.（アクティベーションキーナンバー）とRegistration ID（レジストレーションID）は、過去に使用されたものです。 → 未使用のアクティベーションキーに記載されている情報を入力してください。それでもメッセージが表示される場合は、販売店にご相談ください。
無償ライセンスは１つの機器に複数登録できません。	• 添付のお試し用アクティベーションキーで利用登録が完了している状態で、さらに別のアクティベーションキーを使用しようとしています。 → 添付以外のアクティベーションキーは使用しないでください。

つながるねっとサービスの本機について

こんなとき	原因と対応
Registration Key（レジストレーションキー）を登録したのに、つながるねっとサービスでの通信ができない	• 接続モードが**「つながるねっとサービスモード」**に設定されていません。 → 接続モードを**「つながるねっとサービスモード」**に設定してください（125 ページ）。
Registration Key（レジストレーションキー）登録後、再起動から5分以上経ってもホーム画面右上に接続番号が表示されない	• LANケーブルが正しく接続されていません。 → 本体と正しく接続されているか確認してください。 • ルーターのインターネット接続の設定が正しくありません。 → プロバイダーからの設定情報をもとに、お使いのルーターの取扱説明書に従って正しく設定してください。 • ルーターのパケットフィルタリング設定、ポートフォワード設定が有効になっています。 → ルーターの設定を無効にしてください。設定方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。
サービス有効期限の延長を行ったのに、ホーム画面に接続番号が表示されない	• つながるねっとサービス登録ページでの登録後、本機を再起動していません。登録内容を反映させるためには、本機を再起動する必要があります。 → 電源を一度切ったあと再度入れて本機を再起動してください。
サービス有効期限の延長を行ったのに、期限が延長されない	• つながるねっとサービス登録ページでの登録後、本機を再起動していません。登録内容を反映させるためには、本機を再起動する必要があります。 → 電源を一度切ったあと再度入れて本機を再起動してください。

つながるねっとサービスでこんなメッセージが出たら

<table>
<tr><th>表示メッセージ</th><th>原因と対応</th></tr>
<tr><td>Registration Keyの認証に失敗しました</td><td>• 無効なRegistration Key（レジストレーションキー）を登録しようとしています。
→ 取得したRegistration Key（レジストレーションキー）の内容を再度確認して（146 ページ）、登録をやり直してください（137 ページ）。</td></tr>
<tr><td>ネットワークに接続できません（XXXXXXXX）

<u>お知らせ</u>
• 「XXXXXXXX」にはエラーコード（英数字）が表示されます。</td><td>• 本体とルーターまたはLANケーブルが正しく接続されていないため、通信ができません。エラーコードの内容は次のとおりです。
<table><tr><th>エラーコード</th><th>内容</th></tr><tr><td>10000001</td><td>ゲートキーパーへの登録失敗</td></tr><tr><td>01000003</td><td>DHCP リース期限切れ</td></tr><tr><td>01000006</td><td>DHCP リース延長による変更</td></tr><tr><td>01000007</td><td>DHCP ネットワーク情報無効</td></tr><tr><td>05000008
0700000b</td><td>SIP サーバーへの登録失敗</td></tr><tr><td>05000009
0600000a</td><td>つながるねっとサービスモードでの TCP 切断</td></tr></table>→ 本体とルーターが正しく接続されているか確認してください。（本体とルーターを直接接続し、動作確認を行ってください。また、LANケーブルを交換し、動作確認を行ってください。）正しく接続されている場合は、ルーターの設定内容が正しくないか、または本体に異常が発生している可能性がありますので、販売店にご相談ください。

<u>お知らせ</u>
• LANケーブルが正しく接続されていないことにより、本機とルーターとの間で通信が行えない状態が発生した場合、LANケーブルをさし直しても最大で約10分、接続番号が表示されず通信を行えない場合があります。</td></tr>
<tr><td>サービスの有効期限が近づいています。有効期限が切れる前に、つながるねっとサービスの「Activation Key」（アクティベーションキー）を購入して登録していただくと、期間を延長することができます。有効期限は拡張機能の確認画面でご確認ください。</td><td>• ご利用中のサービスの有効期限が3か月を切っています。
→ アクティベーションキーをご購入いただき、有効期限の延長を行ってください（147 ページ）。</td></tr>
</table>

表示メッセージ	原因と対応
サービスの有効期限が切れています。つながるねっとサービスの「Activation Key」（アクティベーションキー）を購入して登録していただくと、ご利用いただけるようになります。	• サービスの有効期限が切れています。 → 有効期限切れから6か月以内の場合： アクティベーションキーをご購入いただき、有効期限の延長を行ってください（147 ページ）。 → 有効期限切れから6か月以上の場合： アクティベーションキーをご購入いただき、新たにRegistration Key（レジストレーションキー）を取得し、本体に登録し直してください（137 ページ、143 ページ）。 **お知らせ** • 有効期限切れから6か月以上かどうかを確認する方法は、「拡張機能の確認を行う」を参照してください。
つながるねっとサービスの障害のため、サービスがご利用できなくなっています。お客様にはご迷惑をおかけして、大変申し訳ございません。	• 「つながるねっと」サーバーに障害が発生しています。 → しばらく待って再度発信し、それでも接続できない場合は、販売店にご相談ください。

おもなシステム仕様

本体		KX-VC1600J	KX-VC1300J
端末方式		IETF SIP、ITU-T H.323	
画像圧縮方式		H.261（メインストリームのみ）、H.263、H.263+、H.263++（受信のみ）、H.264 High Profile、H.264 Baseline Profile	
音声圧縮方式		G.711 μ-law、A-law （3.4 kHz@64 kbps） G.722 （7.0 kHz@64 kbps） G.722.1 （7.0 kHz@32 kbps） G.722.1 Annex C （14.0 kHz@48 kbps／24 kbps） MPEG-4 AAC-LD Mono （14.0 kHz@32 kbps、22.0 kHz@96 kbps／64 kbps） MPEG-4 AAC-LD Stereo （22.0 kHz@96 kbps／64 kbps） **チャンネル数：** G.711／G.722／G.722.1／G.722.1 Annex C：1 MPEG-4 AAC-LD Mono：1／MPEG-4 AAC-LD Stereo：2	
遠隔カメラコントロール		H.281 （ズーム／パン／チルト／プリセット）	
デュアルストリーム	方式	H.239 （H.323）、BFCP （SIP）	
	複数モニター	3 モニター	2 モニター
	対応解像度フレーム数	メイン： 最大1080p 30 フレーム／秒 サブ： 1080p 30 フレーム／秒	
暗号化		SRTP （AES 128-bit）、H.235 （AES 128-bit）	
その他		H.460	
通信帯域		256 kbps ～ 18 Mbps	
映像	対応解像度[*1]	176 × 144p、352 × 240p、352 × 288p、512 × 288p、640 × 480p、704 × 480p、768 × 432p、800 × 600p、1024 × 768p、1280 × 720p、1280 × 768p、1280 × 800p、1920 × 1080i、 1920 × 1080p	
	フレーム数	最大 60 フレーム／秒（H.264 1080p時）	
	画面表示	フルスクリーン、PinP、PwithP、Side by Side	
音声		エコーキャンセラー、オートゲインコントロール、 自動ノイズ低減、リップシンク、マイクミュート	

本体			KX-VC1600J	KX-VC1300J
入／出力端子	映像入力	カメラ[*2]	HDMI メイン × 1、HDMI サブ × 1 入力対応解像度：1280 × 720p、1920 × 1080i、1920 × 1080p	
		パソコン	RGB × 1（ミニD-sub 15pin）、HDMI × 1[*2] 入力対応解像度：VGA、SVGA、XGA、HD、WXGA、SXGA、UXGA、WSXGA+、フルHD	
	映像出力		HDMI × 2 出力対応解像度：1920 × 1080i、1920 × 1080p	
			RCA × 1（コンポーネント） HDMI × 1 （自拠点／録画用）	—
	音声入力		専用デジタルマイク × 1 （KX-VCA001）最大4台 専用アナログマイク × 1 （KX-VCA002）最大1台 ステレオミニプラグ[*3] × 1 （ø3.5 mm） RCA × 1（ステレオ）	
	音声出力		HDMI[*4] ステレオミニプラグ[*3] × 1 （ø3.5 mm） RCA × 1（ステレオ）	
	ネットワーク		RJ45 × 2 （100BASE-TX 全二重）	RJ45 × 1 （100BASE-TX 全二重）
	外部制御		RS-232C × 1 （メンテナンス用兼用）	
	その他		USB × 1、カメラ制御端子 × 1（未使用）	
同時接続地点数			6 （最大10まで拡張可能）	4
コンテンツ共有			PC （RGB／HDMI）、サブカメラ（HDMIサブ）	
USBメモリー			バージョンアップ インポート：設定データ／アドレス帳／プロファイル／起動画面 エクスポート：設定データ／アドレス帳／プロファイル	
ネットワークプロトコル			TCP/IP、UDP/IP、DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、TELNET、NTP	
ネットワーク機能			パケット再送（ARQ）、前方誤り訂正（FEC）、最適レート 制御（ARC）、リオーダー、パケットシェーピング、 ポートの任意設定、NAT対応、暗号化、IP Precedence／DiffServのサポート	
外部制御			Webブラウザ経由／HTTP CGIでの制御、TELNET、 RS-232C	
接続モード			標準モード、つながるねっとサービスモード	
外形寸法（幅×奥行き×高さ）			約320 mm × 約230 mm × 約60 mm	
質量			約2.0 kg	
使用電源			AC 100 ～ 240 V[*5]、 ～ 1.4 A、50／60 Hz	

本体	KX-VC1600J	KX-VC1300J
消費電力	最大時：45 W、待機時：0.6 W	最大時：43 W、待機時：0.6 W
本体入力電源	DC 24 V、2.5 A	
動作温度	0 ℃ ～ 40 ℃	
動作湿度	10 % ～ 90 %（結露なきこと）	

*1 HDコムの設定やネットワークの状況により、変化します。
*2 HDCPには対応していません。
*3 3極ステレオミニプラグ専用です。
*4 HDMI1／HDMI2に同時に音声を出力することはできません。
*5 電源コードはAC 100 V 専用です。

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

お買い上げ先	
電　話	（　　）　　－
お買い上げ日	年　月　日

修理を依頼されるときは

「困ったとき」（156 ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下の内容をご連絡ください。

●製品名　HD 映像コミュニケーションユニット

●品　番　KX-VC1300J/KX-VC1600J

●故障の状況　できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間 ： お買い上げ日から本体 1 年間
ただし、リモコンの乾電池は、消耗品ですので保証期間内でも「有料」とさせていただきます。

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料　**診断・修理・調整・点検などの費用**

部品代　**部品および補助材料代**

出張料　**技術者を派遣する費用**

※補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

・正常な使用状態で本装置に故障が生じた場合、当社は本装置の保証書に定められた条件に従って修理をさせていただきます。ただし、落雷や停電などの外部要因、または本装置の故障、誤動作等で、本装置が使えなかったことによる付随的被害の補償については、当社はその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
・説明書に記載されている内容は、製品のバージョンアップなどに伴い、将来予告無しに変更することがあります。

索引

英数字
GUIの設定　133
H.323の設定をする　128
KX-VCS304W（4地点接続拡張用アクティベーションキー）　19
KX-VCS701W（つながるねっとサービス1年延長用アクティベーションキー）　19
KX-VCS703W（つながるねっとサービス3年延長用アクティベーションキー）　19
MCUに接続する　63
MPR IDを確認する　137
Registration Key（レジストレーションキーを登録する）　137
SIPの設定をする　127

あ行
アクティベーションキー　19
アクティベーションキー、4地点接続拡張用（KX-VCS304W）　19
アクティベーションキー、つながるねっとサービス1年延長用（KX-VCS701W）　19
アクティベーションキー、つながるねっとサービス3年延長用（KX-VCS703W）　19
宛先を直接入力して発信する　54
アドレス帳に登録　94
アドレス帳から発信する　50
アドレス帳を削除　95
アドレス帳を編集　95
暗号通信の設定　123
安全上のご注意　11
アンプ／アクティブスピーカー　33
音の設定　111
親拠点　3
音量　73
お手入れ　151

か行
拡張機能を有効にする　137
各部のなまえとはたらき　20
画面の見かた　38
画面レイアウトを変更する　68
管理者パスワードの設定　123
機器情報　93, 116
機器名称の設定　105
ケーブル　27
言語の設定　115
コーデックの設定　130
子拠点　3
困ったとき　156

さ行
サブビデオカメラ　32
自己診断を行う　117
システムの初期化を行う　140
自動応答　62
手動応答　61
仕様　177
肖像権　16
状態ランプ　25
情報の保護　16
初期設定　45
スクリーンスタンバイ　25
スクリーンスタンバイの設定　111
セキュリティー　16
接続
　アンプ／アクティブスピーカー　33
　サブビデオカメラ　32
　パソコン　32
接続機器　27
接続状況　92
接続端子　21
専用マイク　19

た行
ワンタッチダイヤルで発信する　48
着信に応答する　61
通信タイプの設定　126
通信の設定　107
通信履歴から発信する　57
電源ボタン　20
電池交換　150
同梱物　17

な行
日時の設定　105
ネットワークの設定　105
ネットワーク接続の確認を行う　116
ノイズを減らす　76

は行
バージョンアップ確認の設定　124
バウンダリーマイクロホン
　専用アナログマイク　19, 29

専用デジタルマイク　19, 28
パソコン　32
パソコンやサブビデオカメラの映像を共有する　77
発信する　48
発信元の設定　100
ビデオカメラを操作する　80
プライバシー　16
プロファイルから発信する　52
ヘッドセット　31
別売品　18
ボタン
電源　20
リモコン　23

ま行

マイク位置の設定　112
マイクオフ　74
文字入力　152

ら行

リモートメンテナンスを行う　117
リモコン　23, 36
リモコンの設定　114

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電 話 フリーダイヤル **0120-878-410**（バナハ ヨイワ）　**受付：9時～17時30分　（土・日・祝祭日は受付のみ）**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://sec.panasonic.biz/solution/info/

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒812-8531　福岡市博多区美野島四丁目1番62号
© Panasonic System Networks Co., Ltd. 2014

PGQX1770ZA PD1014TP0